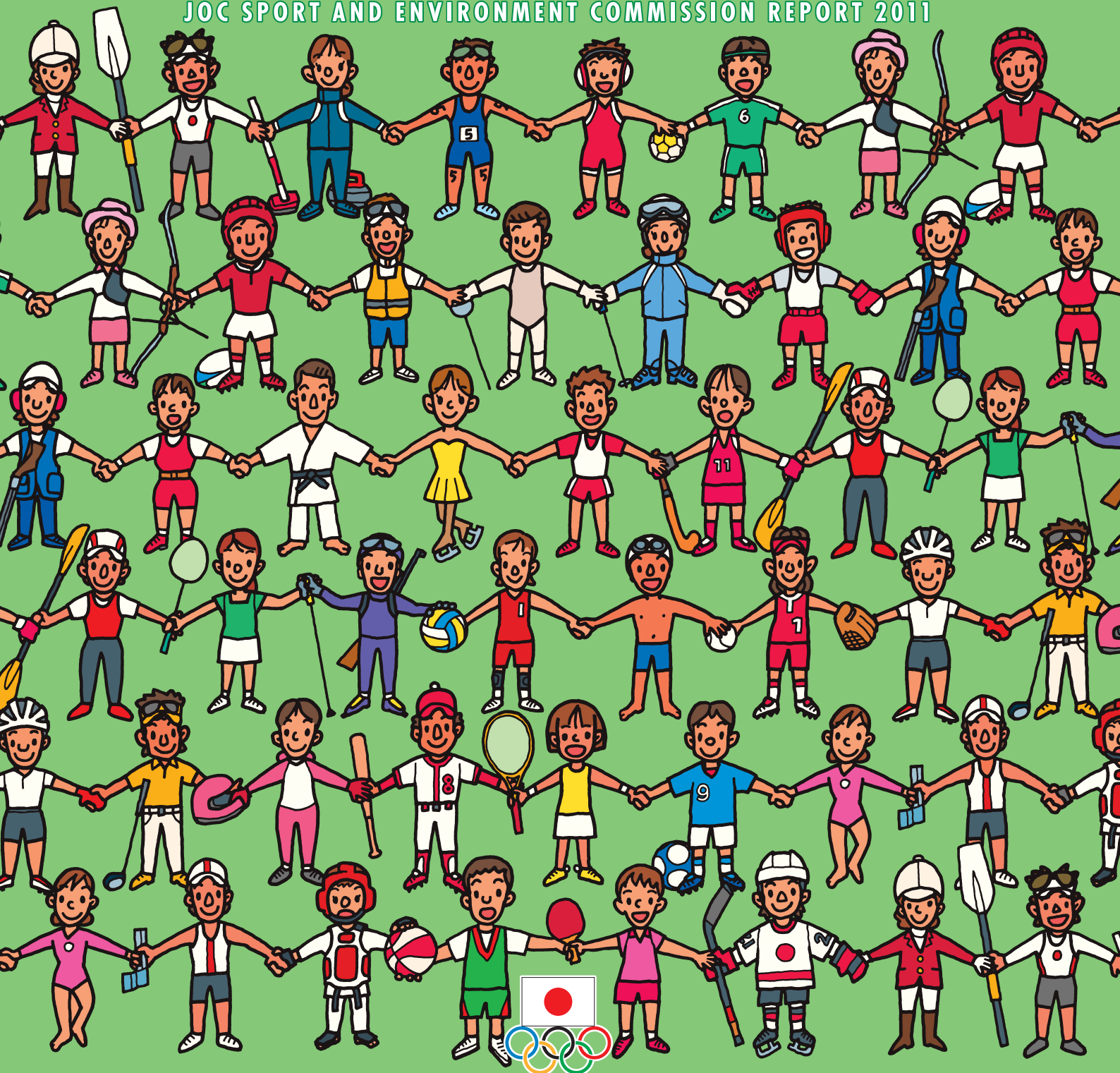


平成23年度

スポーツ環境専門部会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2011



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会

平成23年度

スポーツ環境専門部会 活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

●第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー(神戸市：JOCパートナー都市)

会期：2011年9月16日／会場：神戸市勤労会館 講堂／参加人数：約200名



前列左から、水野正人 JOC 副会長兼 IOC スポーツと環境委員会委員、市原則之 JOC 副会長兼専務理事、永井秀憲 神戸市教育委員会教育長、佐藤征夫 JOCスポーツ環境専門部会長、佐野和夫日本水泳連盟 会長兼 JOC スポーツ環境専門部会副会長、後列左から、清田美絵ヴィッセル神戸、鈴木 絵美子オリンピック、平松純子 JOCスポーツ環境専門部会会員、瀬古利彦オリンピック



佐藤征夫 JOCスポーツ環境専門部会長



水野正人 JOC 副会長兼 IOC スポーツと環境委員会委員



市原則之 JOC 副会長兼専務理事



永井秀憲 神戸市教育委員会教育長



左から、平松純子 JOC スポーツ環境専門部会長、瀬古利彦、鈴木絵美子オリンピック



佐野和夫 日本水泳連盟会長



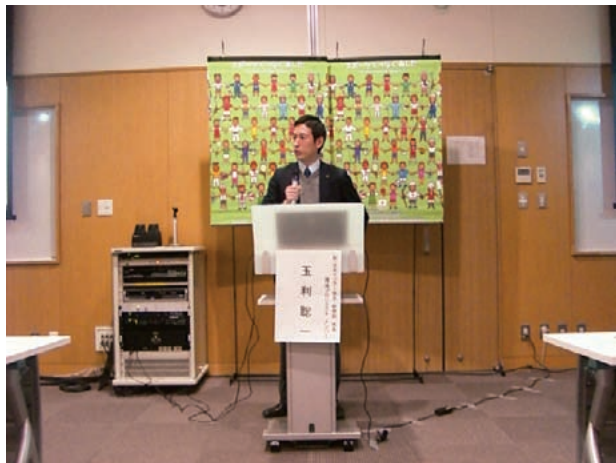
清田美絵 ヴィッセル神戸

●第8回スポーツと環境担当者会議

会期：2011年12月2日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：約70名



佐藤征夫 JOC スポーツ環境専門部会長



玉利聡一 日本サッカー協会



佐野和夫日本水泳連盟 会長兼 JOC スポーツ環境専門部会副部会長



水野正人 IOC スポーツと環境委員



会場風景

日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●全国女性委員会議

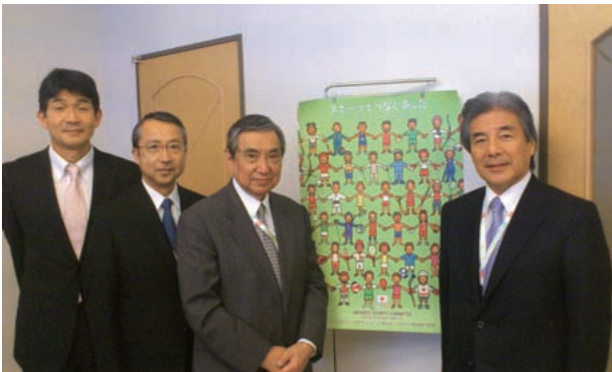
会期：2012年2月11日／会場：岸記念体育会館



(正面下段中央) 小松女性委員長、各加盟団体女性委員

●名古屋ウィメンズマラソン2012

会期：2012年3月11日／会場：ナゴヤドーム



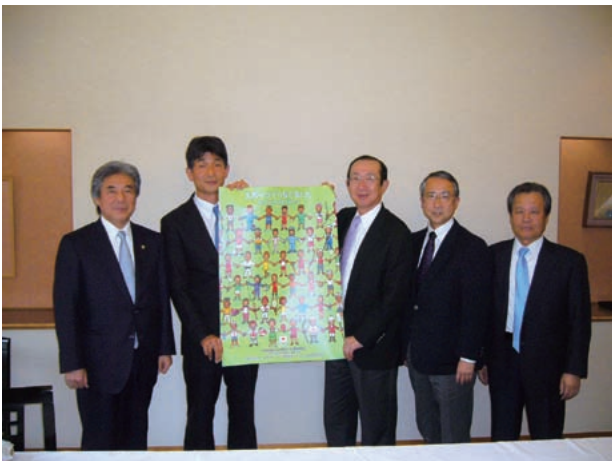
(左から) 尾縣専務理事、横川副会長、河野会長、中曽根評議員会議長



尾崎好美選手 (名古屋ウィメンズマラソン2012の日本人トップ)

●第14回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会

会期：2012年3月11日／会場：ナゴヤドーム



(左から) 中曽根評議員会議長、尾縣専務理事、日清食品ホールディングス株式会社・安藤社長、横川副会長、日清食品ホールディングス株式会社・中川副社長

●グリーンプロジェクト(花の種)



※各大会で配布した、花の種

日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

● “IOC Award for the Sport and Environment 2011 (IOCスポーツと環境賞)”授賞式

会期：2011年4月30日／会場：カタール・ドーハ



パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長（ハンガリー大統領）よりトロフィーを授与される佐野和夫会長（スポーツ環境委員長）



ジャックロゲ IOC 会長と各受賞団体代表者の方々

●スクリーン使用による紙の削減対策

会期：2011年4月9日～11日

会場：静岡県・浜松市総合水泳場「ToBiO」



競泳国際大会代表選手選考会監督者会議にて

●第3回エココンテスト表彰式(エコアクションコンテスト)

会期：2011年5月20日／会場：大阪府立門真スポーツセンター（JAPAN OPEN2011 開始式）



エコアクションコンテストグランプリ受賞者・金野幸浩さん（スウィン鴻巣 SS）と佐野和夫会長



表彰式において水野正人 IOC スポーツと環境委員（JOC 副会長）からの激励と環境アピール（大阪・なみはやプール）

●OWS大会でのビーチクリーニング

会期：2011年7月17日／会場：千葉県・館山市北条海岸



参加者、観客、スタッフ、役員など、全員参加によるビーチクリーニング

●環境横断幕の掲示 ジャパンマーメイドカップ

会期：2011年8月13日～14日／会場：京都アクアリーナ



●第66回国民体育大会

会期：2011年9月9日～11日

会場：山口きらら博記念公園水泳プール



●FINA 競泳ワールドカップ東京2011

会期：2011年11月12日～13日／会場：東京辰巳国際水泳場



日本サッカー協会

Japan Football Association

●FC東京／ホームゲーム開催時の環境啓発及び清掃活動

会期：2011年度各ホーム試合／会場：東京・味の素スタジアム



●川崎フロンターレ／ホームゲーム開催時イベント「エコ暮らしこフェア」

会期：2011年9月24日／会場：神奈川県・等々力陸上競技場／参加人数：約5千名



●JFA／キリンカップサッカー 2011 日本代表 対 チェコ代表 清掃活動

会期：2011年6月7日／会場：神奈川・日産スタジアム／参加人数：395名



全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

● オリンピックデー・フェスタin雫石

会期：2011年2月4日～5日／会場：岩手県雫石町 雫石スキー場



イベントに参加した小学生150名の集合写真



海外からのゲスト招聘に協力を行った。
イベントのゲストとして海外から参加したオリンピック
左：ユーリ・フランコ（スロベニア）
右：K. A. オーモット（ノルウェー）

● FISジャンプワールドカップレディース2012 蔵王大会

会期：2011年3月3日～4日／会場：山形県山形市 蔵王ジャンプ台



競技会場内に環境啓発バナーを掲出



環境啓発ポスターと鈴木洋一会長



環境啓発ポスターと岡山紘一郎専務理事

● 「I LOVE SNOW」One's Handsキッズスノーフェスタ 2012 in 岩手

会期：2012年3月23日

会場：岩手県北上市 夏油高原スキー場



イベントに参加した東日本大震災で被災した小学生に笑顔が戻る

● 「I LOVE SNOW」One's Handsキッズスノーフェスタ 2012 in 福島

会期：2012年3月29日

会場：福島県北塩原村 裏磐梯猫魔スキー場



日本テニス協会

Japan Tennis Association

●ニッケ全日本テニス選手権86th

会期：2011年11月2日～13日／会場：有明コロシアム
参加人数：選手256名 観客28,467名



女子シングルス決勝戦後 日本テニス協会渡辺副会長 中西大会ディレクター・川延レフェリーとともに

●ダンロップ 全日本ジュニアテニス選手権'11 supported by NISSHINBO

会期：2011年7月31日～8月7日／会場：韮テニスセンター
参加人数：選手960名 観客：5,000名



18才以下16才以下表彰式後に 盛田名誉会長 中西大会委員長とともに



14才以下12才以下表彰式後に

●講習会名：第22回JTAカンファレンス

会期：3月10日～11日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：550名



●2011 グラスホッパージュニア全日選手権大会

会期：2011年8月5日～11日／会場：グラスコート佐賀テニスクラブ／参加人数：選手128名 観客400名



●テニスの日 ポールのリユース回収

会期：2011年9月23日／会場：有明テニスの森 ほか47都道府県にて／参加人数：20000名



●M3D甲府国際オープンテニス

会期：2011年10月3日～8日／会場：山梨学院大学横根運動場／参加人数：選手128名 観客2000名



日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●高円宮杯2011男子日本リーグ 第4節

会期：2011年6月18日～6月19日／会場：飯能市阿須ホッケー場(埼玉県)



試合風景



オフィシャルテーブル

●第12回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

会期：2011年11月12日～11月13日／会場：越前町立ホッケー場(福井県)



競技役員



試合風景

●第85回全日本男子ホッケー選手権大会

会期：2011年12月9日～12月11日・12月18日／会場：岐阜県グリーンスタジアム(岐阜県)



競技役員



試合風景

日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

- 第64回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会
- 第58回 秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会

会期：2010年12月5日～11日／会場：とどろきアリーナ 他



●JVAバレーボールバンクの活動



開会式前に出場校各校にポスターとリーフレットを配布いただきました。



東京武道館



多摩スポーツセンター



駒沢体育館・屋内球技場各会場の受付周りにポスターを掲出し、受付にリーフレットを設置



等々力アリーナ会場エントランス付近でポスターを掲示
受付机にリーフレット設置



会場内通路扉にもポスターを掲示

日本体操協会

Japan Gymnastic Association

●第13回全日本新体操チャイルド選手権／第10回全日本新体操キッズコンテスト

会期：2011年2月25～27日／会場：東京体育館



加盟団体である日本新体操連盟主管大会での横断幕設置

●2011年国際ジュニア体操競技大会

会期：2011年9月24～25日／会場：横浜文化体育館



国際競技会における横断幕設置



個人総合表彰式



個人総合優勝した日本の野々村笙吾選手とアメリカのPRIESSMAN選手

日本バスケットボール協会

Japan Basketball Association

●「東日本大震災」被災地復興支援 第87回・第78回 全日本総合バスケットボール選手権大会

会期：2012年1月1日～9日

会場：国立代々木競技場第1体育館他



(左から) 品田典義大会副委員長、樋口隆之専務理事による環境啓発活動

●「東日本大震災」被災地復興支援 バスケットボール男子日本代表 国際親善試合2011

会期：2011年6月30日～7月3日

会場：国立代々木競技場第2体育館他



会場内にて環境バナーとポスターの掲出 (平成23年度男子日本代表チーム)

●「東日本大震災」被災地復興支援 バスケットボール男子日本代表 女子親善試合2011

会期：2011年8月3日～8月7日

会場：シーハットおおむら他



会場内にて環境バナーとポスターの掲出 (平成23年度女子日本代表チーム)

●「東日本大震災」被災地復興支援 JX-ENEOS ウィンターカップ2011 平成23年度 第42回全国高等学校バスケットボール選 抜優勝大会

会期：2011年12月23日～12月29日 / 会場：東京体育館



会場内にて環境バナーとポスターの掲出



環境ブースの設置「ペットボトルキャップでシュート!」



大会公式プログラムに環境ページを掲載

財団法人 日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●2012世界ジュニアスピードスケート選手権大会

会期：2012年3月2日～4日
会場：北海道帯広市・明治北海道十勝オーバル



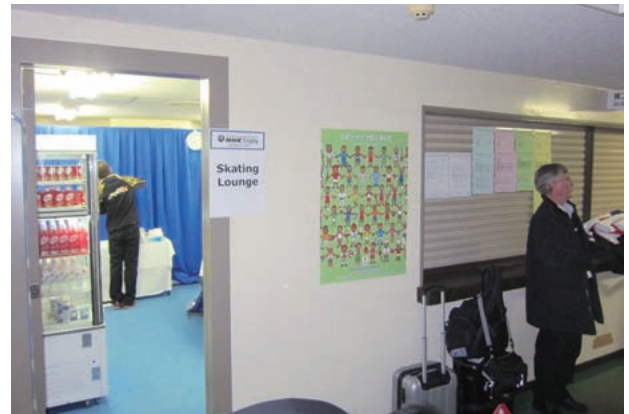
●ワールドカップショートトラック名古屋大会

会期：2011年12月2日～4日
会場：愛知県名古屋市・日本ガイシスポーツプラザ



●ISUグランプリNHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2011年11月11日～13日／会場：北海道札幌市・真駒内セキスイハイムアリーナ



●スピードスケートジュニアワールドカップファイナル

会期：2012年3月8日～10日／会場：北海道帯広市・明治北海道十勝オーバル



日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●第6回日光杯 全日本女子中学・高校生アイスホッケー大会

会期：2011年12月23日～25日 3日間／

会場：栃木県日光市 栃木県立日光霧降アイスアリーナ・日光市細尾ドームリンク



のぼり旗による環境啓発活動及び再生容器の回収活動状況



観客席での JOC 啓発バナー掲示及び選手達の再生容器使用



エコブース設置状況（リンク内観客スペース）



エコブース設置状況（リンク内観客スペース）



JOC 啓発バナーと優勝した釧路選抜チーム



地域ボランティアによるおもてなしエコ活動状況

日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●ジュニアクイーンズカップ・レスリング選手権大会

会期：2011年4月2日～3日／会場：駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館



全日本女子レスリング連盟 小野清子会長



審判員の皆さん（小学生、中学生、カデット、ジュニアの部）

●第28回全国少年少女選手権大会

会期：2011年7月29日～31日／会場：新潟県新潟市東総合スポーツセンター



大会会場風景



松永二三男元日本テレビアナウンサーによる試合の解説

●平成23年度エリート合宿

会期：2011年9月16日～19日

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター



審判員の皆さん



スポーツと環境についての講義
参加対象は、全国大会優勝の5～6年の男女

日本ウエイトリフティング協会

Japan weightlifting Association

●第13回全日本高等学校女子競技選手権大会

会期：2011年7月23日／会場：新潟県ニューグリンピア津南／参加人数：101名



啓発バナーを持つ団体優勝した豊見城高校チーム

●第32回全日本ジュニア選手権大会

会期：2011年3月9日～11日／会場：石岡市石岡運動公園体育館／参加人数：53名



53kg 級優勝者 八木かなえ選手



金沢学院大学チーム

●第25回全日本中学生選手権大会

会期：2011年8月17日～18日／会場：九州国際大学KIUドーム／参加人数：73名



会議資料（針なしホッチキス）

●第47回全日本社会人選手権大会

●第3回全日本女子選抜選手権大会

会期：2011年11月18日～20日／
会場：土岐市産業文化振興センター／参加人数：242名



啓発バナーの掲示

日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

●第36回日本ハンドボールリーグプレーオフ

会期：2011年3月10日～11日／会場：東京都・世田谷区：駒沢体育館／参加人数：選手120名、観客5,000名



左から山下副会長、多田副会長、齋藤 JHL 副会長、竹田 JOC 会長、令夫人、令夫人、市原 JOC 副会長

●高松宮記念杯第1回全日本社会人選手権（旧実業団選手権）

会期：2011年7月13日～17日／会場：北海道・函館市：函館市民体育館他／参加人数：選手250名、観客8,000名



●高松宮記念杯第62回全日本高校選手権大会

会期：2011年7月29日～8月3日／会場：岩手県・花巻市：花巻市総合体育館他／参加人数：1,500名、観客12,000名



●第63回全日本総合ハンドボール選手権大会

会期：2011年12月21日～25日／会場：神奈川県・横浜市：横浜国際プール／参加人数：選手440名、観客10,000名



●第20回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会

会期：2011年12月24日～28日／会場：愛知県・名古屋市：愛知県体育館他／参加人数：選手750名、観客7,000名



開会式

●プログラム掲載



第36回日本ハンドボールリーグ2011-2012オフィシャルプログラム

日本自転車競技連盟

Japan Cycling Federation

●日本スポーツマスターズ石川大会2011自転車競技会

会期：2011年9月17日～19日／会場：石川県津幡市



ロード・レース・コースのフェンスにバナーを掲示

●第66回国民体育大会自転車競技会

会期：2011年10月5日～9日／会場：山口県防府市 防府競輪場



走路フェンスにバナーを掲示



ゴミの分別回収を徹底

●第7回全国ジュニア自転車競技大会

会期：2011年10月30日／会場：三重県四日市市水沢・桜地区



ロード・レース・コース脇にバナーを掲示



ゴミは分別回収

日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●「チャレンジ25キャンペーン」ロゴマーク挿入



平成23年度会員ゼッケン



本会名刺

●全日本選手権大会(一般・ジュニアの部)

会期：2012年1月17日～22日／会場：東京体育館



今回より20L ボトルタンクを設置



500ml ペットボトルは1人一日1本にし、ボトルタンクより補充してもらう



大会プログラムに「WARM BIZ」の広告を入れ、来場者に環境についての啓発活動



会場入り口にて環境ブースの設置

日本相撲連盟

Japan Sumo Federation

●第90回東日本相撲選手権大会

会期：2011年6月5日／会場：両国国技館



開会式を待つ選手たち



国技館での開会式を待つ会場
(第90回記念東日本学生相撲選手権大会)

●第60回記念東日本学生相撲リーグ戦

会期：2011年9月4日／会場：靖国神社相撲場



優勝チーム（日本大学）が土俵上で横断幕祝勝



ゴミを集積所に集める学生たち（このゴミは靖国神社の係員の皆さんが境内の集積所に移動）

●第36回東日本学生相撲個人体重別選手権大会

会期：2011年8月28日／会場：靖国神社相撲場



開会式を待つ会場

●第60回記念全日本相撲選手権大会

会期：2011年12月4日／会場：両国国技館



国技館内のいたるところに「ゴミ分別」ポスターを掲示している

日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●環境ポスター



左から 嘉納寛治副会長、竹田恆和副会長、米山 順副会長、山内英樹理事長

●第28回全日本ジュニア馬場馬術大会2011

会期：2011年7月16日～18日
会場：御殿場市馬術・スポーツセンター



競技会場に啓発バナー掲示

●第35回全日本ジュニア障害馬術大会2011

会期：2011年8月4日～7日／会場：山梨県馬術競技場



ジュニア選手の表彰

●第63回全日本障害馬術大会2011 Part I

会期：2011年11月17日～20日
会場：日本中央競馬会 馬事公苑



競技会場に啓発バナー掲示

●機関誌「馬術情報」



全会員、一般購読者に配布

●日本馬術連盟が配布したエコバッグ



エコマーク入り

●競技大会で使用するエコベスト



エコマーク入り

全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

会期：2011年9月10日～11日
会場：埼玉県 埼玉県立武道館



●平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

会期：2011年9月10日～11日
会場：埼玉県 埼玉県立武道館



●平成23年度柔道フェスタ

会期：2011年10月10日／会場：茨城県 茨城県武道館



●平成23年度柔道フェスタ

会期：2011年10月10日／会場：滋賀県 滋賀県立武道館



穴井隆将選手（左上）、浅見八瑠奈選手（左下）
田知本 愛選手（右上）、平岡拓晃選手（右下）

●平成23年度柔道フェスタ

会期：2011年10月10日
会場：鳥取県 鳥取県立武道館



西田優香選手（左）、上野順恵選手（右）

●平成23年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2011年11月12日～13日
会場：千葉県 千葉ポートアリーナ



日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●第61回全日本実業団バドミントン選手権大会

会期：2011年6月29日／会場：金沢市いしかわ総合スポーツセンター



左から石川県バドミントン協会会長 高澤 基、公益財団法人 日本バドミントン協会会長 綿貫民輔、前田美順選手、公益財団法人 日本バドミントン協会副会長 三宅祐司

●バドミントン日本リーグ2011高岡大会

会期：2011年11月5日／会場：高岡市民体育館



●平成23年度全日本総合バドミントン選手権大会

会期：2011年12月11日／会場：東京代々木第二体育館



左から公益財団法人 日本バドミントン協会会長 綿貫民輔、潮田玲子選手、池田信太郎選手



左から公益財団法人 日本バドミントン協会会長 綿貫民輔、奥原希望選手



味の素ナショナルトレーニングセンターにおけるゴミの分別

日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●第66回国民体育大会

会期：2011年10月2日(日)～10月4日(火)／会場：広島県安芸太田町・つつがライフル射撃場



射撃場内に掲示した啓発ポスターの前で
左から来栖行正国体委員長、松田知幸選手（神奈川県警察）



会場でのゴミの分別

●第5回全国理事会

会期：2012年2月25日(土)／会場：東京都渋谷区・フォーラム8会議室



会議場内での啓発ポスター掲示



左から藤井優副会長、佐川肇副会長、松丸喜一郎専務理事

●ライフル射撃情報誌への環境ポスターの掲載



全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

●中古防具の海外寄贈事業



武道具製造職人さんによる胴の補修作業



武道具製造職人さんによる面の補修作業

●剣道具贈呈式の現地新聞報道

会場：モンテネグロ日本大使館



武道具製造職人さんによる小手の補修作業



(在モンテネグロ日本大使館にて)

●北の丸事務所リサイクルボックス



●九段事務所リサイクルボックス



日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

●第8回チャレンジ近代五種国際大会 in 千葉 兼第6回JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2011年9月4日／会場：日本エアロビクスセンター／参加人数：●●●●



射撃講習ではフロンガス・鉛弾を使わない環境にやさしいAPS-3を紹介



現役近代五種選手によるデモンストレーション



BB 弾を撤去



環境備品にてゴミの分別



環境ポスターの展示



大会参加者とスタッフの集合写真

日本ラグビーフットボール協会

Japan Rugby Football Union

●FOR ALL「TRY for GREEN」プロジェクト 北海道網走市 森林保全活動へ寄付—今シーズン全697トライ分の寄付金を水谷 洋一 網走市長へ寄託—

会期：2012年2月27日／会場：「ジャパンラグビー トップリーグ2011-2012 年間表彰式」会場にて



(C) 2012, JRFU (photo by H.Nagaoka)

ジャパンラグビー トップリーグは、環境保全活動の一環として、シーズンを通して実施してまいりました「TRY for GREEN」で集まった寄付金1,394,000円を、「ジャパンラグビー トップリーグ2011-2012 年間表彰式」にて、トップリーグの選手を代表してキャプテン会議代表の廣瀬 俊朗選手（東芝ブレイブルーパス）より水谷 洋一網走市長へ寄託いたしました。本寄付金は、ラグビーゆかりの地でもある北海道網走市の植林活動ならびに森林保全活動に役立てていただきます。

●試合開催時にゴミ分別協力とともに「エコキャップ運動」展開中

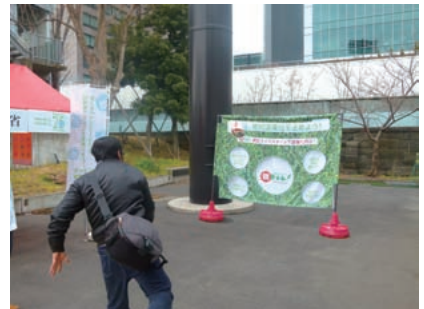
会期：年間活動／会場：秩父宮ラグビー場



来場者のご協力を得てペットボトルのキャップを外して集めることによって、「資源のリサイクルを促進（再資源化）」することで「CO2排出量の削減」を実現するとともに、「キャップの再資源化で得る売却益」を以って、「発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動への協力」を可能にするという、言わば「環境」「資源」「福祉」といった現代の社会的テーマにチャレンジする運動です。

●「ジャパンラグビートップリーグ2011-2012 プレーオフトーナメント」ファイナル

会期：2012年2月26日／会場：秩父宮ラグビー場



チャレンジ25キャンペーン（環境省）との連携により、「朝チャレ!（ unnecessary夜の電力消費を抑え、充実したエコライフを過ごす新型生活にチャレンジ）」推進の一環として「ジャパンラグビートップリーグ2011-2012 プレーオフトーナメント」の開催会場において、チャレンジ25宣言受付＆「朝チャレ!」スローイングターゲットコーナー設置普及啓発活動を展開した

日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

●第25回リードジャパンカップ

会期：2011年6月4～5日／会場：山口県・山口市



●ジュニア登山 in 立山 2011

会期：2011年8月10～13日／会場：富山県・立山町



●ジュニアオリンピックカップ大会

会期：2011年8月14～16日／会場：富山県・南砺市



●IFSC 世界ユース選手権

会期：2011年8月25～66日／会場：オーストリア



●第35回自然保護委員総会

会期：2011年10月15～16日／会場：鳥取県・大山町



●日中韓三国合同登山技術研修会

会期：2012年1月14～20日／会場：富山県・立山町



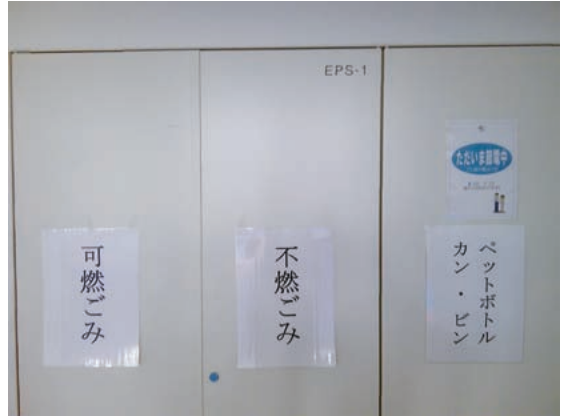
全日本空手道連盟

Japan Karatedo Federation

●年間を通じた環境活動の取り組み



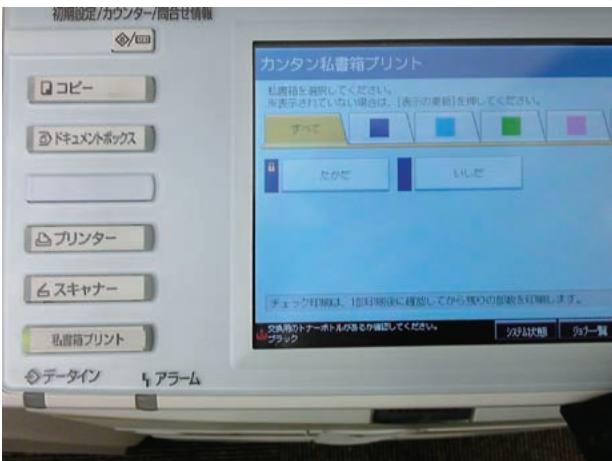
日本空手道会館内の廊下の様子
両方とも11:00ごろの撮影。自動販売機の明かりも消している。



館内掲示物
講習会等で使用する大・中道場に設置したゴミの分別収集を呼び掛ける掲示物（左）と、人が多く出入りする事務室内に掲示された環境ポスター（右）



エレベーターの使用を控えるよう呼びかける掲示物（左）と、エアコンの設定温度を控えめに設定するよう呼びかける掲示物（右）



印刷を実行する前に確認をすることにより無駄をなくし、紙の使用を削減した。



針なしのホチキスを導入し、会議資料等に活用した。

全日本銃剣道連盟

All Japan Jukendo Federation

●平成23年度銃剣道・短剣道高段者指導者研修会

会期：2011年11月11日～13日
会場：日本武道館研修センター



●関東地区銃剣道・短剣道・新版研修会、高段者研修会

会期：2011年10月13日～16日
会場：神奈川県武山駐屯地体育館



●平成23年度銃剣道・短剣道高段者指導者研修会

会期：2011年11月11日～13日
会場：日本武道館研修センター



全日本ボウリング協会

Japan Bowling Congress

●平成23年度第1回定時評議員会、第2回理事会

会期：2011年5月29日／会場：田町ハイレーン(東京都港区)／参加人数：約100名



会場正面にポスターを掲示



会場側面にもポスターを掲示

●JOCジュニアオリンピックカップ 第35回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2011年7月25日～26日／会場：品川プリンスホテルボウリングセンター(東京都港区)／参加人数：選手約250名



左：男子優勝者 工藤壽紀選手
中：女子優勝者 岡本美月選手
右：協会赤木名誉会長



大会プログラムに啓発用広告を掲載

●文部科学大臣杯争奪 第50回全日本ボウリング選手権大会

会期：2012年3月17日～20日／会場：稲沢グランドボウル(愛知県稲沢市)／参加人数：選手約600名



会場コンコースにスクリーンを設置



常設のモニターも成績公開に利用

全日本アマチュア野球連盟

Baseball Federation of Japan

●連盟としての環境活動の様子



7月23日 苫小牧国有林一植樹関係者記念撮影



7月23日 苫小牧国有林-北海道日本ハムファイターズ鶴岡慎也選手の植林の様子



林野庁皆川長官からの感謝状



折損バットのリサイクル製品「カットバシ」



募金活動で使用するミニバット「Bat Forever」

日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●グリーントライアスロン in 横浜

会期：2011年8月20日／会場：山下公園



スイムコースの海底にあるゴミを引き上げ、会場で展示を実施



大会スポンサーの協力を得て、大会会場の山下公園内の清掃を実施



スイムエリア近辺に生息する海の生物を「タッチプール」で紹介

●グリーントライアスロン in 横浜

会期：2011年9月18日・19日／会場：山下公園



EXPO 会場テント。来場者にグリーントライアスロンの活動を PR



“グリーン” を身につけた来場者には記念グッズ（Tシャツまたは靴紐）を進呈

●グリーントライアスロン in お台場

会期：2011年10月16日／会場：お台場海浜公園



横浜大会同様 “グリーン” を身につけた来場者に記念グッズ（Tシャツまたは靴紐）を進呈



大会会場内に設置した「グリーントライアスロン」ブース

日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●チャリティースカッシュ 2011

会期：2011年6月25日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE



会場に貼られた JOC の環境ポスターと、JSA のエコキャンペーンバナーを持つ渡邊祥広常務理事（左）と出口陽夫大会実行委員長

●第25回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

会期：2011年8月17日～20日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE



ジュニア選手がマイボトルにドリンクを汲んでいるのを見守る、佐野公彦大会実行委員長と宮城島環境対策委員長（常務理事）

●第40回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2011年11月23日～27日／会場：ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE



会場に貼られた JOC の環境ポスターと JSA のエコキャンペーンポスターの前に立つ大根田芳浩大会実行委員長（常務理事・左）と潮木仁常務理事



左から日向孝知常務理事、梶田幸子事務局長



スタッフはマイカップ持参でゴミ軽減に務めた



観客が自発的に靴袋のリユースを行った

日本ボディビル連盟

Japan Bodybuilding Federation

● オールジャパンミスボディフィットネス選手権

会期：2011年8月7日／会場：長野県中野市民会館



● 第3回日本クラシックボディビル選手権大会

会期：2011年8月7日
会場：長野県中野市民会館



● 第57回男子日本ボディビル選手権大会

● 第29回女子日本ボディビル選手権大会

会期：2011年10月10日
会場：メルパルク東京



● 総会にて

会期：2011年3月26日



日本ボート協会

Japan Rowing Association

●第89回全日本選手権大会

会期：2011年9月15～18日／会場：戸田ボートコース



最終日に会場清掃ボランティアに参加された皆さん



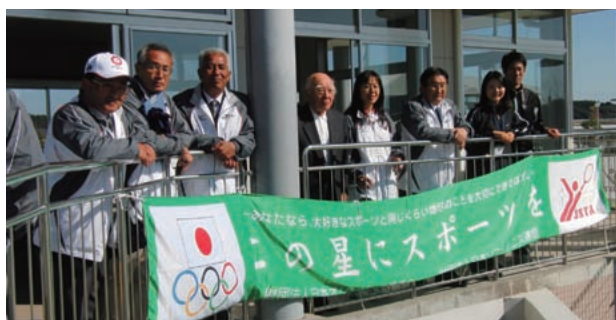
日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●第6回 ジュニアジャパンカップ 競技者育成プログラム(Step-4)

会期：2011年11月18日～21日

会場：宮崎県宮崎市 生目の杜運動公園テニスコート



横断幕の前に公益財団法人日本ソフトテニス連盟役員
左から本田 茂雄生涯スポーツ委員長、井上 創マネジメント部会長、藤原 伸二審判委員長、表 孟宏副会長、一人置いて野際 照章指導委員長

●第66回 国民体育大会

会期：2011年10月2日～5日

会場：山口県宇部市 宇部マテ“フレッセラ”テニスコート
(中央公園テニスコート)



大会会場でゴミの分別に協力依頼をする大会役員

●全国指導者研修会議



挨拶をする笠井 達夫専務理事



講演をする北本 英幸理事

全日本軟式野球連盟

Japan Rubber Baseball Association

●天皇賜杯第66回全日本軟式野球大会

会期：2011年9月16～22日／会場：岩手県営野球場



競技会場にて

●高円宮賜杯第31回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント

会期：2011年8月9～15日／会場：神宮球場



競技会場の観客席に啓発バナーを掲出

●日本体育協会公認コーチ養成専門科目講習会

会期：2011年11月2日～6日
会場：ホテルワイナリーヒル(志太スタジアム)



講習会場に啓発バナーポスターを掲出

日本フェンシング協会

Federation Japonaise d'Escrime

●第19回JOCジュニアオリンピックカップ選手権大会

会期：2012年1月7日～10日／会場：駒沢オリンピック公園体育館



日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第44回日本女子ソフトボールリーグ 決勝トーナメント

会期：2011年11月5日～6日／会場：京都府京都市 わかさスタジアム京都



入場口・リーグポスターと啓発ポスター



ライト側フェンスに設置した環境啓発バナー

全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

●平成24年度錬士号取得特別講習会

会期：2011年2月18日・19日／会場：全日本弓道連盟中央道場



啓発ポスターの掲示（礼の稽古）



弓道をとし心を磨き鍛える参加者



スポーツと環境に関するレクチャー

日本カヌー連盟

Japan Canoe Federation

●平成23年度カヌーポロU21日本代表強化合宿

会期：2011年8月7日

会場：愛知県みよし市 保田ヶ池カヌーポロ競技場



全日本アーチェリー連盟

All Japan Archery Federation

●ナショナルチーム3月強化合宿

会期：平成24年3月5日～8日／会場：国立スポーツ科学センター(JISS)陸上競技実験場



写真前列左より：鬼山選手、天野選手、菊池選手（オリンピック内定）、大久保選手、早川選手（オリンピック内定）、杉浦コーチ
写真後列左より：新海チームリーダー、石津選手、古川選手、田畑選手、平選手、川中選手、蟹江選手、松木コーチ

日本カーリング協会

The Japan Curling Association

●第29回全農日本カーリング選手権大会

会場：青森市スポーツ会館



第29回全農日本カーリング選手権大会 青森市スポーツ会館にて

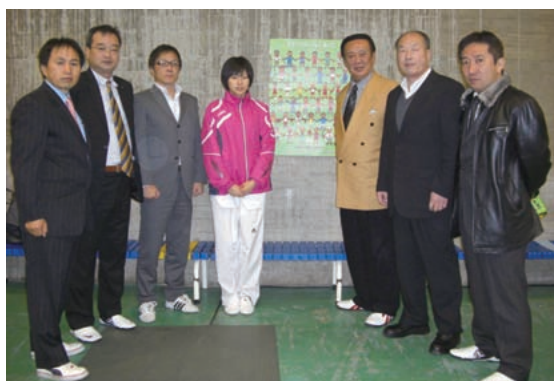


全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

●第5回全日本学生テコンドー選手権大会

会期：2011年12月4日／会場：駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場



右から(社)全日本テコンドー協会理事・広報委員長 小池 隆仁、理事・強化副委員長 安田 郁雄、会長 金原 昇、女子-54kg級 笠原 江梨香 選手、強化副委員長 阪口 晃、常務理事・強化副委員長 長野 修士、理事・競技委員長 申 東準



左から、安 東寛国際審判員、申 東準理事・競技委員長

●事務局にて



理事・環境委員長 黒江 浩二

日本ダンススポーツ連盟

Japan DanceSport Federation

●第14回東京国際オープンダンススポーツ選手権

会期：2012年3月11日／会場：東京体育館



第14回東京国際オープンダンススポーツ選手権で初お披露目した JOC 環境横断幕

日本セパタクロー協会

Japan Sepaktakraw Federation

●第11回全日本セパタクロージュニア選手権大会

会期：2012年2月19・20日／会場：国立オリンピック記念青少年総合センター



日本カバディ協会

Japan Kabaddi Association

●第22回全日本カバディ選手権大会

会期：2011年10月15日～16日／会場：国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室／参加人数：選手約150名、観客約150名



左から日本カバディ協会 清水谷尚順理事、西郊良光理事長、近藤年子理事、河合陽児事務局長



左から清水谷尚順理事、西郊良光理事長、近藤年子理事



「女子試合1」



「男子試合1」

日本体育協会

Japan Sports Association

●日本スポーツマスターズ2011石川大会

会期：2011年9月16日～20日／会場：石川県



●第66回 国民体育大会

会期：2011年10月1日～11日／会場：山口県



日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy (JOA)

●JOAセミナー・JOAオリンピック・レクチャー 012

会期：2011年5月29日

会場：明治大学アカデミーコモン



前列左から：嵯峨寿（JOA 理事）、柳谷直哉（JOC）、水野正人（JOA 副会長）、猪谷千春（JOA 名誉会長）、和田恵子（JOA 専務理事）、佐野総一郎（JOA 会員）
後列左から：田原純子（JOA 会員）、大津克哉（JOA 会員）、舛本直文（JOA 理事）、真田久（JOA 理事）、江藤貴美子（JOA 会員）、岡野弥恵子（JOA 会員）、木村華織（JOA 会員）

●第8回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告

会期：2011年12月4日

会場：国立スポーツ科学センター大研究室



左から：中塚義実（筑波大学付属高等学校教諭）、星野慧（筑波大学付属高校2年生）、田原純子（JOA 会員）



前列左から：Gwang Ok（韓国中北大学校准教授）、Li-Hong Hsu（大葉大学准教授、中華台北オリンピック・アカデミー）、Sock Miang Teo-Koh（南洋理工大学国立教育学院准教授、シンガポール・オリンピック・アカデミー理事）、Wimonmas Prachakul（カセサート大学、タイ・オリンピック・アカデミー）、中塚義実（筑波大学付属高校教諭）
後列左から：藤原庸介（JOA 副会長）、笠原一也（JOA 会長）、真田久（JOA 理事）、東照雄（筑波大学副学長）、田中暢子（JOA 会員）、和田恵子（JOA 専務理事）、舛本直文（JOA 理事）

●JOAレクチャー 013

会期：2011年12月4日

会場：国立スポーツ科学センター大研究室



水野正人（2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会 CEO）

●第34回JOAセッション

会期：2011年12月4日

会場：国立スポーツ科学センター大研究室



福田富昭（JOC 副会長）

日本トップリーグ連携機構

Japan Top League

●2011年度若手研修会

会期：2011年6月25日～26日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター



主催者挨拶：安達宣郎 常務理事



キャリアデザイン～選手としての will can must を考える～



先輩選手からのアドバイス
大山加奈・中川善雄 講師／佐藤嗣郎 司会



リスクマネジメント
千田直人 講師



基礎ビジネスマナー講座
田崎朋子 講師



9競技11リーグの若手選手110名が参加

環境方針

Policy of the JOC on Environmental Management Systems(EMS)

■ 環境基本理念

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC 事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

■ 行動指針

1. JOC 事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

平成18年3月17日

財団法人日本オリンピック委員会

会長 竹田 恆和

- 2012年7月11日付でISO14001の認証登録を更新(3度目)
ISO(International Organization for Standardization) 14001



認証登録証を持った竹田恆和 JOC 会長

- JOC事務局内レクチャー



平成23年度 スポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2011

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
Photographic report of activities on Sport and Environment	

本文目次

Contents

1. スポーツ環境専門部会活動の意義について	49
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	
2. 第7回 JOC スポーツと環境・地域セミナー 開催報告	50
Report of the 7th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	
3. 第8回スポーツと環境担当者会議 開催報告	54
Report of the 8th National Sports Federations Conference on Sport and Environment	
4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について	60
Issues regarding awareness and implementation activities	
(1)各競技団体の活動	61
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	
(2)スポーツ環境専門委員の活動	101
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	
(3)スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	105
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs	
(4)環境省との連携について	108
Collaboration with the Ministry of Environment	
(5)スポーツと環境についてのレクチャー原稿	110
Lecture draft on Sport and Environment	
5. IOC スポーツと環境委員会について	121
IOC Sport and Environment Commission	
(1)IOC スポーツと環境委員会	122
IOC Sport and Environment Commission	
6. 関連資料	124
References	
(1)JOC スポーツ環境専門部会員一覧	124
Activities person of Sport and Environment	
スポーツ環境専門部会	124
Member of Sport and Environment Commission	
IOC スポーツと環境委員会	125
IOC Sport and Environment Commission	
OCA スポーツと環境委員会	125
OCA Sport and Environment Commission	
本会加盟団体スポーツ環境担当者一覧	126
National Federation	

(2) IOC スポーツ環境委員会小史	129
Brief history of the IOC Sport and Environment Commission	
(3) JOC スポーツ環境委員会小史	130
Brief history of the JOC sport and Environment Commission	
(4) オリンピックムーブメントアジェンダ21	131
Olympic Movement' s Agenda 21	

1 スポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

新たな状況での「スポーツと環境」への取組み

日本オリンピック委員会（JOC）が、平成23年4月1日から公益財団法人へと移行したことに伴い、従来のスポーツ環境専門委員会がスポーツ環境専門部会となり任務を引き継ぐこととなった。

JOC にスポーツ環境専門委員会が設置されたのは、平成13年度であるから、丁度10年、専門委員会として活動してきたことになる。スポーツ環境専門部会としては、専門委員会の10年の成果を踏まえ、従来と同様の方針の下に活動を行うこととしているが、初年度となる平成23年度は、いくつかの特記すべき事態、イベント等があり、スポーツと環境を取りまく新たな状況が生まれた。



まず、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震によって引き起こされた津波と東京電力福島第一原子力発電所の事故である。この未曾有の事態により、多くの人命が奪われ、膨大な地域の生活基盤が破壊されるとともに、がれき処理など様々な環境問題の解決に日本中が直面した。スポーツ界も、予定していた大会が取りやめになったり、仲間や練習場所を奪われたりと、大変な影響を受け、環境が如何にスポーツの持続可能性にかかわっているかを思い知らされ、気候変動などの自然現象やごみの処理・リサイクルなどの環境対策をより強く意識するようになった。

また、4月30日には、日本水泳連盟の大会公式記録のペーパーレス活動等の環境に配慮した取組みが高く評価され、IOCの「スポーツと環境賞」が授与された。同連盟関係者がごみの分別処理など地道な活動とともに組織を挙げて尽力された結果であり、他の競技団体への良い刺激となった。

さらに、6月には、スポーツに関し、基本理念を定めるとともに、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とするスポーツ基本法が公布され、7月には、日本体育協会・日本オリンピック委員会創立100周年記念事業が行われるなど、スポーツ界としても大きな節目を迎えた。

この節目の年に、多くの競技団体が、本報告書に示されているようにそれぞれの競技種目の性格や特徴に応じたスポーツと環境にかかわる様々な取組みを行い、本専門部会としても、新たな状況の下、各団体の横の連携の強化や広報の充実等、本分野での意識と活動を一層高める取組みの必要性を痛感したところである。

公益財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会
部会長 佐藤 征夫

2 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of the 5th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣 旨：公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、平成13年度からスポーツ環境専門部会（旧・スポーツ環境専門委員会）を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進してまいりました。この度、その活動のひとつとして、第7回地域セミナーを神戸市で開催することとなりました。このセミナーでは、近畿地区のスポーツ関係者の皆様とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくか、スポーツ団体の具体的な実践例を交え一緒に学ぶことを目的に実施致します。
2. 主 催：公益財団法人日本オリンピック委員会
3. 共 催：神戸市（JOC パートナー都市）
4. 後 援：文部科学省、公益財団法人日本体育協会、近畿地方環境事務所、兵庫県、兵庫県教育委員会、財団法人兵庫県体育協会、財団法人神戸市体育協会
5. 日 時：平成23年9月16日（金） 13：30～16：30（予定）
6. 場 所：神戸市勤労会館 大ホール 神戸市中央区雲井通5丁目1-2
7. 参加者：JOC・日本体育協会の役員及び加盟団体、近畿地区各県の体育協会・教育委員会・スポーツ関係団体、JOC スポンサー関係、JOC パートナー都市 他 約250名
8. プログラム：テーマ「スポーツ界にできる環境啓発・実践活動について」
 - 13：30 開会
主催者・共催者挨拶
市原 則之 JOC 副会長兼専務理事
永井 秀憲 神戸市教育委員会 教育長
 - 13：40 基調対談『知ろう気候変動・しっかりやろう環境保全』
平松 純子 JOC スポーツ環境専門部会 部会員
瀬古 利彦 オリンピアン
鈴木 絵美子 オリンピアン
コーディネーター：水野 正人 IOC スポーツと環境委員会委員
 - 14：50 休憩
 - 15：05 『環境啓発・実践活動に関する報告と討論』
 1. （財）日本水泳連盟の環境啓発・実践活動について
佐野 和夫 日本水泳連盟 会長
 - 15：40 2. ヴィッセル神戸の環境・啓発活動について
清田 美絵 ヴィッセル神戸
コーディネーター：佐藤 征夫 JOC スポーツ環境専門部会部会長
 - 16：15 閉会の挨拶 水野 正人 IOC スポーツと環境委員会委員
 - 16：30 閉会

以上

■セミナー概要

9月16日、多くの国際競技大会を開催し、JOC パートナー都市である兵庫県神戸市との共催で、「第7回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」を神戸市勤労会館で開催した。同セミナーは、スポーツ界における地球環境保全の必要性について考え、その活動をどのように実践に移していくかを学ぶために実施。当日は近畿地区のスポーツ関係者を中心に約200名が参加し、意義のあるセミナーとなった。

●開会の挨拶

はじめに市原則之JOC 副会長兼専務理事から、「東日本大震災でわが国は未曾有の国難を迎え、私どもは果たしてスポーツ活動をしてもいいのだろうか大変苦悩しました。しかしロンドンオリンピックまで1年を切り、強い日本をアピールすると同時に、スポーツがいかに国家や国民に貢献できるかということを考える必要もあります。本日は皆様とともに地球環境の現状と、スポーツの取り組みから私たちが果たすべき役割と使命を明確にし、スポーツ文化を豊かに享受する社会の実現を目指し、環境保全活動を実践していただきたいと思います」と挨拶。

続いて、神戸市を代表して永井秀憲神戸市教育委員会教育長から、「神戸市は昭和47年に『人間環境都市宣言』をしています。環境保全のために行政だけでなく、市民の方も一緒になって色々な形で取り組んできましたが、阪神大震災があり、今までやってきたことが元に戻ってしまいました。そんな中、市民の方が一生懸命クリーン作戦を実施し、神戸の町は本当にきれいになりました。また神戸は国際大会の誘致を行う一方で、ヴィッセル神戸（Jリーグ）などプロスポーツチームが活躍し、女子サッカーチームのINAC神戸は、なでしこジャパンに7人の選手を送り込むなどスポーツも盛んです」と挨拶された。



●第一部 基調対談「知ろう気候変動・しっかりやろう環境保全」

第一部では、水野正人JOC 副会長（IOC スポーツと環境委員会委員）をコーディネーターに、JOC スポーツ環境専門部会員であり、国際スケート連盟理事の平松純子さん、日本陸上競技連盟理事の瀬古利彦さん、シンクロナイズドスイミングの鈴木絵美子さんのオリンピック3名による基調対談「知ろう気候変動・しっかりやろう環境保全」が行われた。

はじめに平松氏から、昔のインドアのスケートリンクはアンモニアを冷媒として凍らせていたため、臭いが凄かったことを話しました。水野副会長は、「アンモニアの臭いを抑えるため、1998年の長野オリンピックでは代替のフロン類を冷媒とし、通常の60分の1のアンモニアでリンクを凍らせた」というエピソードを交え、現在はフロン類も環境に良くないということで、新しい冷媒が使われ始めていることを紹介。

続いて瀬古氏からは、マラソンと環境の関係について、「マラソンは日本では12月から3月がシーズンですが、オリンピックや世界選手権は7、8月に開催するので、夏に走れないといけない。でも暑い夏にマラソンを走るのは大変で、1回走るとリカバリーに1年くらいかかってしまう」と気温がもたらす競技への影響を語った。また、「観客が沿道で振る旗



は、終わった後はただの紙くずになってしまうため廃止しました。マラソンや駅伝の放送車も電気自動車を使ったり、ハイブリッド車を使ったりしています」と日本陸上競技連盟の環境に対する取り組みを紹介した。

鈴木さんは、プールの水を消毒するために入れられている塩素（カルキ）について、「ずっと塩素の入ったプールで練習していると髪の毛が痛んだり、茶色くなったりしてしまう。昔はよく学校の先生に『髪の毛を染めているのか』と聞かれました」と、自身の経験談を交えながら、その影響を語りました。

そのほか、水野副会長からはIOCと環境問題との歴史やオリンピックにおける環境保全活動が紹介されたり、セミナー参加者全員で考えるスポーツと環境に関するクイズが出題された。最後に、水野副会長が「スポーツと環境は相関関係があります。私たちは、スポーツを通じて皆様方に環境保全の大切さを知っていただき、実践していただくことをお願いしています。この基調対談を通じて、スポーツには環境問題があって、我々が共通の概念として環境保全のできることをやろうということを知っていただければ大変幸いです」と話し、第一部を締めくくった。

■第二部 「環境啓発・実践活動に関する報告と討論」

第二部では、佐藤征夫JOC理事・スポーツ環境専門部会部会長がコーディネーターとなり、「環境啓発・実践活動に関する報告と討論」として、日本水泳連盟の佐野和夫会長（JOCスポーツ環境専門部会副会長）、ヴィッセル神戸の清田美絵さん（営業部企画ユニットリーダー）が、それぞれの団体における環境啓発・実践活動を紹介しました。

最初に日本水泳連盟が今年、環境に配慮したスポーツ団体などの取り組みに対して贈られる『IOCスポーツと環境賞』を受賞したことを報告。受賞の理由となった活動として、紙の削減対策、ペットボトル削減対策、エココンテストの実施などの取り組み

を紹介しました。特に、2009年からこれまで大会で関係者やメディアに配布していたリザルト用紙を廃止し、インターネットで配信するようになったことで、年間約189万枚の紙を削減、年間約150本の植林木の伐採を減らしたことが評価されたと佐野会長が説明。今後も都道府県や行政と協力して更なる環境活動に力を入れていくと語った。

ヴィッセル神戸は、2010年3月に「楽天×ヴィッセル神戸 エコプロジェクト」を始動し、ホームタウンへの貢献・還元活動の一環として環境保全活動を実施していることを説明。具体的な活動として、スタジアムでのゴミの分別回収やペットボトルキャップ・リサイクル品の回収などを挙げ、また、スポーツ観戦における世界初の取り組みとして、サポーターが座席で跳んで応援した電気を発電させる「床発電システム」の導入を紹介した。現在の導入座席は44席で、1試合あたりの発電量は単3乾電池6本分。発電した電気は試合後の誘導灯や懐中電灯として活用している。

清田さんは今後の取り組みについて、「プロジェクトの定着化へ向けて活動を継続させ、参加協力者の拡大及び活動の徹底を目指したい」と話し、「全世界共通のスポーツであるサッカーを通して地球環境を救いたい。床発電をオリンピックやワールドカップで導入できれば」と大きな目標を語った。

●閉会の挨拶

最後に、水野副会長が閉会の挨拶を行い、「いよいよ2020年オリンピック招致が始まりましたが、IOCの評価項目の中に、交通や競技会場、選手村などは別に『環境』という項目があります。それほど私たちを取り巻く環境問題は深刻さを増してきており、このまま気候変動が続くと、いつか競技そのものができなくなるのではないかとこの恐怖すらあります。皆さんがもし何かのスポーツと関わり合いがあれば、そのスポーツの世界でできる環境保全を進めて下さい」と締めくくった。



出席者一覧

所属先	氏名
(公財) 日本オリンピック委員会	水野正人
	市原則之
	佐藤征夫
	藤原庸介
	佐野和夫
	生沼明人
	風間明
橋口陽一	
平松純子	
近畿地方環境事務所	松本珠希
財団法人 滋賀県体育協会	村田惣一郎
(財) 日本サッカー協会	玉利総一
(財) 日本テニス協会	藤田和彦
(財) 日本バスケットボール協会	水野義博
(財) 日本スケート連盟	岩島直巳
	加藤真弓
(社) 日本ウエイトリフティング協会	田島俊信
(財) 日本ソフトテニス連盟	野際照章
(社) 日本馬術連盟	大波多廣一
(社) 日本フェンシング協会	西山充勝
(財) 全日本剣道連盟	小川俊夫
(社) 全日本銃剣道連盟	津田昌泰
	黒江浩二
(社) 全日本テコンドー協会	川津博
(公社) 日本ダンススポーツ連盟	天童貞一
大阪市	下岡良一
熊本市	菅雅之
東京都	木村賢一
札幌市	余湖充裕
	真田亜季
ミズノ(株)	岡本健
神戸市教育委員会事務局	永井秀憲
(株) クリムゾンフットボールクラブ	叶屋宏一
(株) クリムゾンフットボールクラブ	清水克洋
京都教育大学	中比呂志
医師	賀未正俊
	谷岡亜由子
神戸市体育協会	横関勇
	山下昇
	敦賀孝一
	常本明
	花野雅子
	田端富男
	藤野右治
	山本英子
	白崎絹子
	平櫛英夫
王子スポーツセンター	大山義郎
中央体育館	稲田宗幸
東灘体育館	須磨体育館
須磨体育館	安楽明
垂水体育館	藤井章三
ポートアイランドスポーツセンター	国生正人
ポートアイランドホール	福田光儀
自然の家	小原裕
生涯学習支援センター	平田修三
神戸市軟式野球協会	西本昌幸
	岸本久子
神戸市剣道連盟	西田彦太
	藤井正和
神戸市テニス協会	北風博
	大西正泰
神戸市バレーボール協会	田淵治男
	島弘
神戸市弓道協会	加藤喜代子
神戸市バドミントン協会	吉田昇
	柳原和恵
神戸市ソフトボール協会	藤田天治
神戸市なぎなた協会	宮本トシ子
	菅千衣子
兵庫県スキー連盟神戸支部	磯川好司
神戸市漕艇連盟	伊藤博志
兵庫県山岳連盟神戸支部	森川列
神戸市レスリング協会	柏木貞夫

所属先	氏名
神戸市レスリング協会	源水昭次
神戸市クレール射撃協会	王昭仁
神戸市中学校体育連盟	三浦清司
神戸市小学校スポーツ協会	袖岡正幸
	藤原匠
神戸市ボウリング協会	小窪重孝
	福山博明
神戸市アーチェリー協会	向井一次
神戸市綱引連盟	北博之
神戸銃剣道連盟	増田良明
神戸市水泳連盟	埴岡健介
東灘区体育協会	田村都
灘区体育協会	森田恵
中央区体育協会	横尾健太郎
兵庫区体育協会	田中雅之
北区体育協会	加藤翔子
長田区体育協会	小寺忠則
須磨区体育協会	渡辺義隆
垂水区体育協会	横山典明
西区体育協会	伊賀聡哉
神戸市レクリエーション協会	大西睦雄
	千原孝
	恩地幸子
神戸ママさん卓球連盟	久保正恵
	橋本美子
神戸市民ラジオ体操の会	山田実
神戸フォークダンス協会	柏谷多津子
神戸民謡研究会	野村沢江
	山下勝子
	西畑康次
	道堯舜治
	武内孝
	村川進
	住岡てる子
	谷口栄三
	児島健次
	中川芳昭
並木ユキ子	
柿倉幸臣	
三宅加代子	
鶴谷俊夫	
水野利明	
和田垣	
逸山定生	
住友啓俣	
松本公二	
富永邦彦	
伊原謙一	
山西義郎	
飼谷守雄	
出原元	
佐谷修三	
河本厚子	
西村佐世子	
牟礼喬	
香川珠子	
鍋田恵子	
平石一夫	
川口捨三	
喜多孝吉	
丸山恵美子	
前田信子	
原正道	
神戸市ウオーキング協会	藤井清孝
	石丸勝也
神戸市スポーツ指導者バンク	山下正弘
	小山真知子
	藤井卓
	内野洋次
	飯塚久子
	吉本泉
	岡崎よし子
	矢野正好

所属先	氏名
神戸市スポーツ指導者バンク	三好賢史
	井岡昇子
	北条あおい
	重田類子
	榎田三重
	藤江久善
	横山克治
神戸市教育委員会事務局	河辺健一
	村山哲朗
	田中俊之
	吉田恵子
	三海弘晶
	荒川慎一郎
	上田勝久
	小先康治
	堀忠隆
	有吉要三
岡本真樹	
兵庫県教育委員会事務局	芦田光巨
兵庫県スケート連盟	加藤倫久
	岩島直巳
	鈴木信子
	小林芳子
	宮永芳明
	岡田三彦
兵庫県フェンシング協会	西山勝
日本拳法	石本聡
兵庫県なぎなた連盟	井上窈子
兵庫県バドミントン協会	瀬川欽也
財団法人兵庫県剣道連盟	宮内正之
兵庫県綱引連盟	馬場辰夫
兵庫県水泳連盟	荒木紀一
兵庫県ハンドボール協会	前田高志
兵庫県ソフトボール協会	分玉勝日
	植田稔
	大西和子
兵庫県ホッケー協会	高嶋良平
	山本鋭治
	富永健嗣
兵庫県武術太極拳連盟	起塚恵子
	田中康博
	森谷志奈子
兵庫県スキー連盟	山下繁夫
加古川市体育協会	神吉賢一
篠山市体育協会	吉田栄治
兵庫県体育協会	厚田太加志
	寺岡正人
	松本敏尚
	岡村純一
	岡本勇人
	改野学由
	赤堀幸夫
	藤郷晃史
	川上和子
	石上裕子
久保田紋子	
(社) 共同通信社	益吉数正
ワイズスポーツ	西田裕基

3 第8回スポーツと環境担当者会議開催報告

Report of the 8th National Sports Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣 旨：スポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解を深めると共に、環境保全について多くの関係者・関係団体との連携、活動の推進を図るために標記会議を開催した。
2. 主 催：公益財団法人 日本オリンピック委員会
3. 後 援：文部科学省、環境省、公益財団法人 日本体育協会
4. 日 時：2011年12月2日（金）13：30～17：00
5. 場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター 1階 研修室
〒115-0056 北区西が丘3-15-1 TEL：03-5963-0400
6. 出席範囲：本会役員、スポーツ環境専門部会員、本会加盟団体環境担当者 70名
7. プログラム：テーマ『スポーツと環境・新たな取り組みについて』

13：30	開会挨拶 JOC スポーツ環境専門部会部会長 佐藤征夫
13：40	【第1部】 ◇環境省における国民運動の展開について 環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 国民生活対策室 相澤 和春 ◇競技団体における環境啓発・実践活動について 公益財団法人 日本水泳連盟 佐野 和夫 公益財団法人 日本サッカー協会 玉利 聡一 コーディネーター：JOC スポーツ環境専門部会部会長 佐藤 征夫
15：15	休憩
15：30	【第2部】 スポーツと環境保全・啓発活動について JOC 副会長／IOC スポーツと環境委員 水野 正人
16：45	閉会の挨拶 JOC 副会長／IOC スポーツと環境委員 水野 正人
17：00	閉会

■ 会議概要

JOCは12月2日、「第8回スポーツと環境担当者会議」を味の素ナショナルトレーニングセンターで開催しました。JOCスポーツ環境専門委員、スポーツ環境アンバサダー、競技団体の担当者など約70名が参加、スポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解と相互連携を図った。

■ 開会挨拶

JOCスポーツ環境専門部会の佐藤征夫部会長による、「本会議は、各団体が啓発実践活動に関する理解を深め、かつ実践へとつなげるにあたり意見交換を行う場として開催するものです。ご参加の皆様には、活発なご討議を交わしていただき、それぞれの競技団体において、今後の活動に結び付けていただければ幸いです」との挨拶からスタート。

[第一部]

◎環境省における国民運動の展開について

第1部ではまず、環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 国民生活対策室の相澤和春係長から、環境省の取り組みについて講演が行われた。

冒頭、相澤係長は「地球の平均気温は、過去100年間で0.74度上昇し、その上昇のスピードは近年になればなるほど上がっています。ヒマラヤの氷河は、最近ではほんの少ししか無くなってしまい、日本国内でも積雪量は減少傾向にあり、特に外で行われるウィンタースポーツなどでは今後も大きな影響が懸念されます。

温暖化には気候が極端化するという面もありま

す。日本でもゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な大雨が近年増えました」と、地球温暖化の現状について説明。そうした状況を踏まえたうえで、政府が取り組む地球温暖化防止国民運動“チャレンジ25”キャンペーンが紹介された。

「“25”という数字は、『2020年までに1990年から25%のCO₂削減』という政府の表明に基づいています。リーダーの内閣総理大臣、サブリーダーの環境大臣のもと、我々環境省が運営事務局となり、このキャンペーンに賛同してくださる企業や団体、個人のチャレンジャーを募っています」

「このキャンペーンでは具体的な行動を伴うものとして、6つのチャレンジ、25のアクションを設定しています。例えばチャレンジ1の“エコな生活スタイルを選択しよう”であれば、“夏は冷房の温度を28℃に、冬は暖房の温度を20℃に設定しよう”、“出かける際はバスや電車、自転車など環境に優しい交通機関を利用しよう”といったアクションを示しています。その他の具体的なチャレンジ項目の実践として、我々は“クールビズ”、“ウォームビズ”のほか、クルマに頼らない移動やエコドライブを心がけようという“スマートムーブ”、早起きして夜間の電力消費量を減らそうという“朝チャレ”という4つの柱を積極的に提案しています」



その他、キャンペーン以外の取り組みとして、“スポーツ祭り2011”へのブース出展、Jリーグ・清水エスパルスとのコラボレーションによる“エコ・チャレンジマッチ2011”等を紹介。最後に、「我々は、今後もスポーツを通じた呼びかけに積極的に取り組む考えです。ご理解ご協力のほど、宜しくお願いします」と訴え、講演を締めくくった。

質疑応答では、CO₂排出量や“国連持続可能な開発会議（リオ+20）”に関する質問が投げかけられた。

◎競技団体における環境啓発・実践活動について

続いて、公益財団法人日本水泳連盟の佐野和夫会長と公益財団法人日本サッカー協会の玉利聡一氏がそれぞれ活動状況を報告した。まず日本水泳連盟は、紙の大幅な節約などの取り組みが評価され、2011年の“IOC スポーツと環境賞”を受賞。その取り組みの具体的な内容が佐野会長から紹介された。以下は発言要旨。

「まず、紙の削減対策について。水泳、特に競泳種目では、これまで競技会ごとにスタートリストや競技結果を印刷した大量の用紙が用いられ、廃棄されてきました。そこでレースタイムを記録しているセイコーの協力を得て、2009年頃からシステムを開発しました。レース終了の10秒ほど後には、ホームページや携帯電話を通じて、結果が確認できるというものです。これによって、日本水泳連盟が主催する9つの公認公式大会を通じて、年間189万枚のA4用紙を節約することができました。これに大会前のエントリーや監督会議等での節約分を含めると195万枚に上ります。これを直径20cm、高さ20mの木に換算すると、約150本の木を切らずに済んだことになりま

す」

「これを今、各都道府県の加盟団体に広げようとしています。まだ実現していませんが、もしこれがうまくいけば、年間2億2,500万枚の紙、すなわち1万7,000本の木を伐採せずに済むのです。実際には年配の役員など、紙がないと不安という方々がいらっしゃるため、完全に紙をゼロにすることはできていませんが、それらはごくわずかの枚数にとどまっています。メディアの方々にとってもWEBによる報告のほうが使いやすいと評価をいただいているところです」

「その他、ペットボトルの節約も行っています。従来、無料のペットボトルを用意していたものを、タンクボトルへと変更しました。2009年からは“エコ・コンテスト”を始めました。スイミングクラブごとに行った環境活動を応募してもらい、“ジャパンオープン”の開会式で表彰しています。第2回はエコスローガン、第3回はエコアクションというテーマで行いました。その他、エコ啓発のためのピンバッジ作製、エコバッグやマイ箸、マイボトルといったエコ製品の配布、環境バナーの掲出など、さまざまな取り組みを行っています。行政との協力で、東京・お台場でのオープンウォータースイミング大会も実施しました。この辺りはあまり水質が良くないため、普段は遊泳禁止なのですが、特別に許可をいただきました。水質を良くするためのさまざまな対策を講じていただいたおかげで、年々水がキレイになっています」

以上の報告に対し、会場からは「公式の理事会等でも紙は削減されているのか」、「メディア向けにペーパーをまったく出していないのか」といった質問が投げかけられ、佐野会長は「ゼロではないが、両面印刷を施すなど、極力少なくなるよう努力している」と回答。最後に「環境活動は継続しなければ意



味が無い。当たり前のことをあせらず地道に続けていくことが大切」と呼びかけ、発表を終えた。

続いて、日本サッカー協会の玉利聡一氏による発表が行われた。その要旨は以下の通り。

「まずはサッカー界全般の取り組みについて紹介します。Jリーグの各クラブでは地域に密着した活動を行っています。その中で複数のクラブがエコに関するミッションステートメントを行っています。例えばガンバ大阪では、地元大学が行う環境ボランティアへの参加といった活動を熱心に行っています。また先ほどの発表で紹介された清水エスパルスの取り組みもその一つです。特にクイズ形式で楽しく遊びながら環境の事を学べる“エコブック”の配布は、非常に参考になります。この他、地域のサッカー協会などでも様々な取り組みが進んでいます。JFAとして、これらの取り組みに対し何かまとめて発信していれば、ある種ベスト・プラクティスなのかもしれませんが、そういったことはできておりません。JFAが『ビジョン2005年宣言』、Jリーグが『100年構想』という大きなベクトルを示す中で、加盟団体やクラブ、ファンの方々が意気を感じて活動するといった相乗効果の中で実現ができていているところかと思えます」

「次にJFAとしての取り組みです。JFAは“チーム・ー6%の時代から、当時の小池大臣と川淵キャプテンでメディアの注目を集めるイベントを行うといった活動を行っています。国連グローバル・コンパクトに際しても、加入させていただきました。具体的な取り組みとして、文京区での清掃活動への参加、メディアリリース等のシステム化などに取り組んでいます。後者に関しては、年間40万枚ほど紙を削減ができています。先ほどの質問にあった、理事会等の資料に関してはまだ着手できておりません。今後取り組んでいこうと、社内で意見が出はじめたところです。その他ガンバ大阪の新スタジアム建設という話が出ていますが、我々環境プロジェクトとしても、これに対して政策提言というか、地域への働きかけができるよう、調査活動を行っています。この他にも広報啓発活動、節電対策などを実施しています」

「我々の取り組みのキーワードは“スローダウン”と“アダプテーション”です。サッカーの場合、環境問題を感覚的に理解する場面は、暑熱対策ぐらいしかありません。そのため関係者の理解がなかなか得られない現状です。3Rや5Rにみられるように

『しなければいけない』とネガティブに捉えられることが多い環境問題を、もっとポジティブに取り組みうという呼びかけです。先日、300人を集めた指導者資格の更新講習会において、プロジェクトリーダーの岡田武史理事が、サッカー界が環境問題に取り組む意義を含め、指導者の社会的な役割について話をされました。サッカー指導者はD級だけで3万人いますので、そういったところで、しっかりと伝えることができれば、大きな財産になるだろうと考えています」

おふたりの発表に対し、会場からは「こういった素晴らしい取り組みを競技団体間で共有したい。各団体のWEBサイトへ掲載し、関係者がアクセスできるようにできないか」との提言がなされた。

【第二部】

◎スポーツと環境保全・啓発活動について

休憩を挟んだ第2部では、JOC副会長で、IOCスポーツと環境委員を務める水野正人氏が登壇。自身の環境活動へのかかわりから話を始めた。

「1990年、スポーツ業界の世界会議で環境委員会を作り、私が委員長に就任しました。その話をIOCでしたところ、当時のサマランチ会長も『オリンピック運動は、スポーツ、文化、環境の3本の柱から成っている』と言い、1995年にスポーツと環境委員会が編成されました。私はその当時からずっと委員を務めています。JOCに“スポーツ環境委員会”ができたのは2001年です。八木祐四郎会長に訴えたところ『我々も環境活動に取り組まなければならない』と設置されることになり、私が委員長に就任しました」

そして、これまでの日本における様々な環境活動について「IOCスポーツと環境委員会のパル・シュミット委員長からは、常々『JOCは世界の中で模範的な環境保全の活動を行っている』と評価されています」と紹介。ただ、この評価は各競技団体の熱心な取り組みによるもの、と続けた。

「NOCでやろうと言っても、NOCがスポーツの現場を持っているわけではありません。スポーツの現場を持って、そのスポーツの普及振興から世界の選手権に選手たちを送るという仕事を担っているのは、各競技団体です。スポーツの現場を持っているNFの方々と連携・協力しなければ、環境保全は実現しないのです。その意味で、私たちJOCとしても、

日頃から環境保全に対していろいろご協力をいただいているNFの皆様から心から感謝を申し上げます」

水野副会長は、「IOC スポーツと環境賞」を受賞した水泳連盟を称える一方、陸上競技やサッカーをはじめ、さまざまなNFにおいても、環境保全に向けた活動が行われているとアピールし、参加した各NF担当者からの現状報告を求めた。

最初に呼びかけられた財団法人全日本スキー連盟・宮沢賢一氏は、「私たちは、「I LOVE SNOW」キャンペーンという形で環境に関する啓発活動を行っています。スキー人口が減ってきている中で、このキャンペーンを通して雪と触れ合うことによってスキーの楽しさや環境の大切さを皆様に広めていきたいと考えています。そのキャンペーンの一環としてカーボンオフセットに注目しており、オフィシャルグッズ販売の代金をカーボンオフセットへ振り向けるという展開をしています」と現状を説明した。

公益財団法人日本バレーボール協会の取り組みについて、水野副会長は「日本で不要になったボールやネットを海外へ寄付したり、リサイクルグッズの売り上げを社会貢献財団へ寄付するなど、3R活動を積極的に展開します」と紹介。つづけて指名を受けた財団法人日本ラグビーフットボール協会の高野敬一郎氏は、「ラグビーの精神“FOR ALL”を取り入れた“FOR ALL FOR EARTH”というキャッチフレーズの下、ゴミの分別やエコキャップ活動を展開しています。またそこで得た利益を恵まれない地域の子どもたちへのワクチンに利用してもらおうと、社会貢献へもつなげています」と現状の成果をアピールした。

公益財団法人日本馬術競技連盟の佐藤親悦氏は、「唯一、動物を扱う競技として、餌や厩舎に用いる飼料や稲藁等の管理には気をつけています。また競技

会等での環境保護の啓発活動はもちろん行っています」と説明。公益財団法人日本ゴルフ協会の取り組みに関しては、水野副会長が「昔に比べて農薬の使用は減っているし、林よりもゴルフ場のほうが炭酸同化作用が大きいという研究成果も出ています。また、競技大会でのゴミの分別活動も熱心に行っておられます」と紹介した。

財団法人日本レスリング協会の鎌賀秀夫氏は、「ゴミの分別活動をメインに、エコバッグの作製や啓発活動を行っています」と紹介しながら、「ペーパーレスにも取り組みたいが、レスリングの競技会場には大きな電光掲示板がないため難しい面もある」と課題を挙げた。

社団法人日本ボート協会の小野寺等氏は、企業の力を借りて環境保全と普及を兼ねた活動の展開例を紹介した。「現在様々な企業がエコキャップ活動を行っています。そういった企業へ全日本大会での回収を呼び掛けたところ、社内ボランティア団体の方々に参加して協力していただきました。その活動が社内のイントラネットで広報されることで、ボート競技の普及にもつながると考えています」。

公益社団法人日本トライアスロン連合の中山正夫氏は、「トライアスロンは、環境とともに進化・発展した競技。環境問題が叫ばれるより以前から、海のゴミ拾いや浜辺の清掃などを行ってきました。大小ふくめ全国250ほどの大会において、ほぼ同じレベルで環境保全活動が展開されています」と述べた。

これらの発表を受け、水野副会長はあらためて謝意を表すとともに、「私たちが今後取り組むべきは、“啓発”と“実践”。まずはNFが示すことで、都道府県や地方の町へと裾野が広がっていくのです。環境というテーマは地味で脚光を浴びるものではありませんが、それでも我々はやり続けなければいけない。今ならまだ間に合います。持続可能な社会を築くために、皆で力を合わせて取り組みましょう」と呼びかけ、講演を終えた。

◎閉会挨拶

水野正人副会長による、「本日ここに集まった私たちには『環境のことを忘れることなく皆に刺激を与え続ける』というミッションがあります。このセッションだけで終わらず、それぞれのNFにおいてぜひ役立てていただきたいと思います」との挨拶で締めくくられた。



■出席者一覧

敬称略・順不同

所属先	出席者名
日本オリンピック委員会	水野正人
	市原則之
	青木剛
	平岡英介
	大塚眞一郎
	塚原光男
スポーツ環境専門部会	佐藤征夫
	佐野和夫
	生沼明人
	風間明
	鎌賀秀夫
	長井淳子
日本陸上競技連盟	風間明
日本水泳連盟	泉正文
	末広昭人
	斎藤由紀
	野原亨
	丸笹公一郎
日本サッカー協会	玉利聡一
全日本スキー連盟	宮沢賢一
日本テニス協会	生沼明人
日本ボート協会	小野寺等
日本ホッケー協会	西中武史
日本バスケットボール協会	岩本冴理
	佐藤未保
日本スケート連盟	安藤美和子
日本アイスホッケー連盟	栄木裕
日本レスリング協会	関貴文
	高橋正仁
日本セーリング連盟	青山篤
日本ウエイトリフティング協会	米田辿
日本ハンドボール協会	川上憲太
	兼子真
日本自転車競技連盟	志摩謙治
日本ソフトテニス連盟	柳下秋久
	竹田稔
全日本軟式野球連盟	宗像豊巳
	清野裕
日本馬術連盟	大波多廣一
	佐藤親悦
全日本柔道連盟	加藤英樹
日本ソフトボール協会	鈴木征
	横田博之
日本バドミントン協会	今井茂満
	本田修治

所属先	出席者名
全日本弓道連盟	木村秀一
日本ライフル射撃協会	塚越ゆかり
全日本剣道連盟	小川俊夫
日本ラグビーフットボール協会	高野敬一郎
	中嶋一義
日本山岳協会	松隈豊
日本カヌー連盟	八鍬美由紀
全日本アーチェリー連盟	穂苅美奈子
全日本空手道連盟	有竹隆佐
全日本銃剣道連盟	藤田廣大
全日本ボウリング協会	宮内久美子
日本武術太極拳連盟	渡辺敏雄
日本トライアスロン連合	中山正夫
日本ゴルフ協会	塩田良
日本スカッシュ協会	小前ひろみ
日本ボディビル連盟	小西康道
全日本テコンドー協会	高橋秀肇
日本ダンススポーツ連盟	岸尾政弘
日本カバディ協会	河合陽児
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ	中山裕章
	大崎暁美
株式会社博報堂	榎本芳久

4 スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1)各競技団体等の活動

日本陸上競技連盟	61	全日本柔道連盟	83
日本水泳連盟	62	日本ソフトボール協会	84
日本サッカー協会	63	日本バドミントン協会	85
全日本スキー連盟	65	全日本弓道連盟	86
日本テニス協会	66	日本ライフル射撃協会	86
日本ボード協会	68	全日本剣道連盟	87
日本ホッケー協会	68	日本バイアスロン連盟	88
日本バレーボール連盟	69	日本ラグビーフットボール協会	88
日本体操協会	70	日本カヌー連盟	89
日本バスケットボール協会	71	全日本空手道連盟	90
日本スケート連盟	72	全日本銃剣道連盟	91
日本アイスホッケー連盟	73	全日本ボウリング協会	91
日本レスリング協会	73	全日本アマチュア野球連盟	93
日本ウエイトレスリング協会	75	日本カーリング協会	94
日本ハンドボール協会	76	日本トライアスロン連合	95
日本自転車競技連盟	77	日本スカッシュ協会	96
日本ソフトテニス連盟	77	日本ボディビル連盟	97
日本卓球協会	79	全日本テコンドー協会	97
全日本軟式野球連盟	80	日本ダンススポーツ連盟	98
日本相撲連盟	81	日本カバディ協会	99
日本馬術連盟	81	日本セパタクロー協会	100
日本フェンシング協会	82		

(2)スポーツ環境専門委員の活動

板橋 一太(スポーツ環境委員)	101
小林 光(スポーツ環境委員)	103
松岡 修造(スポーツ環境委員)	104

(1) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

日本陸上競技連盟

1. 実施概要

世界規模で「地球環境保全」が叫ばれている現在、スポーツ界においても環境問題は避けては通れない大きなテーマだ。オリンピック開催に際しても、環境への配慮が大きな関心を集めており、本連盟はいち早くこの問題に対処すべく、2006年に総務委員会に環境プロジェクトを設け、その後、「JAAF グリーンプロジェクト」を立ち上げ、環境省ともタイアップし「チームマイナス6%」→「チャレンジ25」の募集活動と地球温暖化防止のPR、啓発活動を主催大会会場等において積極的に展開してきた。

さらに、本連盟が地域活性化イベントとして展開している「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」において、小学生を中心に将来トップアスリートを志す子どもたちに環境問題の大切さを訴えてかけている。

2. 2011年度事業活動

- ・啓発ポスターの活用（陸連独自のポスターの作成・JOCポスターの掲示）
- ・花の種の配布
- ・大会プログラムで「温暖化防止のPR」の掲載
- ・大会会場に環境PRの横断幕を掲示
- ・IT化の推進によるプログラム、リザルト等の紙減量運動の展開
- ・ごみ分別の指導

3. 具体的な活動実施内容とその成果

花の種の配布を下記4大会において実施した。

- セイコーゴールデングラプリ川崎（川崎）5月8日
- 第95回日本陸上競技選手権大会（熊谷）6月10日～12日
- 第19回アジア陸上競技選手権大会（神戸）7月8日～10日
- 名古屋ウィメンズマラソン2012（名古屋）3月11日

その他、上記を含む約10の国内大会において、競技場における横断幕の掲出やポスターの掲示を行った。

また、全国女性委員会議会場や、英国オリンピック委員会の来日時において、ポスターとともに写真撮影を行い、啓発活動を推進した。

4. 全体的な成果と今後の課題（JOCスポーツ環境専門部会員 風間 明）

主催大会会場等にて実施した環境活動（陸連独自の環境ポスター・横断幕等の掲示、掲載・大会プログラム紙上でのPR・植樹・花の種の配布等）の成果には手ごたえを感じている。今後は啓蒙、啓発活動から一歩前進し実践活動へ移行し、競技会の運営のなかに資源、

エネルギーの節減に努めるよう、大会のIT化を促進させ特に紙減量を目標に掲げていきたい。関係者一人一人が環境保全の重要性を十分に認識し、身の回りのことから実践頂けるよう啓蒙、啓発活動を継続していく。

また、「キッズアスリート・プロジェクト」を中心に、将来を担う子どもたちをターゲットにした環境保全の行動を進め、地球温暖化防止をともに考えていきたい。

日本水泳連盟

1. 実施概要

環境保護活動への取り組みは、地球で最も重要な資源である『水』にかかわる競技団体の使命と考え、今年度も積極的に活動を行ってきた。ひとりひとりが楽しみながら、環境問題に取り組んでいくことのできる新しい環境活動を提案していくとともに、水泳界全体として、地味で身近な活動を継続的に行っていくことにより、大きな実を結んでいくような活動を常に心がけている。

2. 平成23年度事業活動

- ・第3回水泳3団体主催エココンテスト「スイムエコアクションコンテスト」の実施
- ・第4回水泳3団体主催エココンテスト「スイムエコグッズコンテスト」の企画
- ・ペットボトルの削減 ・エコグッズ作成による啓蒙活動 ・ゴミ分別収集
- ・競技会監督者会議における環境啓発活動の説明および協力実施依頼
- ・競技会等における継続的環境啓発ポスターやバナーの掲示、チラシ配布
- ・OWS大会におけるビーチクリーニングの実施

3. 具体的活動実施内容とその成果

① 第3回エココンテストの実施

水泳3団体主催で「スイムエコアクションコンテスト」を実施し、応募総数149通の中からグランプリおよび準グランプリを決定し、「ジャパンオープン2011」大会開始式（平成23年5月20日）にて表彰式を行った。

【グランプリ受賞作】

『SWIM エコチャレンジ宣言キャンペーン』（金野幸浩さん・スウィン鴻巣SS）

※ スイミングスクールや学校などで、目標を決め、エコチャレンジを宣言。それぞれのチームが自分たちで決めたテーマに向かってアクションをし、水泳界全体の大きな環境保護活動に繋げていく。

→ 全国30団体よりエコチャレンジ宣言の申請。チームごとのユニークな宣言内容を日本水泳連盟ホームページにて全国へ公開。また、チームへ記念品を贈呈した。

② エコグッズの作成

エコバッジ：第2回エココンテスト「ECO スローガン募集」にてグランプリを獲得した作品（標語）をデザインした新エコバッジを作成し、全国に配布、啓蒙活動に活用した。

③ 紙削減プロジェクト、環境バナー・ポスター・チラシの配布、マイ箸・マイボトル・エコバッグの推進などの継続的活動の実施

④ 「IOC スポーツと環境賞」“IOC Award for the Sport and Environment 2011” の受賞
環境に配慮したスポーツ団体等への取り組みに対して贈られる「IOC スポーツと環境賞」に選ばれ、4月30日にドーハで行われた「第9回 IOC スポーツと環境世界会議」の開会式にて表彰された。表彰式には、佐野和夫会長（スポーツ環境委員長）が出席し、パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長（ハンガリー大統領）よりトロフィーを受賞した。ジャック・ロゲ IOC 会長より「スポーツが世界を元気づける大きな力になり得ることをしっかりと受け止め、スポーツを地球の恩恵を高めていくツールにしていく義務がある。今回の受賞者はみな、このコンセプトを理解し、表彰にふさわしい方々だ」と活動を評価された。

4. 全体的な成果と今後の課題

水泳界全体として環境活動に取り組むという目的のもとに始まった水泳3団体（日本水泳連盟、日本スイミングクラブ協会、日本マスターズ水泳協会）主催のエココンテストは4年目を迎えた。「エコ活動報告」、「エコスローガン」、「エコアクション」、「エコグッズ」の各コンテストにより、水泳に携わる者が環境活動に目を向け、ひとりひとりが自分にもできる活動に心を配ったことが水泳界全体の大きな力となり、国際的な評価へ繋がったと考えている。今後も、小さな努力を一步ずつと積み上げながら、活動の輪を少しずつ拡大し、長く継続できる活動を推進していきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会副会長 佐野 和夫

日本水泳連盟では、スポーツ環境活動の重要性をいち早く認識し、2005年にスポーツ環境委員会を発足させるとともに、広く水泳関係者、指導者、選手達に環境活動を啓蒙し、積極的かつ継続的に具体的な施策を推進してきた。

今後も、身近な環境活動を地道に続けるとともに、日本水泳界全体にエコ活動の普及、徹底を目指して努力していきたい。

日本サッカー協会

1. 実施概要

JFA の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境3原則（2009年7月に署名）、そして、環境省「チャレンジ25キャンペーン」（2010年1月に登録）に基づき各種活動の継続実施を行った。また、環境プロジェクトにおいては、「地球で一番愛されているスポーツだからこそ地球を一番愛しているスポーツへ」をテーマに活動を継続した。

2. 平成23年度事業活動

- ・主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- ・主催競技会におけるシャトルバス手配等による環境負荷への配慮
- ・主催競技会におけるクリーンスタジアム活動の継続
- ・JFA グリーンプロジェクトの推進
- ・Jリーグ各クラブの環境活動に関する活動把握や一部クラブへの活動ヒアリング／アドバイスの実施

- ・環境プロジェクトを通じた各種啓発活動の推進
- ・国連グローバル・コンパクトの国内分科会活動参加によるケーススタディの研究や情報収集活動
- ・オフィス（JFA ハウス）における環境への配慮（クールビズ・ウォームビズの実施等）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

〈競技会における代表的な活動〉

14競技会／約2,300名の参加により、クリーンサポーター活動は通算にて114回の開催、約1万9,800名の累計参加となった（2011年11月時点）。日本代表、U-23日本代表、なでしこジャパン、フットサル日本代表など各種競技会にて実施をした。

〈JFA グリーンプロジェクト〉

前年同様、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。今年度は、12月に FIFA 関連国際会議にて日本の取組事例紹介の場を持つことができた。

〈環境プロジェクト〉

6月、約300名の有資格者向けに環境啓発講演を実施することができた。また、12月に JOC 環境部会主催会議にて JFA の取組紹介を行った。

〈地域／Jリーグ〉

リーグをはじめ各種クラブにて活動を実施しているが、一部事例を下記に記載。

環境未来カップ 実行委員会	札幌市、北海道サッカー協会、北海道新聞社が中心となり、フットサル大会・環境クイズ・ECO リレーを行う「かんきょうみらいカップ」を2011年度も継続実施した。
アルビレックス新潟	「クリーン&セーフティー宣言」によるゴミの分別回収やクリーンサポーターの募集・清掃活動実施、リユースカップ使用など幅広い活動を継続実施した。
清水エスパルス	2008年～2012シーズンのホームゲーム開催に対するカーボン・オフセットの取組等から2012年2月、「第1回カーボン・オフセット大賞／環境大臣賞」を受賞した。
横浜 FC	LEOC トレーニングセンタークラブハウス内の照明設備を LED 照明（一部を除く）に変更をしました。
町田ゼルビア	町田市との協定を締結、「みちピカ町田」への応援、地域清掃活動への協力を開始しました。

4. 全体的な成果と今後の課題

各種清掃活動や啓発活動を通じて、確実に環境への意識は浸透している。本年については、東日本大震災の影響もあり、環境活動の実践だけではなく、節電協力、復興支援のための募金活動など、活動内容が変わった点がある。

具体的な成果として、一部ご紹介したい。

- ・ JFA 省エネ運転を強化（ピーク時から36.4%減）、現在も蛍光灯間引き等継続中
- ・ 川崎フロンターレ 「カーボンチャレンジ等々力」の名称の下、リユース食器の使用推進、啓発イベント実施など行政とも好連携を取り、ホームゲーム来場者の多くが環境実践活動に参加中

5. JOC スポーツ環境専門部会 岡田武史氏

2011年度も各地域にて多くの取組が実施された。特にJリーグでは、地域行政との強い連携により、J2チームを含めて、クラブによってはJFLにまで取組の裾野が拡大している。また、活動内容や方法も各担当者や各組織の創意工夫を伺い知ることができるものが多い。JFAではこうした好事例を情報収集すると共に、指導者の方々への環境啓発など、個人レベル・組織レベルと多面的に環境へのアプローチを模索していきたいと考えている。今後とも、こうした地道な環境実践活動や啓発活動を継続していきたい。

全日本スキー連盟

1. 実施概要

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し7年目を迎えている。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「雪」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

2. 平成23年度事業活動

- ・チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録活動
- ・「I LOVE SNOW エコアクション」の展開
- ・「I LOVE SNOW」One's Hands キッズフェスタ2012の開催
- ・オリンピックデーフェスタ in 雫石への協力

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<チャレンジ25キャンペーンへのチャレンジャー登録活動>

本連盟会員（約9万5百人）のチャレンジ25キャンペーンチャレンジャーとしての登録活動を推進し、環境保全に対する啓発活動を行った。

<I LOVE SNOW エコアクションの展開>

小さなことでも具体的なアクションに繋がる活動を目指そうという主旨のもと、温室効果ガス削減の啓発活動として、カーボンオフセットによるCO2の削減（I LOVE SNOW エコアクションロゴマーク入りのマグネットを販売し、その収入の一部をカーボンオフセットプロバイダーを介してニュージーランドの森林管理プロジェクトに使用する）を推進している。

また、「I LOVE SNOW キャンペーン」ホームページに、多くの選手、スキーヤー等のエコへの思いを掲載している。

<「I LOVE SNOW」One's Hands キッズフェスタ2012の開催>

現役選手、スキーヤーをゲストに迎え、東日本大震災で被災した東北地方の子供たちを対象とした雪上イベントである「I LOVE SNOW」One's Hands キッズフェスタ2012を岩手県と福島県で開催した。参加した子供たちがイベントを通して選手と直接ふれあうことで、復興に向けて元気を取り戻すと同時にスノースポーツの素晴らしさや雪の大切さを実感しても

らう機会を提供した。

＜オリンピックデーフェスタ in 雫石への協力＞

JOCが主催するオリンピックデーフェスタ開催に際し、後援者として海外からのゲスト招聘に協力を行った。また、参加した子供たちが雪上イベントを通して復興に向けて元気を取り戻し、スノースポーツの楽しさを実感してもらう機会の提供に協力を行った。

＜成果＞

これらの活動により、雪や自然を守ることの大切さ、小さなことでも日々実践することが環境保全に繋がることをアピールできた。

4. 全体的な成果と今後の課題

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し7年目を迎え、本キャンペーンの主旨や活動が定着し、環境保全に対する啓発活動ができてきている。今後もこの活動が継続的に進められるよう努めていきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 谷 雅雄

頻発する地震、局地的な大雪、ゲリラ豪雨、突風。日本はもとより世界各地で発生する自然の驚異と地球環境の変化を実感する機会が、近年ますます増加している。世界中の人がこれらの現象に注目し、環境保全に努めなければならない状況の中、本連盟は冬季スポーツ競技団体の特性を生かし、「雪」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全のメッセージを発信し、自らも継続してその活動を行っていきたいと考えている。

日本テニス協会

1. 実施概要

本協会では、5月より畔柳新会長が就任し、スポーツに共通のフェアプレイ、協会全体のチームワーク、グローバルな視野の三つを掲げて取り組みをしている。「テニス DE エコ」をスローガンに、本協会を中心に協力テニス団体、協力諸組織と協働して、持続可能な社会づくりを目指して、環境保全活動を推進している。

2. 平成23年度 事業活動

- (1) 協会主催大会におけるポスターおよびバーナー掲示
- (2) 「環境レポート」および「環境たより」の作成ならびに配布
- (3) 「ペットキャップならびにボールのアルミ缶ふたの回収
- (4) 学生大会・ジュニア大会での環境保全活動についてヒアリングと啓蒙活動
- (5) ホームページの活用

3. 具体的な活動内容とその成果

☆松岡修造委員直筆ポスターによる啓蒙活動

環境保全の活動は人々のこころの問題に帰するのではないか？

まわりのひとや美しい日本の自然、かけがいのない地球の未来に思いをはせることと考

え、「心の環境にエースをねらえ」ポスターでの啓発活動を展開している。

〈メッセージ〉

- ・しっかりパスは打ち分けろ！ 決めよう分別ショット！
- ・ジャッジも環境もクリーンに！ 自分の心の声を聞こう！
- ・来たときよりもキレイに！ 立つ鳥あとを濁さず！

☆ボールの回収とリユース

グローバルスポーツアライアンス（GSA）を通じてボールの回収とリユースをしている。本年度の実績として、3420校で413万個のテニスボールを学校へ配布している。これまでは、小学校での使用が多かったが、最近では中学校・高等学校からの依頼も増えている。現時点で30校3万個ほどが未発送で1カ月ほど待っていただいている状況である。

☆ジュニア委員会との共同提案

各都道府県・各地域・全国大会でのプログラムへ記載、ミーティングなどで啓発活動を行った。各地域や指導者が大変協力的であり、重要視している。ゴミの問題も含め、将来になう若者への環境への意識を高めていきたい。

☆日本テニス協会のホームページの活用

ホームページ内の環境の項目の充実を図り、「環境レポート」を取り出せるようにした。今後、様々な関係者へ目の触れるものとしていきたい。

4. 全体的な成果と今後の課題

ここ数年、世界のテニス界でも全豪オープンなどでのヒートルール適用や大気汚染による大会参加の拒否など環境への問題意識が高まってきている。国内でも、各地域、都道府県、各大会ごとに独自の取り組みも増えてきて、活動が発展化してきている。テニス団体ならではの活動を全国展開、共通展開してゆき、実践していきたい。

- 指導者資格講習会における啓蒙活動（プレゼンテーションビデオの作成）
- 実業団大会における各社の環境保全活動のヒアリングとCSR活動
- ジュニア大会・中学生小学生大会における選手・保護者・観客への啓蒙活動
- 47都道府県とのパイプラインの強化
- エコバックの作成とマイはしプラン
- ジャパンオープン大会での「環境トークショー」
- 事務局におけるエコ活動推進

5. JOC スポーツ環境専門部会員 生沼明人

環境保全はスポーツのみならず地球に住むすべての生物にとって大変重要なテーマである。スポーツは社会生活における中核的要素であり、トップレベルの選手競技会から余暇に行う運動にいたるまで、あらゆる活動と同様に私たちは環境の影響を受け、そして環境に影響を及ぼす。「人類と自然の調和」という概念は、有史以来あらゆる文明において共通理解を持たれており、持続可能な社会（サステイナブル・ディベロップメント）づくりのためにも、啓蒙活動・実践活動の日々邁進していくことはきわめて重要である。

一日ひとつずつ何かアクションをしていけるようにしていく。

日本ボート協会

1. 実施概要

日本ボート協会では、社会的な環境問題への意識の高揚やボート活動そのものが自然の中で行われるスポーツであることを考慮し、2007年度に「安全・環境委員会」を設立した。

「身の周りのできることから実行しよう」をモットーに、環境保全活動の基本となる環境方針を制定し地道な日常活動を継続している。

2. 平成23年度事業活動

- ・環境啓発ポスターの掲示
- ・大会会場でのゴミの分別収集・清掃
- ・練習水域付近の危険物の除去やゴミの回収等の清掃
- ・セイフティアドバイザー(各都道府県に1名)を通じた各団体への啓蒙活動

3. 活動内容とその成果

- ・大会プログラムへの環境啓発ポスターの掲載
- ・企業のボランティアグループと連携した清掃活動(全日本選手権)
ボート競技観戦は初めてという方もあり、競技普及へも貢献
- ・学生や社会人選手を中心に練習水域(荒川)での流木等の除去作業
- ・セイフティアドバイザー講習会では環境に関する講習、および各県講習会等での啓蒙活動推進の依頼(「スポーツと環境についてのレクチャー原稿」配布)。

4. 成果と今後の課題

活動を通じ、環境とスポーツは切り離すことのできない密接な関係にあることの理解が深まりつつある。これからは広報や普及など他の委員会との連携を強化し、啓発・実践活動の推進に努めていきたい。

日本ホッケー協会

1. 実施概要：

当協会は主管協会・連盟とともに、環境活動の重要性を促し、啓発・実践活動を行った。今後も全国の方々に広めていけるように、より多くの啓発・実践活動に取り組む。

2. 平成23年度事業活動

- ・大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示
- ・競技会等における環境活動
- ・研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示>

当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

<競技会等における環境活動>

当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。

<研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示>

当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が実り、選手・開催地等の関係者に環境活動の啓発が徐々に理解されてきた。今後は啓発活動に加えて、スポーツと環境保全の内容をより理解して頂き、実践活動を一人一人が行えるように促していきたい。

日本バレーボール協会

1. 実施概要

公益財団法人日本バレーボール協会<JVA>は、スポーツ団体が取り組む環境活動の重要性を認識し、昨年と同様、『CO₂削減にみんなが手を挙げれば温暖化はブロックできる』のメッセージを全国に発信した。特に全日本大学連盟等の全国バレーボール連盟や、都道府県バレーボール協会の理解と支援を求め、積極的に環境に関する啓発促進と実践活動を継続実施し、地球環境の保全に貢献した。また本年度より『バレーボールバンク』事業の活動を、積極的に展開した結果、全国から使用済みボールの回収が進む一方、東日本大震災被災地<東北3県>や東南アジア発展途上国への中古ボールの現物支給もスタートした。

2. 平成23年度事業活動

- ① 大会会場に、環境啓発のポスターやバナーの掲示
- ② 競技会場にて分別回収の促進<ダストボックスやビニール袋の設置>
- ③ 大震災後の電力不足対策として、室温や照明の調整を行い省エネに貢献
- ④ バレーボールバンクの積極的な展開

3. 具体的な活動実施内容、成果

- ① 大会会場に、環境啓発のポスターやバナーの掲示
 - ・全日本大学選手権会場、天皇杯会場等でポスターやバナーを掲示した
 - ・大会会長挨拶やパンフレット等、環境問題への積極的参画を追加した
- ② 競技会場にて分別回収の促進<ダストボックスやビニール袋の設置>
 - ・試合会場内に分別回収ステーションを多数設置し分別回収を実施した
 - ・大会開催要項に分別回収を追記すると共に、代表者会議等で協力依頼
- ③ 大震災後の電力不足対策として、室温や照明の調整を行い省エネに貢献
 - ・会場や控室の照明、空調温度を頻繁に調整した結果、電力消費量減少
 - ・蛍光灯の本数を減らすと共に、省エネ器具やLEDへの交換も進めた

- ④ バレーボールバンクの積極的な展開
 - ・各協会や選手にパンフレットを配布、試合会場に展示コーナー設置
 - ・東北3県にバレーボールバンクからボール贈呈、台湾にも贈呈した
- ⑤ JOC 環境ポスターの縮小版を、大会パンフレットに挿入した

4. 全体的な成果と今後の課題

昨年度と同様の課題を、本年度は更に加速させたい。

日本体操協会

1. 実施概要

日本体操協会では、これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施していく。

2. 平成23年度事業活動

- ・環境啓発横断幕の設置
- ・炭酸マグネシウム対策
- ・ゴミ分別回収

3. 具体的な活動実施内容とその成果

1) 環境啓発横断幕の設置

これまで実施してきた国内で実施される競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。また、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業において横断幕設置が慣例化されている。

2) 炭酸マグネシウム対策

継続的に問題視されている炭酸マグネシウム対策は、これまで同様に、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を踏襲して進めている。

3) ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを設置し、継続的な分別意識を啓もうした。特に役員の弁当箱などは、それ独自に回収し、円滑業者回収ができるように対応している。

4. 全体的な成果と今後の課題

本会だけでなく、各加盟団体が環境啓発横断幕設置などをイベントごとに必ず行っていることが慣例化したことについては、継続性が重要な本活動にとって意義あることである。引き続き、炭酸マグネシウム対策やゴミ分別回収活動と並行して意識醸成が必要である。ただし、最近ではメダリストなど著名選手による協力による活動が減っており、訴求効果のあるトップ選手参加を再び呼びかける必要がある。

日本バスケットボール協会

1. 実施概要

財団法人日本バスケットボール協会は、公益財団法人日本オリンピック委員会が進めている各種の環境のための啓発活動に同調し、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないとの自覚、スポーツ界にも環境対策が必要との認識を自らの行動と共に、傘下連盟・団体、プレイヤー及びファンの方々と共有するよう環境関連のメッセージを発信する等、環境保全活動を積極的に推進する。

2. 平成23年度事業活動

- ・(財)日本バスケットボール協会「環境基本方針」策定
- ・主催大会開催における環境啓発活動
- ・環境省、JOC イベントへの参画

3. 具体的な活動実施内容とその成果

〈主催大会開催における〉

- (1) プログラムへの環境取組みメッセージ広告掲載
- (2) 大会会場内への横断幕、ポスター掲示
- (3) 全ての活動を通じ、モノを大切にすること(3R)の継続推進
 - ・削減 (Reduce) ・再利用 (Reuse) ・リサイクル (Recycle)
- (4) ゴミの分別
- (5) その他
 - ①環境関連イベント(啓発活動)の実施と記録整理等
 - ②参加スタッフ、選手への啓発活動発信(マニュアル配布等)

〈団体内部における環境活動〉

- (1) クールビズ(夏季期間)、ウォームビズ(冬季期間)の実施
- (2) グリーン購入・調達の推進
- (3) 会議資料の電子化による紙の削減
- (4) 破棄用紙の活用
- (5) 不使用時のパソコン電源切断
- (6) ゴミの分別

〈各種取り組みの参画〉

- (1) JOC 主催担当者会議(12月)への参加
- (2) チェレンジ25キャンペーンへの参画、HPへのリンクバナー掲出

4. 全体的な成果と今後の課題

当協会の主催大会会場にて実施してきた環境活動(横断幕、ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告)への取り組みにより、選手、スタッフ、バスケットボールファン(観戦者)をはじめ、傘下団体においても環境に対する意識向上が見られてきている。しかし、まだまだ

だ末端まで浸透しきれていない部分があるため、来年度は環境活動の重要性を認識させるスローガンを制定し、日本バスケットボール界全体に環境に対する理解を求めて、積極的に環境保全に努めていきたい。

日本スケート連盟

1. 啓発対象競技会

【フィギュア】

国内大会	全日本ノービス	ポスター	パンフレット	
	全日本ジュニア選手権	ポスター	パンフレット	バナー
	全日本選手権	ポスター	パンフレット	バナー
国際大会	グランプリ NHK 杯	ポスター	パンフレット	バナー

【スピード】

国内大会	全日本ジュニア	ポスター	パンフレット	バナー
	全日本選手権	ポスター	パンフレット	バナー
国際大会	世界ジュニア選手権	ポスター	パンフレット	バナー

【ショート】

国内大会	全日本選手権	ポスター	パンフレット	バナー
国際大会	ワールドカップ名古屋大会	ポスター	パンフレット	バナー

2. フィギュア審判セミナー

- 東セミナー 9/10 (東京・176名) ポスター
- 西セミナー 9/17 (大阪・150名) ポスター
- スポーツと環境保全セッションにて、啓発スピーチ

3. フィギュア新人発掘合宿 野辺山 7/16～23

Aコース・Bコース開校式で電気と水についてレクチャー

4. 実践活動

- 競技会におけるゴミ分別の徹底
- ペーパーレスの推進
競技会結果等をホームページ掲載閲覧に振り替え記録紙の使用量を削減
- シールタンブラーを推奨し紙コップ、ペットボトル使用量削減に努めた

日本アイスホッケー連盟

1. 実施概要

- ・「この星にスポーツを」をスローガンに、エコ活動ブース等を設置し大会参加選手及び関係者に自覚を促し、大会期間中にエコ活動を積極的に行った。

これからは、地方にも目を向け、活動範囲を全国に発信して行く。

2. 平成23年度事業活動

- ・全日本アイスホッケー各種大会開催時に、啓発ポスター及びバナー等の掲示。
- ・全国大会時における選手及び団体に、チャレンジ25キャンペーン環境保全活動を推奨した。尚、対象大会は下記のとおり。

- ① 第6回日光杯全日本女子中学・高校生アイスホッケー大会（栃木県日光市）
- ② 第67回国民体育大会冬季大会（愛知県豊橋市、名古屋市、長久手町）
- ③ 第32回全国中学校アイスホッケー大会（栃木県日光市）
- ④ 第79回全日本アイスホッケー選手権大会（青森県八戸市）
- ⑤ 第16回全日本女子アイスホッケー選手権大会（B）（栃木県日光市）
- ⑥ 第31回全日本女子アイスホッケー選手権大会（A）（北海道札幌市）

3. 具体的な活動実施内容とその成果

〈大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示〉

- ・全国大会開催時に環境啓発ポスター、バナー掲示、エコ運動ブース設置、エコ活動実施等を行い、啓発活動を実施した。

- ① エコ運動ブース設置内容はCO₂削減、ゴミ減量（分別、リサイクル）、地球環境（温暖化、身近なことでできること）等、5枚のパネルで啓発を行なった。
- ② エコ活動内容は、大会開催時に、地域ボランティア（主婦及び観光協会職員）によるおもてなし活動を通して、ゴミの分別や再生容器の活用等を推進した、1大会で約50～70人程度のボランティアが参加した。

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスターの掲示、バナーの掲示、エコ運動ブース設置等、啓発活動を行った成果が徐々に実りつつ、選手を初め多くの観客や関係者に環境啓発の知識等、理解を得ることができた。

来年度からは、各種大会においてチャレンジ25キャンペーンを推奨しながら、各地方連盟に対し環境保全を積極的に取り入れ、実践してもらおうよう取り組んで行く。

日本レスリング協会

1. 実施概要

環境保全活動の啓蒙を中心に実践活動への移行、その中でもペーパーレス化に向けて始動

する。

2. 平成23年度事業活動

- ・傘下団体の大会時の環境保全に関する紹介やアナウンス
- ・会場内のポスターとバナーの掲示
- ・大会パンフレットおよび、協会機関誌、大会要項での啓蒙
- ・大会でのペーパーレス化

3. 具体的な活動実施内容とその成果

①大会時の活動

環境バナー、ポスターの掲示、大会プログラムへの掲載、会場内での環境活動啓発のアナウンスを行う。

②セミナー

- ・全国大会で優勝した5年～6年生を対象に行ったエリート合宿の中でスポーツと環境についての講義を行った。
※朝日新聞環境プロジェクトから「地球教室」という“子ども eco 検定テキスト”をいただき、参加者に配布した。
- ・協会の公認指導員養成講座の講義でスポーツと環境について講義を行った。

③その他

協会機関誌への環境活動の掲載

4. 全体的な成果と今後の課題

長期に渡り、啓蒙活動を重ねてきた結果、大会でのゴミの減量が実を結んできている。以前は会場内のゴミ箱の上やその周りに無造作に捨てられていたが、最近はその量が随分減っている。

ゴミの減量化、そしてペーパーレス化に向けて、各傘下団体の担当者の協力を得て、積極的に環境保全に努力していきたい。

5. JOC スポーツ環境専門部会員 鎌賀秀夫

本年度はペーパーレスの実現に向け、いかに推進していくか、準備の一年とした。実際には協会主催の全日本選手権、選抜選手権で多量に排出されるリザルトの減量に取り組んだ。

その結果は、リザルトを必要とする新聞、テレビ報道関係者に試合の進行および結果などを案内するには、会場内の電光掲示板が必要不可欠で、これまで通りの紙による情報提供となった。

目に見えたペーパーレス化は実現できなかったが、大会の実施要項や申込書をウェブ上でダウンロードし、申し込む大会も現れ、大会によってはメールでの申し込みなど、ペーパーレス化に向けて努力する大会もあり、少量であるがペーパーレスになった。

大会の案内、申し込み、そして協会の選手・役員登録も含め、紙でやり取りしてきた内容を電子化していくことにより、協会のペーパーレス化を推進していけると思う。来年度はその実現に向けて活動の輪を広げていきたい。

日本ウエイトリフティング協会

1. 実施概要

日本ウエイトリフティング協会は、スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

2. 平成23年度事業活動

- ・ 競技会での環境啓発活動
- ・ 競技会等における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

＜競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示＞

- ・ 前年度より継続して、各競技会や催事等において環境啓発のポスター、横断幕を会場内に設置した。

＜競技会等における環境活動＞

- ・ 当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器についても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生新人大会・全日本大学対抗選手権大会（2部）では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

横浜市磯子スポーツセンターで開催する全日本大学対抗選手権大会（1部）では、弁当に紙と経木でできた容器を使用している。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会などでは、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。

全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部へ2カ所の取り出し口のあるものを活用しているとともに、滑りにくいプラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用せずに競技会を行い、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナーの掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今後も、会場地等との協力のもと、環境保全の活動を行うとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、今後も様々な取り組みを行っていきたい。

日本ハンドボール協会

1. 実施概要

全世界的な環境問題を改善していくためには、我々一人一人の自覚が不可欠である。そこで、スポーツ団体が取り組める環境活動として、多くの方々が集まる大会等にあると考え、会場へのバナー・ポスター掲示、プログラムへのポスター掲出等を行った。これからは、各都道府県協会、各連盟とも積極的に連携し、個人個人の環境問題への意識が更に高まるように取り組みたい。

2. 平成23年度事業活動

- ・全国大会開催時の会場に環境バナー、ポスターを掲示
- ・大会プログラムへの環境ポスター掲出
- ・「チャレンジ25キャンペーン」の推進

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<大会における環境啓発活動>

- ・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出し広報した。
- ・環境ポスターを大会プログラムに印刷するようにした。

<チャレンジ25キャンペーンの推進>

- ・協会ホームページからチャレンジ25ページにリンクし啓発に努めた。
- ・都道府県協会・連盟・役員に「チャレンジ25キャンペーン」News Letter を再配信し、キャンペーン参加を促進した。

<事務局におけるクリーン購入・エネルギー節約>

- ・入口側の照明スイッチは、利用しない場合には極力消灯した。
- ・事務用品の利用にあたり、エコ商品の購入に努めた。
- ・資料配付にあたりメール添付を多用し、ペーパーレス化に努めた。
- ・夏季はクールビズとした。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境バナー、ポスターの大会や集会会場への掲出により環境問題への啓発活動を行って来たが、必ずしも十分に意識浸透したとは言えない。これからは、より具体的な例を挙げて啓発活動を行うことが必要と考え、他のNFの取組を参考に、その方法を検討していきたい。

日本自転車競技連盟

1. 実施概要

財団法人日本自転車競技連盟は、自転車競技自体の振興が環境保全に繋がることを再認識し、継続的活動を実行した。今後は、あらゆる機会を捉えてより一層の環境保全を推進する。

2. 平成23年度事業活動

- ・大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ・大会会場での環境パンフレットの配布
- ・紙消費量の削減
- ・ゴミの分別回収
- ・レース中でのゴミ廃棄の禁止

3. 具体的な活動実施内容とその成果

＜大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示＞

大会会場に環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

＜紙消費量の削減＞

大会開催時にコミュニケの配布を掲示に変更、また事務局、会議の通知、資料に電子メール、プロジェクターを活用、コピーの際は集約コピーをし紙消費量の削減に努めた。

＜ゴミの分別回収＞

大会会場でのゴミを分別回収し、廃棄でなくリサイクルへと繋げた。

＜レース中でのゴミ投棄の禁止＞

レース中に摂取した補給飲食物の包装紙等をむやみに投棄することが無いように、廃棄区間を設定し回収を実施した。また、競技規則を改定し規則化を進める。

4. 全体的な成果と今後の課題

関係資料の配布等の啓発活動から、今後は具体的な実践活動の実行により環境保全を押し進める。

日本ソフトテニス連盟

日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成23年度から環境・教育部会に変更した。

世界的規模で取組んでいる環境対策について、「この星にスポーツを」の横断幕を傘下47都道府県支部と日本学生連盟に2枚ずつ配布し、各支部の施設に常設するとともに大会や会議での啓発活動として掲載いただくとともにゴミの分別等エコ意識の高揚を図る活動を継続している。

23年度には、下記の全国大会会場で上記横断幕の掲載の他、環境ポスター掲示、リーフ

レット配布、機関誌・大会プログラムに「スポーツでつなぐあした」の刷り込み、分別ゴミ箱の設置、マイペットボトルより紙コップ削減のリデュース活動等々を実施して、大会参加の選手や観客と関係者の方々に環境問題に対して強い関心を持っていただく機会となった。

また、新たに「教育」の視点に立って青少年の健全育成の推進、スポーツマンとしての倫理教育を推進するとともに日体協の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに呼応し、ソフトテニス連盟としてフェアプレイとマナーのキャンペーンに取り組むスタートとして、全国指導者研修会議（小中高の指導者を各県から召集し24年2月実施）において「世界に誇れる、格調高いスポーツ“ソフトテニス”について」（環境・フェアプレイ・マナー）を主たるテーマとし、NPO 法人マナーキッズプロジェクト理事長田中日出男氏の「子どもは教われれば変わる -礼儀正しさのDNAは残っている-」、NPO 法人マナーキッズプロジェクト理事・小笠流礼法総師範鈴木万亀子氏の「指導者として-醜くあるべからず-」のテーマで講演をいただき、子どもだけでなく大人（指導者・保護者）のマナーについて研修会を実施した。

24年度からは長期基本計画2012がスタートするが「環境・教育部会」を中心に、引き続き上記の活動を各支部との連携を図り推進していく予定である。

主な大会名	開催日	会場	主管団体
世界選手権大会日本代表予選会	5/3～5/5	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シングルス選手権大会	5/21～22	大阪市	大阪府ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	7/29～31	瑞浪市	岐阜県ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	8/4～7	福知山市	京都府ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	7/28～8/4	青森市 大館市	青森県ソフトテニス連盟 秋田県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	8/17～19	明日香村	奈良県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	9/3～4	大分市他	大分県ソフトテニス連盟
JOC杯・全日本ジュニア選手権	9/10～11	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シニア選手権大会	9/9～11	鈴鹿市他	三重県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	10/14～16	松本市	長野県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	7/16～17	鳥取市	鳥取県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	7/16～17	白子町	岩手県ソフトテニス連盟
国民体育大会	10/2～5	宇部市	山口県ソフトテニス連盟
日本実業団リーグ	10/28～30	福知山市	京都府ソフトテニス連盟
全日本クラブ選手権大会	10/29～30	白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	11/18～21	宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	12/8～12	広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	24・2/5	大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

日本卓球協会

1. 実施概要

財団法人日本卓球協会（以下本会）は、本年度も、前年度の活動を継承しつつ、以下のような環境保全の活動・実践の普及を積極的に推進した。

2. 平成23年度事業活動

全国大会開催時の会場に環境ブース、ポスターの掲示、大会プログラムに環境ポスターの掲載等のチャレンジ25キャンペーンの継続推進。

ペットボトル削減とマイボトル普及及びペーパーレスの検討。

3. 活動実施内容とその成果

1) 本会環境委員会は平成17年に設置された。その後、全国大会会場に分別ゴミ箱を設置し、環境ポスター、標語の掲示を主管団体にお願ひし、環境保全のPR普及活動に努めた。

2) 「チャレンジ25キャンペーン」の本会ロゴマークを作成し、平成23年度より本会ゼッケンにロゴマークを印刷し登録会員全員に配布し地球温暖化防止に対する意識の向上を図った。

また、本会作成の名刺にもロゴマークを印刷した。

3) 平成23年度の全日本選手権大会（一般・ジュニアの部）開催期間中、環境委員会のブースを設け、地球温暖化防止の一環として、「今年の冬はウォームビズの運動に賛同してもらえるか」のアンケートを実施したところ、1,851名の回答を得て、地球温暖化防止の関心が高いことを示した。

4) 実践活動の一環としてペットボトル削減及びマイボトルの普及推進

下記2大会では、各選手・関係者に協力して頂き、会場に設置したボトルタンクから水等を支給し、ペットボトルの削減に努めた。

○全日本選手権大会（一般・ジュニアの部）

●前年度 500ml ペットボトル → 4500本

●今年度 500ml ペットボトル → 2500本、 20L ボトルタンク → 50個

○全日本クラブ選手権大会

●30L ボトルタンクを3ヶ所に設置。ペットボトル1箱（2L×6本入り）を110箱使用

●ゴミ廃棄処理代の削減

5) 各全日本選手権大会では、大会プログラムへ「チャレンジ25キャンペーン」のページをA4一枚掲載し、地球温暖化防止を呼びかけた。

6) 全日本クラブ選手権大会開会式に於いて、ペットボトル削減の一環としてマイボトルの持参協力を呼びかけた。

※ペーパーレスに関しては今後の継続検討課題として取り組む。

4. 成果と今後の課題

各事業の成果が実践活動を踏まえて実感できるようになり、大きな成果として捉えられ

た。

今後も継続的な環境保全活動の重要性は高まっていく。まず身近なところから地道に一つ一つ解決し、個々の意識を高めて更なる成果へのステップアップに繋げたい。

全日本軟式野球連盟

1. 実施概要

公益財団法人全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成17年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観客者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

また、使用済軟式野球用具を各支部から集め、軟式野球用具が入手しづらい地域の国へ寄贈する環境保全に繋がる実践的活動も行っている。

2. 平成23年度事業活動

- ・競技会等での環境啓発活動
- ・競技会等での環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<競技会等での環境啓発活動>

幣連盟主催大会及び講習会にて、JOC 環境啓発ポスター、JOC 環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、JOC 環境啓発パンフレット、全軟連環境パンフレットの配布を行った他、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、参加者や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

<環境活動>

使用済野球用具の再利用を目的に、8月にイタリアで行われた国際大会出場の際に、軟式野球ボールを4カ国に合計20ダース寄贈した。

その他の活動とし、国際協力機構（JICA）の「世界の笑顔のために」プログラムに申請し、使用済グローブやキャッチャー用具、ヘルメットなどをコスタリカ、ブラジル、ジンバブエに寄贈した。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境パンフレットの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び掛けにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上に繋がってきた。今後は、各支部大会においても積極的な環境啓発活動を行えるよう、支部へ呼びかけていきたい。

今後は、指導者講習会などを通して指導者に環境についての講義を行い、一般の成人選手及び子ども達にも環境について考えてもらえるような活動を行っていきたいと考えている。

日本相撲連盟

1. 実施概要

相撲大会の会場は、国技館や各県の県立武道館土俵など屋内の場合と靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれる。

これらの大会では、一般のごみの分別は徹底されておりスポーツ環境活動は十分に効果をあげている。

2. 会場別対策

- ・屋内の大会では、持ち込んだごみは各自持ち帰ることを徹底しており、ごみが放置されていることは殆どない。
- ・屋外においても、持ち帰りを指導しているが屋外の会場によっては大きな集積所が用意されているところもあり会場ごとに多少異なる指導をしており問題はない。

3. 相撲競技に特異な注意点

- ・屋内相撲場では砂に注意が必要である。

特に、小中学生の大会では、応援に来られている親御さんたちの席に少年選手達が砂を付けたまま入ることをしないよう厳しい指導を繰り返している。

砂は、足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の枱席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。

放送や見回りをして注意しているが、ここでは、親御さんや指導者の意識が大変重要になっている。

4. 全体の成果

ポスターや横断幕、チケットへの印刷、放送の繰返しなどによる徹底を図っているため、ごみについての心配はなくなっている。

「お借りした会場は、お借りしたときの状態に戻してお返しする」ことが礼儀である。総務委員会が中心になって環境活動をしているが、この「礼儀」も稔りつつある。

日本馬術連盟

1. 実施概要

子どもたちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2. 平成23年度事業活動

- (1) 馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示
- (2) ジュニア競技大会時に子どもたちに対し、環境活動の啓発

3. 具体的な活動実績内容とその成果

〈馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示〉

日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター、バナーの掲示、環境パンフレット

の配布を行い、啓発活動に務めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。

〈ジュニア競技大会時に子供たちに対し、環境活動の啓発〉

ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った。

大会名（開催場所）	参加選手数
第28回全日本ジュニア馬場馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	82名
第32回全日本ジュニア総合馬術大会（山梨県馬術競技場）	55名
第35回全日本ジュニア障害馬術大会（山梨県馬術競技場）	230名

4. 全体的な成果と今後の課題

平成23年度は、前年度に引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を継続的に続けることにより、啓発から実践に繋がると考える。今後も多くの方に、馬術競技大会を通じ、環境に対する啓発活動を続けていきたい。

日本フェンシング協会

1. H23年度事業活動方針

競技者、指導者等を中心に環境問題への関心を高めるべく啓蒙運動を図り、環境活動に関する理解を深める。また競技会等で実際に省エネ、ゴミ分別等に参加することにより実践を行う。

2. 活動実施内容と成果

- (1) 高円宮牌フェンシングワールドカップ GP 大会2011（H23年4月30日～5月1日・東京都）において環境ポスター、バナーを掲示して選手・観客等の参加者の啓発を図ることを当初予定した。しかしながら大震災の影響から予定した会場の体育館が使用できず、大会そのものを中止としたため実施不可となった。
- (2) H23年7月22日から24日まで開催された第24回全国少年大会（東京都台東区、出場選手750名）において震災支援キャンペーンに加えて、環境啓発案内（環境整備への参加呼び掛け）を行った。
- (3) 第19回 JOC ジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会（H24年1月7日～10日、出場選手1,100名）において環境ポスターを掲示して啓発を図った。年齢の若い選手（14歳～19歳）が対象であり、適宜アナウンスにより周辺の清掃・整頓について注意喚起を図った。
- (4) 第64回全日本選手権・個人の部（H23年9月9日～11日・東京都）、同団体戦（H23年11月24日～27日・岐阜県大垣市）、第66回国民体育大会（H23年10月6日～10日・山口県岩国市）等の日本フェンシング協会主催大会において、環境ポスター掲示を推進し、奨励した。

- (5) 破損した装備品・用具の回収を一元化して再資源化を図っている。
用具取扱業者の協力により、鋼鉄製の競技用剣などの破損部品を集中して回収した。
- (6) ペーパーレス化促進
H23年度については事務局からの支部への連絡（49支部）文書配布については90%以上を電子メールによる配信を実施し、役員連絡（理事19名、常任委員6名、監事1名）については電子メールによる配布を100%実施した。連絡事務においては大幅な紙幅の削減が可能になった。

3. 全体成果と今後の課題

- ・啓蒙のためのポスター・バナー等の掲示については、奨励を図ってきているが、地方支部が主管する競技会等ではなかなか浸透していない。支部と協力・連携が必要と痛感している。
- ・紙媒体の削減について、メールと電子ファイルの活用は進んでいる。受信側の装備から限界が見えている部分もあり、インターネットおよびHPの更なる活用を検討している。

以上

全日本柔道連盟

1. 実施概要

財団法人全日本柔道連盟では、前年度に引き続き、柔道ルネッサンス委員会と事務局が中心となって、環境保全に関わる啓発・実践活動に取り組んだ。

当連盟主催の下記大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、選手や当連盟役員とも協力して、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場や観覧席においては、担当の係員を配置し、選手や観客による自発的なゴミ分別とゴミの持ち帰りを徹底した。

2. 平成23年度事業活動

- ① 第26回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（平成23年4月17日、横浜文化体育館）
- ② 平成23年全日本柔道選手権大会（平成23年4月29日、日本武道館）
- ③ 平成23年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（平成23年9月10日～11日、埼玉県立武道館）
- ④ 平成23年度柔道フェスタ（平成23年10月10日、岩手県、茨城県、滋賀県、鳥取県、宮城県の5県）
- ⑤ 平成23年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（平成23年11月12日～13日、千葉ポートアリーナ）

3. 全体的な成果と今後の課題

平成23年度も、単に全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会における柔道ルネッサンス委員会が主導し、多くの都道府県において、大会時の観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会

場美化運動、あるいは社会奉仕として地元地域の清掃活動を実施している。

山口県からは、周南市で行われた山口県体育大会のプログラムに「柔道ルネッサンス宣言2010」を掲載し、正しいマナーに関する呼びかけを行ったことが報告された。

大分県からは、県内の各大会会場や昇段試験会場において、関係者が一番参加しやすい「ゴミ拾い」などの美化活動を、選手・保護者・指導者・観客が一丸となって行ったことが報告された。

鹿児島県からは、県内の各大会会場において柔道ルネッサンスの標語「来た時よりも美しく」を目標として美化活動を行ったことが報告された。

柔道界としては、嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。

以上

日本ソフトボール協会

1. 実施概要：

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOC 環境委員会のスローガンである「この星にスポーツを」、また（財）日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし！」を、大会毎にバナー掲示をし、継続的活動を積極的に行った。また、今年度より各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めた。また、本会主催のソフトボール講習会、ソフトボールフォーラムにおいて、環境啓発を行う。

2. 平成23年度事業活動

- ・大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示。
- ・各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れる。
- ・講習会等でのオリンピックを中心とする講師による環境啓発。

3. 具体的な活動実施内容とその成果

本会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。

また、本協会が主催する各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れ(別添)、啓発活動を行った。

また、本会が全国9地区で行うソフトボールフォーラムにおいて、講師を務める指導者（主にオリンピック）に、講習の際、環境問題の啓発のためのソフトボール版「5分間スピーチ原稿」を作成配布し、講師に環境啓発を講演の内容に織り込んだ。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、ソフトボールフォーラムでの講演などの啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることが

できた。

来年度以降も引き続きより多くの方々の環境に対する理解を求めて、積極的に環境保全に努めていきたい。

日本バドミントン協会

1 実施内容

年々、地球規模による環境問題に対し、一スポーツ団体として環境活動の重要性を認識して、環境委員会を中心に「出来ることから始める」をスローガンに登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めることを中心に地道ながら継続的な活動を実施し、そこから本会だけの活動に止まらず、より多くの人に発信していけるような活動を目標に取り組む。

2 23年度事業活動

- ・大会時環境啓発ポスターの掲示
- ・大会の要項に環境啓発項目を記載他、大会時の環境活動
- ・環境保全として、ゴミの分別活動実施

3 具体的な活動内容とその成果

<大会時等環境啓発ポスターの掲示>

本会評議員会、主催21大会において、環境啓発ポスター、パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

特に観客の多い日本リーグは全国18ヶ所にて開催しており、特に重点的に配布する。

<大会の要項に環境啓発項目を記載他、大会時の環境活動>

本会主催21大会の要項に以下の三つの事項を必ず記載し、環境活動の重要性を認識させている。

- (1) ゴミの分別収集に協力してください。
- (2) 部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
- (3) マイ歯ブラシを持参して大会に参加して下さい。

また、大会開催にあたり、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などにあたり電子メールを活用して、紙の削減を行い、参加賞等もエコバックを採用するなど、より環境保全の意識を高めることを徹底した。

<環境保全として、ゴミの分別活動実施>

大会時における役員、参加選手へのゴミの分別を徹底させている。

ナショナルチームからジュニアナショナルチームまでの選手に対しては味の素ナショナルトレーニングセンターの練習における年間のドリンク類の使用量の多さに注目し、キャップと本体の分別、ゴミの分別を徹底し、環境活動の重要性を認識させている。

4 全体的な成果と今後の課題

本会では平成18年4月1日より、初めて環境委員会を正式に立ち上げ、主に大会時におけるポスター掲示、パンフレット配布など地味な活動を中心に行った。選手を始め、加盟団

体の関係者、登録会員には環境啓発の知識、理解を得られたと認識している。今後は継続的に現在の活動を続けるとともにより環境にやさしい、具体的な実践活動を目指して、スポーツと環境のかかわりを多くの方に理解していただくように活動していきたい。

全日本弓道連盟

1. 実施概要

スポーツ団体として環境活動の重要性を認識し、参加者各位へ啓発活動を行った。

2. 平成23年度事業活動

- ・主催行事における環境啓発活動
- ・主催行事における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

〈主催行事における環境啓発〉

本連盟主催講習会にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。

本連盟主催講習会におけるスポーツと環境に関するレクチャー。

〈主催行事における環境活動〉

照明、空調の調整をこまめに行い、CO₂削減について取り組んだ。

4. 全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示など啓発活動により、参加者に環境保全を促すことが出来た。

これからも個々の意識を高め、実践活動に繋げていくことが必要だと考えている。

日本ライフル射撃協会

1. 実施概要

(社)日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会内に「環境部会」を設置している。環境保全に関する取組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2. 平成23年度事業活動

- ① 競技会等での環境ポスター掲示。
- ② 射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施。
- ③ 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業。
- ④ 環境保全に関する内容を講習会で実施

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① 競技会等での環境ポスター掲示。

全国加盟団体に環境ポスターを配布するとともに全国競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

② 射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動等の実施。

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともにゴミを持ち帰ることによる施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明等の電力省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③ 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業。

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

④ 環境保全に関する内容を講習会で実施

日本体育協会公認コーチ講習会で、環境保全についての取り組み内容を講義で説明することにより指導者への意識の向上に努めた。

4. 全般的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会で行うことにより、会員の意識の向上に成果があった。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌やウェブ上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を計画する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理は全国で適切に処理されている。

施設利用時の場内清掃の励行（クリーン運動）やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践について、会員の理解と協力を得る中で拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示す中で、身の周りのできることから実施する。

全日本剣道連盟

1. 実施概要

3Rの実行は、形式的・その場限りの傾向になりがちであるが、「地球規模の環境保全」につながっているとの認識を啓発し、持続可能な3Rにすることに重点を置いた。

2. 平成23年度事業活動

- ・中古防具の海外寄贈事業の継続
- ・環境保全啓発ポスターの効果的活用
- ・大会でのゴミの分別回収と節電（照明・空調）

3. 平成23年度具体的な活動実施内容とその成果

- ・中古防具の海外寄贈：23年度も、全国から寄せられた中古剣道具・剣道着・袴を補修の上、80セット寄贈した。毎月、広報誌で寄贈者名とお礼を掲載、海外寄贈結果を報告し

て、事業の定着を図った。

- ・リサイクルボックス周辺へ環境ポスター掲示：環境保全啓発ポスターを大会時だけでなく、日常、職場のリサイクルボックス周辺に掲示することで、「地球規模の環境保全」の意識の啓発に努めた。
- ・大会でのゴミの分別回収（大会関係者の弁当箱の専用回収）、会場内照明の節電（天井スポットは決勝戦等、1コート使用時のみ点灯）。

4. 全体的な成果と今後の課題

他の競技団体の取り組み事例を参考に、活動の幅を広げ、実績を積み上げていきたい。

日本バイアスロン連盟

1. 実施概要

バイアスロン連盟として取り組めることが出来る環境活動の重要性を認識し、継続的活動を行った。これからは、団体だけの活動にとどまらず、全国に発信していけるような活動を目標に取り組む。

2. 具体的な活動実施内容とその成果

- ・大会時、環境啓発ポスター、バナーの掲示
- ・競技会後の環境活動

3. 全体的な成果と今後の課題

＜大会時、環境啓発ポスター、バナーの掲示＞

連盟主催大会において、環境啓発ポスターを掲示、啓発活動を行った。

＜競技会場の環境活動＞

札幌市西岡競技場、岩手県田山競技場内の射場周辺における弾体・破砕弾頭（鉛）回収活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスターを掲示等の啓発活動、弾体・破砕弾頭（鉛）回収活動等により、選手をはじめ、多くの関係者に環境保全知識や理解を得ることが出来た。これからは、より実践的活動を主体に活動を進めて行くこととする。

スポーツと環境が大きなかかわりを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえるようこれからも積極的に環境保全につとめていきたい。

日本ラグビーフットボール協会

日本ラグビーフットボール協会は、管理委員会に環境部門を設置より5年目迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組み事例の研究及び検討を行い、『社会貢

献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして下記の事業を実施した。

1. 事業活動

- ①日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- ②地球温暖化防止のための『チャレンジ25キャンペーン』（環境省主管）加盟メンバーとして環境保全活動への協力
- ③協会内各委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進を図る
- ④日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
- ⑤2011年12月2日開催のJOC環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例の研究
- ⑥2016年リオデジャネイロオリンピック（公式競技決定）、2019年ワールドカップ（日本開催決定）に向けての環境PRの発信

2. 具体的な実施内容

- ①広報活動（環境啓発PR）
広報委員会との連携によりホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境保全運動を推進した。
 - ・「FOR ALL, FOR EARTH」の日本協会環境タイライン活用
 - ・「チャレンジ25キャンペーン」の露出PR
- ②試合（競技場）を観客・ファンへの環境啓発活動のチャンスと捉えてのPR推進、場内アナウンスにより、ゴミ分別回収協力の呼び掛け
- ③秩父宮ラグビー場での「エコキャップ運動」をスタートし、ペットボトルキャップを回収し、資源の再利用促進することでCO₂排出量の削減、キャップの再資源化で得る売却益を以って発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動を行った。また、キャップの回収した総数、それを焼却した際に発生するCO₂の量、提供できるワクチン数は定期的にホームページ等で報告している。
- ④試合開催時にチャレンジ25イベントブースを設置しファンへの参加協力呼びかけ（朝チャレ！）
- ⑤トップリーグ参加チームと日本協会による「Try For Greenプロジェクト」を展開。トライ数に応じた寄附により、森林保全活動「トップリーグの森」支援を行う（2月27日網走市水谷市長に寄付金を寄託）
- ⑥省エネルギー、エコ商品利用、試合観戦時の公共交通機関利用の推奨

FOR ALL, FOR EARTH.

日本カヌー連盟

1. 実施概要

本連盟では、「環境対策委員会」において従来より「クリーンリバー・クリーンウォーター

一活動」を推進し、JOC スポーツ環境委員会提供ポスター及び横断幕を国内主要競技大会期間中に掲示することで環境保全に対する啓蒙活動を行ってきた。

「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」は1981年より各種大会において利用する河川、湖等において競技会開催期間中の水上及び周辺施設内の清掃を行うことを主にして継続的に活動している。

2. 平成23年度事業活動

- ①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示
- ②競技会等における環境活動

3. 具体的な活動内容と成果

- ①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示
本会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕掲示を行い、啓発活動を行った。
- ②競技会等における環境活動
分別収集用のゴミ箱を設置し、競技会場周辺の自然環境を美しく保つよう呼びかけた。
競技会終了後は、選手も加わって撤収、清掃活動を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

元々自然環境下で行うスポーツであることから、環境保全に関しては選手・役員共に関心は高いが、今後は観客を含め、更に環境に対する意識を高めるべく活動を行っていきたい。

全日本空手道連盟

1. 実施概要

東日本大震災に伴う原発事故の影響により、エネルギー不足が懸念される中、当連盟でも“できることからはじめよう”のテーマのもと、日本空手道会館内の節電や、その他会館内で環境保全に関する取り組みを行った。

2. 平成23年度事業活動

- (1) 徹底した節電
- (2) 講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ
- (3) 印刷ミスを減らす工夫をし、紙を削減
- (4) 環境に配慮した事務用品の導入

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- (1) 日中は廊下の電気をすべて消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を張り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行った結果、冷暖房の使用を控えたり、エレベーターの使用を可能な限り回避し、階段で移動を行う姿が多くみられた。また、日常の業務においても、職員は夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめにして極力上着やひざか

けを使用し節電に努めた。

- (2) 日本空手道会館を利用するすべての団体に対しゴミの分別を呼び掛けた。
- (3) プリンターに“私書箱プリント”という機能を導入し、印刷のミスを減らし、紙の使用を抑える工夫を行った。
- (4) 針の要らないホチキスを導入し、会議資料等で使用した。

4. 全体的な成果と今後の課題

当連盟では震災前から徹底した節電を行ってきたが、掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、日本空手道会館で行なわれる強化合宿や講習会等では温度が控えめに設定された。また、事務局で行ってきた(3)(4)の活動については、環境保全に対する意識が各傘下団体に波及していくよう、今後も取り組みを継続していく。

全日本銃剣道連盟

1. 実施概要

全日本銃剣道連盟主催の各種大会、講習会で、環境保全に対する取り組みを選手・監督・役員・受講者へ積極的に「スポーツと環境」の重要性について理解と協力をお願いした。

2. 23年度事業活動

各種大会及び主要施設へのポスターの掲示を行った。
各種大会では、ゴミの分別回収を行い、清掃の徹底で環境保全をアピールを行った。

3. 具体的な活動内容と成果

- ・各大会での主要場所へのポスターの掲示
各選手、監督及び監修に環境保全のアピールができた。
- ・大会時に環境活動としてゴミの分別と持ち帰りを徹底させた。
- ・コピー用紙やFAX用紙の両面使用を徹底した。

4. 全体的な成果と今後の課題

各大会及び講習会で、環境啓発や知識を得ることができた。更に各種大会及び講習会では、スポーツと環境が大きな係りを持つことを、更に認識をし、積極的に環境保全に貢献していきたい。

全日本ボウリング協会

1. 実施概要

スポーツと環境保全への啓発活動は、「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」ことを選手に認識させること方針として、平成23年度も引き続き常設委員会である「普及開発委員会」が担当した。具体策としての大会における活動については、同じく常

設委員会の「競技委員会」と、特別委員会の「情報技術（IT）委員会」が協力した。

2. 平成23年度事業活動

- ・協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示とパンフレット配布
平成23年度定時評議員会・理事会、平成23年度協会主催各大会
- ・協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導
- ・記録用紙の使用量削減を実施
競技成績の大型スクリーンによる公開、データ活用によるスコアシート使用削減

3. 具体的な実施内容とその成果

＜協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示とパンフレット配布＞

＜協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導＞

協会が主催する全国大会や、定時評議員会・理事会などの会場に環境啓発ポスターを提示した。一部の大会ではプログラム冊子に環境啓発の広告を掲載し、選手・役員への環境啓発パンフレットの配布を行った。また全ての協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」では、環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンス等により、選手、役員、観客など、大会に関わるすべての人がマナーを意識し守るよう導くことを目標とし実施した。

＜記録用紙の使用量削減を実施＞

「競技成績の大型スクリーンによる公開」を、全日本選手権大会をはじめ多くの大会で導入した。この方法は平成21年度より開始したが、従来の紙プリント主体の成績速報配布と比べ、コピー用紙削減と情報伝達のスピードUPに大きく貢献している。また携帯端末で大会の成績を見ることができるwebサイト（携帯版試合速報）も定着し利用者の増加が続いている。情報提供の多様化が一局集中を防止し、結果を素早く、スムーズに知りたいという選手側のニーズにも応えている。

「データ活用によるスコアシート使用削減」は平成23年度に初めて実施した。レーンに付設されているオートスコアラの記録データをそのまま競技記録集計に活用することで、これまで競技シフトごとに配布し記入・提出を義務付けていた複写式スコアシートの使用を抑えることができた。会場の設備を利用する形式のため、フォーマット等の面で実施できない大会もあったが、記録集計スタッフの作業負担軽減も可能で、今後実施大会の数を増やしていきたいと考えている。

いずれも選手・スタッフの両方から好評を得ることができた。

4. 全体的な成果と今後の課題

選手・観客の興味が集中する大会の成績・記録の面で、今年度は新たな方法を導入することができた。どの方法も選手の意識や評価が運営側を動かすきっかけとなって実現しており、選手のエコ意識と大会運営に対する期待度の高まりを実感している。今後も選手の意識啓発と様々なアイデアの提案・実現を並行して進めてゆくことで、より高い成果を目指したいと考えている。

全日本アマチュア野球連盟／NPO法人アオダモ育成の会

1. 実施概要：

日本野球界全体が環境活動の重要性を認識し、「～愛する自然と野球のため～アオダモ植樹キャンペーン2011」をスローガンに北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取組みを展開している。7月には林野庁皆川芳嗣長官より、その功績に対して感謝状をいただいた。

2. 平成23年度事業活動：

・植林活動 ・木製バットリサイクル活動 ・募金活動

3. 具体的な活動内容とその成果：

・植林活動－（1）平成23年7月10日（日）午前10時00分～11時30分、場所：新冠国有林 2101林班る小班、参加者：札幌工業高校野球部員49名、美宇スポーツ少年団15名、地元ボランティア、国有林・道有林及びアオダモ資源育成の会関係者など 計143名、植樹1000本

（2）平成23年7月23日（土）午前15時00分～16時00分、場所：苫小牧国有林 1283林班は小班、参加者：鶴岡慎也（北海道日本ハムファイターズ）、細谷 圭（千葉ロッテマリーンズ）、又野知弥（東京ヤクルトスワローズ）、北海道札幌平岸高校野球部員27名、苫小牧駒澤大学野球部員12名、地元ボランティア、国有林・道有林及びアオダモ資源育成の会関係者など 計108名、植樹200本

（3）平成23年9月17日（土）午前10時～11時30分 場所：由仁町道有林 119林班02小班、参加者：北海道立命館慶祥高校野球部員39名、千歳リトルシニアチーム18名、セガサミー杯参加チーム44名、地元ボランティア、国有林・道有林及びアオダモ資源育成の会関係者など 計176名、植樹500本

（4）平成23年10月15日（土）午前10時～11時30分、場所：苫小牧つた森山林内、参加者：北海道苫小牧中央高校部員18名、ポニーリーグ苫小牧中央ベースボールクラブ23名、サンリーグ苫小牧クラブ5名、（株）苫東、地元ボランティアなど関係者 計61名、100本

・木製バットリサイクル活動－これまで焼却廃棄されていた折損バットをリサイクルの原材料として箸等の木工製品に加工している。

・募金活動－ミニバット「BAT FOREVER」募金の実施。本会の主旨を広く一般に理解していただくとともに、全野球人のこの運動への参画を願い、募金商品としてミニバットを製作した。破損バットをリサイクルしたこのミニバット2本を購入することで1本のアオダモの苗木を植える事が出来る。

4. 全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きな係りを持つことを以前から考え啓蒙し、実践してきた。すでに「NPO法人アオダモ育成の会」が出来て10年以上経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

以上

日本カーリング協会

1. 実施概要

全国のカーリング専用ホールへポスターの展示を行うとともに、環境保全活動に対する意識の向上を目指した。

2. 平成23年度事業活動

専用施設へのポスター掲示

- ・スカップ軽井沢（長野県）
- ・カーリングホール御代田（長野県）
- ・青森市スポーツ会館（青森県）
- ・北見市 常呂カーリングホール（北海道）
- ・妹背牛町カーリングホール（北海道）
- ・北海道立サンピラーパークカーリング場（北海道）

3. 具体的な活動内容とその成果

日本カーリング協会主催大会においてポスターの掲示を行い、大会参加者、スタッフを含めゴミの分別回収の徹底をし、環境への意識の向上を図った。

全国的に見て、分別のゴミ回収に関しては意識が高く、環境保全活動の次のステップに向かい新たな段階に進む検討に入ることができると確信した。

《実施大会》

- ・第20回 全農日本ジュニアカーリング選手権大会 平成23年11月30日～12月4日
長野県軽井沢町 風越公園 スカップ軽井沢
- ・第2回 全日本大学カーリング選手権大会 平成23年12月9日～11日
北海道帯広市 カールプレックスおびひろ
- ・軽井沢国際カーリング競技大会 平成24年1月25日～29日
長野県軽井沢町 風越公園 スカップ軽井沢
- ・第29回 全農 日本カーリング選手権大会 平成24年2月9日～14日
青森県青森市 青森市スポーツ会館
- ・第7回 全国高等学校カーリング選手権大会 平成24年2月23日～26日
青森県青森市：青森市スポーツ会館
- ・第5回 日本ミックスダブルスカーリング選手権大会 平成24年2月29日～3月4日
北海道 北見市 常呂町カーリングホール
- ・第9回 日本シニアカーリング選手権大会 平成24年3月8日～11日

4. 成果と課題

スタッフ、競技者の意識は徐々に高くなってきているので、今後は大会のサブテーマの一つとして環境問題に対する取り組みを入れていくことを検討してみたい。

また、観客も増えつつあるので、見ていただく方に環境問題を協会としてアピールする方法も検討したい。

日本トリアスロン連合

1. 実施概要

「グリーントリアスロン」(※1)をスローガンとする環境保全活動の実施
(※1)「グリーントリアスロン」とは、国際トリアスロン連合 (ITU) と日本トリアスロン連合 (JTU) が共同で取り組む、「トリアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース (減らす)、②リユース (再利用)、③リサイクル (再資源化) の3つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

2. 平成23年度における主な事業活動

- (1) グリーントリアスロン in 横浜 [2011年8月20日 (日) 山下公園]
- (2) グリーントリアスロン in 横浜 [2011年9月18日 (日)・19日 (祝月) 山下公園]
- (3) グリーントリアスロン in お台場 [2011年10月16日 (日) お台場海浜公園]

3. 具体的な活動とその成果

- (1) グリーントリアスロン in 横浜 [2011年8月20日 (日) 山下公園]
 - ①大会開催1ヶ月前にスタッフ・スポンサー・一般来場者の協力にて、会場内清掃およびスイムコースの海底清掃を実施。
 - ②付帯イベントとして、山下公園来場者に対し、海の生物紹介や海底中継を実施。トリアスロンを通じた、自然環境の周知につながった。
 - ③海底清掃後、試泳を実施。水質の安全PRにつながった。
- (2) グリーントリアスロン in 横浜 [2011年9月18日 (日)・19日 (祝月) 山下公園]
 - ①大会 EXPO 会場にブースを出展し、啓発パネルやのぼりを掲出。
 - ②MC の呼びかけにて「グリーントリアスロン」活動の周知を実施。
 - ③大会ホームページにて公共交通機関の来場を促進。
 - ④グリーングッズ着用によるイベントを実施し、来場者への意識向上につとめた。
- (3) グリーントリアスロン in お台場 [2011年10月16日 (日) お台場海浜公園]
※ (2) と同内容を実施

4. 全体的な成果と今後の課題

- (1) 事業初年度であったが、「グリーントリアスロン」のフレーズとマークの効果によ

って、各会場でスムーズな活動ができた。

- (2) 本事業の継続を図る。今後、大会開催時に常に実施する環境活動として全国に浸透する。
- (3) ホームページによる事業周知と、全国加盟団体へ啓発ツール提供による普及を検討。

5. その他

全国各地で開催されている大会においても、ゴミの分別やコース周辺のゴミ拾いなどは一般的に行われている。

日本スカッシュ協会

1. 実施概要

今年度は昨年のキャンペーンを継続して行った。コートを保有するクラブ利用時の心構えなど、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるよう取り組んだ。

2. 平成23年度事業活動

- ・大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施（マイカップ・靴袋リユース）
- ・大会会場に JOC 制作の環境啓発ポスターを掲示
- ・大会表彰式に環境啓発のスピーチを入れる
- ・協会公式サイトで啓発

3. 具体的な活動実施内容とその成果

<大会開催時の実施状況>

当協会主催の全ての大会で JOC 啓発ポスターを掲示。当協会エコキャンペーンは2年目に入るため、周知されており、さらなる啓発を行った。

<エコキャンペーンの具体的内容>

ジュニア大会ではドリンクはマイボトル、マイカップを利用する様に給水タンクを用意する。この活動は何年も継続してきているため、すでに定着している。

全日本選手権では会場への公共交通機関の使用を促し、上履き使用のための靴袋は観客が自発的にリユースを行い、スタッフは持参のマグカップやマイボトルでドリンクゴミを減らす努力を行った。

4. 全体的な成果と今後の課題

四年目となるエコキャンペーンは、ジュニア大会では意識が定着し、子供達が率先してキャンペーンへ参加している。大人を対象とした大会でもスタッフを中心にエコ意識の向上が見られている。この意識が選手や観客に波及し、より広がって行く事を期待したい。平成23年度は当協会の40周年記念であったため、記念行事に重点が置かれ、新規エコキャンペーンは行えなかったが、何よりも継続して環境意識を持ち続ける事が非常に重要である。その事を念頭に、今後の活動を続けていきたい。

日本ボディビル連盟

1. 実施概要

役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っている。

2. 平成23年度事業活動

- ・事務局での電子化によるペーパーレス化
- ・競技会等における環境美化活動
- ・大会プログラムへ啓発資料の掲載
- ・大会会場での広報活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ・電子化によるペーパーレス化を図っている
- ・ボディビル全日本選手権大会をはじめ各ブロック大会、地方大会等年間約50回開催される大会会場でゴミの分別化
- ・大会プログラムへ啓発資料の掲載
- ・環境標語横断幕の設置による広報
- ・ポスター掲示等の広報活動

4. 全体的な成果と今後の課題

- ・ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載など啓発活動を行った結果、役員、選手、観客などに徐々に環境問題意識が高くなって来た。
- ・「出来ることからやる」「STOP！ 地球温暖化」をスローガンに役員一丸となり環境問題に積極的に取り組む。

全日本テコンドー協会

1. 実施概要

平成23年度より全日本テコンドー協会は環境委員会を新たに設置し、環境問題への取り組みをより積極的に行うための組織作りを行った。本年度の活動方針は、前年度の環境にやさしい大会運営を軸として、新環境委員への意識改革を推進し、各都道府県での大会開催時に各委員による啓蒙活動および指導実施を行い、環境問題への取り組みについて一歩ずつ広げていく事を目標とし、活動致した。

2. 平成23年度事業活動

- ・大会時環境啓発ポスター掲示
- ・会長挨拶文での環境啓發文挿入
- ・大会時ゴミの分別回収及び持ち帰り運動の推進

- ・大会時節電・節水の呼びかけ
- ・事務局内での裏紙使用・ペーパーレス化推進
- ・環境委員による環境指導巡回
- ・各都道府県大会時への環境啓蒙活動
- ・各委員より改善情報収集
- ・JOC 環境セミナーへの参加
- ・マイボトル持参の促進
- ・大会終了後の巡回による清掃確認
- ・大会駐車場への最終確認

3. 具体的な活動実施内容とその成果

各都道府県選手権大会、全日本選手権大会、選考会等においてゴミの分別回収、会場内環境ポスターの掲示、環境委員による巡回美化運動の促進など、啓蒙活動を実施した。以前に比べ大会中、自販機周辺の乱雑さは解消されており、大会終了後の会場管理者の方からも良い評価を頂いている。環境活動へ取り組む姿勢が着実に浸透している事を実感している。

4. 全体的な成果と今後の課題

当協会では、「環境にやさしい大会運営」をテーマに基本的な環境問題を考え当協会で作る事案をひとつひとつ実践した結果、大会主催側、大会関係者運営、出場選手、来場者等に良い評価を受け、より環境にやさしい大会運営への意欲に繋げて行く事が展開できた事が成果だと思われる。今後の課題としては、積み重ねた経験を活かし主要国内大会同様に、当協会加盟団体等への環境問題の意識啓蒙を推進し、さらに環境活動への啓蒙を継続し、共同体制への確立を目指していきたいと考えてる。

日本ダンススポーツ連盟

1. 実施概要

当連盟（JDSF）においては、数年前よりJOCが提唱する環境保全に関する活動については理解しつつも、体系的な取り組みは皆無という状況であった。そこで、まず、事務局を中心とした環境委員会（委員長ほか3名）を設置し、活動を開始することとした。

2. 平成23年度事業活動

- ・環境委員会の設置
- ・JOC 環境横断幕の作成

3. 具体的な活動実施内容とその成果

JDSF ロゴマークをも配したJOC 環境横断幕を2枚作成し、3月11日開催の第14回東京インターナショナルオープンダンススポーツ選手権（於：東京体育館）でお披露目した。

4. 全体的な成果と今後の課題

JOC 環境横断幕の活用として、JDSF 主催競技会（年約10回）において掲示することにより環境問題の重要性を訴えていく。

また、JDSF 及び加盟団体の各イベントにおいて、JOC ポスターの張出し、JDSF 環

境ポスターの製作・張出し、イベントでのごみ分別・持帰り啓発、事務所・ダンススポーツトレーニングセンター(DTC)での紙及びコピーの削減、環境保全の啓発活動などを積極的に進め、環境保全に努めていきたい。

日本カバディ協会

1. 実施概要

日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置以来、引き続きスポーツと環境保全の啓発、実践活動を行っている。これからは、より積極的な活動を全国に展開できるよう、組織づくりをしていきたい。

2. 平成23年度事業活動

- ・大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会）での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
- ・競技会等における環境活動
- ・事務局における環境活動

3. 具体的な活動実施内容とその成果

＜大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布＞

当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行った。

＜競技会等における環境活動＞

ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項記載した。

お昼時間を設け食事はなるべく食堂を利用するなど、ゴミが出ないようにした。

＜事務局における環境活動＞

ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXでの送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減にも心がけている。

4. 全体的な成果と今後の活動

大会におけるバナーや呼びかけの成果が実り、自主的にごみの分別を行う選手が今まで以上に出てきた。カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツである。

そのようなスポーツだからこそ、今後選手を始め、関係者の環境問題への意識付けをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。ただ、まだ現状は組織的に環境委員会が動けていない。今後は会議などでも議論し、全国規模で展開していけるよう努めていきたい。

日本セパタクロー協会

1. 実施概要

日本セパタクロー協会では、環境委員会及び事務局メンバーが中心となり、平成23年度もスポーツと環境保全に関する啓発・実践活動を積極的に推進してきた。

事務局では、チャレンジ25キャンペーンで紹介されている6つのチャレンジ、25のアクションで紹介されている地球温暖化防止につながるアイデアなどを参考にして、極力温室効果ガスの排出量をおさえる努力をし、低炭素化社会づくりの重要性について、大会などを通して会員に啓発する活動をすすめてきた。

2. 平成23年度事業活動

- ・事務局におけるエコを意識した業務の実践
- ・大会時の啓発活動及びCO₂削減活動の実践
- ・環境活動団体への賛同

3. 具体的な実施内容

- ・事務局の空調温度管理及び稼働時間の短縮、照明のこまめな消灯
- ・不使用時のPC電源OFF
- ・ゴミ分別の細分化及びエコキャップの推進（収集・寄付）
- ・大会開催時のゴミの分別・持ち帰り、公共交通機関利用の呼びかけ
- ・大会会場でのスポーツと環境保全に関するポスター掲示
- ・エコフラッグムーブメントへの賛同
- ・チャレンジ25のチャレンジャー登録完了

4. 今後の活動について

今後は、チャレンジ25で推奨している6つのチャレンジのうち、特に以下の事項について推進を継続していきたい。①クールビズ、ウォームビズの実践 ②マイバッグ、マイボトルの使用③公共交通機関の利用 ④カーボンオフセット商品の選択 ⑤地域の環境イベント参加また、啓発ツールを利用して、ホームページでの啓発にも力を入れていきたい。さらに、国際協会とタイアップして、国際レベルでの展開も視野に入れている。

(2) JOCスポーツ環境専門部会員の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

板橋 一太 部会員

日本スポーツの役割がさらに増大

3.11後の事態

産業革命以後の国民生活から生じる炭酸ガスの排出量の増加が地球規模の気候温暖化を招き、積雪量の減少、大気汚染、水質汚濁などスポーツを行う環境にも大きな影響を及ぼしているため、その直接の影響を受けるスポーツ選手は立ち上がる必要があること、気候変動はスポーツのみではなく人類の生存にかかわる問題だから、言動に国民の注目が集まるアスリートは積極的にその先頭に立つ必要があること、というのが東日本大震災が発生する前の私たちの考えの原点であったように思う。しかし、その前提として、日常的に生じる自然災害についてはその重大性について認識に甘さがあったことを痛感している。3.11の規模と被害の状況、また派生して起きた原子力発電の様々の問題はその悲惨さと回復の困難さにおいて私たちの想像を超えるものであった。

それまでは炭酸ガスを排出する化石燃料にエネルギーを依存することが最大の問題点だったのだが、3.11という自然災害の怖ろしさを目の当たりにしてこのような問題にスポーツ界としてどのようにかかわるのか、どういう協力ができるのかという深刻な疑問が生じたことと、また化石燃料に代わる代替エネルギーの開発では特に問題となっていなかった原子力発電の脆弱性が明らかになることにより、原子力発電による電力供給量をもカバーする再生エネルギーの必要が飛躍的に重要な意味を持つようになったという変化が生まれている。

オリンピック招致と環境問題

IOCはオリンピックをスポーツ競技とスポーツ競技大会の最高の舞台と位置付けており、オリンピックではスポーツ選手が持てる力を最大限発揮できるようにするとともに、ドーピング問題や環境問題その他国民の自由な交流、人種的偏見の排除など世界が直面する様々の課題に対応して人々が叡智を結集する象徴的な場となるよう努力している。

2016年オリンピックの東京招致は残念ながら失敗しリオデジャネイロに勝利を譲ったものの日本の招致委員会が策定した招致計画書に関しては技術的観点から高く評価されている。評価の観点は幅広くここでいちいち紹介する余裕はないが、環境問題を取り上げると、オリンピック期間中のCO₂排出を最小限に抑える一方削減努力を最大にすることによりカーボン・オフセットどころか長いスパンで見るとカーボン・マイナスを実現するというのが関係者の関心を集めた。そのためにオリンピック会場には自然の緑を豊かにし、海上施設には屋上に太陽光パネルを貼りめぐらすなどの計画が盛り込まれた。

当時、私は計画立案の作業部会の委員をしていたので風力発電のための風車を東京湾に林

立させたらどうかと提案したことを記憶しているが、今、原子力発電の先行きが不透明で電力を再生エネルギーに依存する度合いが飛躍的に高まっている現状ではそのような思いをますます強くしている。

もっとも、会場設営の問題は環境問題にオリンピックがどのように対処するのかという全体図式からすればごく一部を占めるに過ぎない。むしろ注目されるのはスポーツ界が全体としてこの問題に取り組んでいるのかということであり、特にスポーツ選手の意識や活動が課題となる。そのような観点からは日本のスポーツ団体やスポーツ選手の意識は既に高い水準にあると認識している。

スポーツ団体の活動

たまたま経験したことであるが、実は、3.11の数年前に3.11で大きな被害を被った南相馬市を訪れたことがある。夏で、サーフィンの団体が全国各所で海浜の環境清掃を行う日であった。その激励に行ったのであるが、早朝にもかかわらず市の関係者や青年団が総出で若者を中心としたサーファーの清掃活動を激励していただいていたことを思い出す。その日の参加者の中には大震災の犠牲になられた方もいるということを風の便りに聞き心が痛む。このような活動が多くスポーツ団体で展開されている。オリンピック招致に関するIOCからの質問書にはスポーツ団体やアスリートの意識や活動を問う箇所があるがこの点では日本がトップの評価を得ることは間違いないと信じている。JOCの「スポーツと環境専門部会」の活動も少なからずそれに貢献していると確信している。

小林 光 部会員

私は、仕事が、教育や研究を通じて環境保全に貢献することなので、この本務の進捗状況について報告とともに、関連の業務、私事（家事等）を通じての環境保全についても併せて報告を行う。

（1）慶應大学（湘南藤沢キャンパス）での教育研究など

環境関係の講義を2学期合計で学部レベル2科目、大学院レベル2科目行った。また、学部レベル、大学院レベルの研究指導をそれぞれ週2時間ずつ通年行いました。さらに、大学では、折からの節電を実行するため、節電本部を設けることとなり、私が本部長を拝命しました。教員、職員、学生が一体となった活動を行った結果、東電から購入する電力を30%強削減することに成功できた。

（2）家庭での環境保全

拙宅は築後12年だが、羽根木エコハウスとして知られている。23年3月の東日本大震災を経験したので、拙宅でも防災対策を兼ねて、新エネ利用の拡充、節電の強化をすることにした。太陽光発電パネルを現行の2.3kWに加え、140W、そして70Wと2か所に独立電源として増設し、800Wh容量の蓄電池も導入。さらに、LEDや自動消灯スイッチを増設をした。この結果、昨年実績比通年ベースで20%以上、夏季の節電期間に限ると30%以上の節電に成功できた。

（3）その他

慶應大学での環境への取組みに関しては私立大学環境保全協議会や環境人材コンソーシアムといった、全国対象の会議でご披露し、経験の共有・普及に努めた。また、本務の教育研究の成果や家での環境取組みのコツなどに関して、例えば、京都議定書以降の国際温暖化対策の在り方から、足元では、エコハウスの在り方までをテーマにして、各所で講演をしたり、論文を書いたり、あるいは検討会や勉強会の座長や委員として活動し、各界各層の取組みの参考に供させていただいた。

松岡 修造 部会員

日本テニス協会における啓蒙活動

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓蒙活動を積極的に行った。

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ開催概要

日程	対象	会場
2011年6月8日（火） ～10日（金）	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された 17歳以下の男子ジュニア選手12名	エストレーホテル&テニスクラブ



日程	対象	会場
2011年11月8日（火） ～13日（日）	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された 14歳以下の男子ジュニア選手16名及び17歳以下の 男子ジュニア選手5名（前半と後半に分けて開催）	荏原湘南スポーツセンター



日程	対象	会場
2012年3月6日（火） ～9日（金）	松岡修造とJTA ナショナルチームに選抜された 15歳以下の男子ジュニア選手16名	味の素ナショナルトレーニングセンター



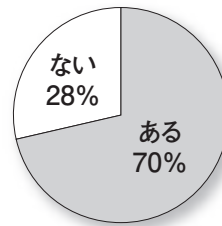
(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

平成23年度JOC加盟団体を対象に8年前から、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立てている。その7割の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると解答を得た。

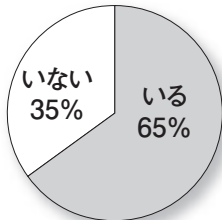
【平成23年度】

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか

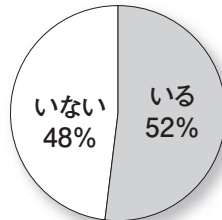


2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

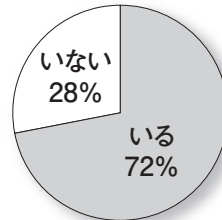
ア 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



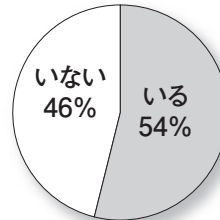
イ 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするようにすすめている

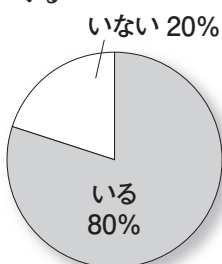


エ 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

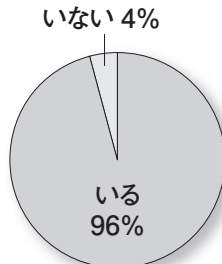


3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

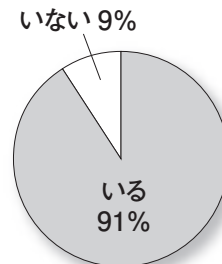
ア 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮している



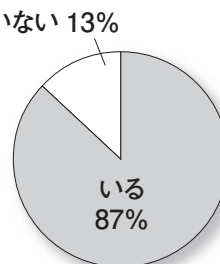
イ ごみの分別を実施している



ウ ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

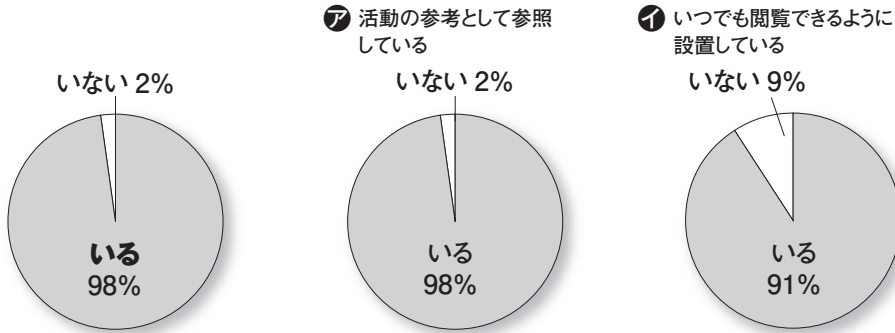


エ 会場設営、運営の際、環境に配慮されるよう働きかけている

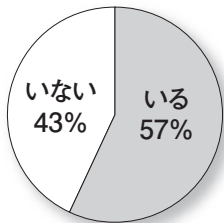


4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

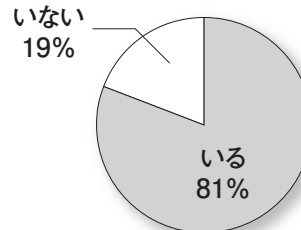
いると答えられた場合：どのように活用していますか



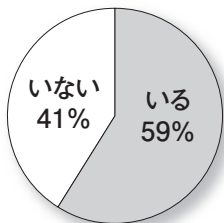
5 機関誌、大会プログラム等に環境保全について掲載していますか



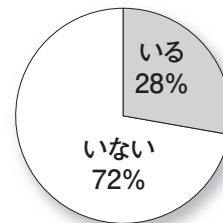
6 事業実施の時に、横断幕、ポスターおよびパンフレットを配布していますか



7 会議、大会開催時に環境についてのスピーチを行っていますか



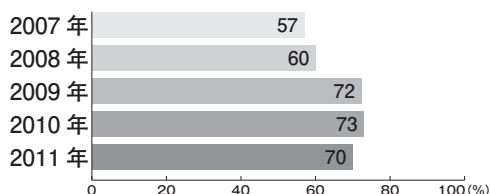
8 貴団体は環境省の『チャレンジ25』のチャレンジャー登録をしていますか



【年次推移】

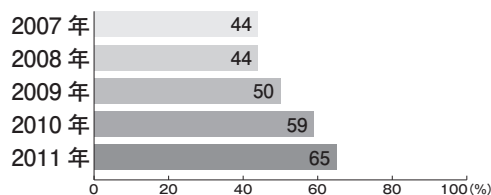
※数値はすべて「はい」の割合
※過去5年の推移

1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか

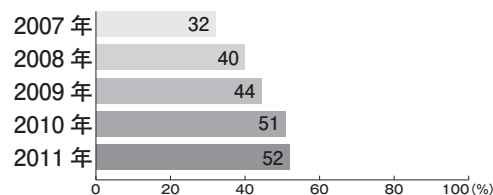


2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

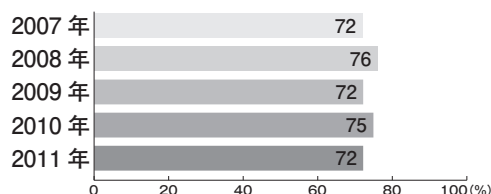
ア. 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



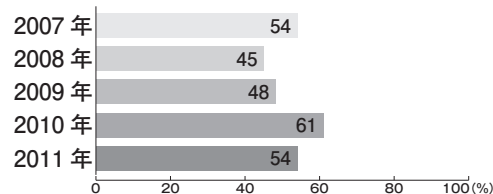
イ. 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ. トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう進めている

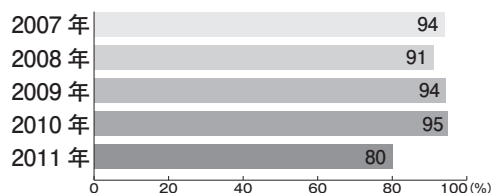


エ. 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

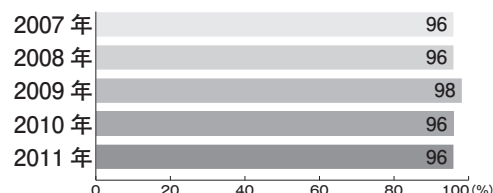


3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

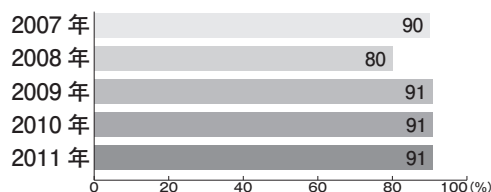
ア. 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮している



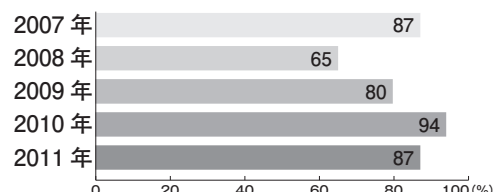
イ. ゴミの分別を実施している



ウ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

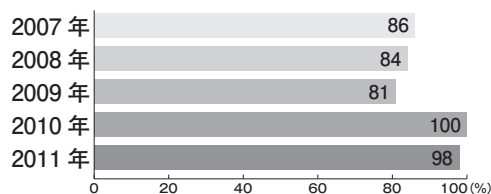


エ. 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する(2011年：会場設営、運営の際、環境に配慮されるよう働きかけている)

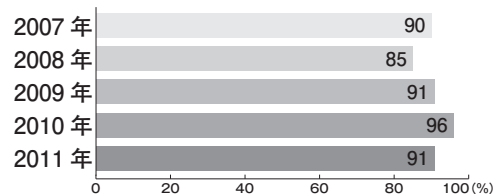


4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している



(4) 環境省との連携について

Collaboration with the Ministry of Environment

地球温暖化防止のための連携活動 「チャレンジ25キャンペーン」

JOC と環境省

JOC は、京都議定書に基づき温室効果ガス排出量を2012年に、1990年比 6 %削減するための国民運動「チーム・マイナス 6 %」に、発足時の2005年から参加。加盟団体及びアスリートを通じ、スポーツ界から温暖化防止を積極的に発信すると共に、CO₂排出削減に向けたアクションを実践してきた。

また、政府は2010年より新たに「チャレンジ25」を展開。地球と日本の環境を守り未来の子どもたちに引き継いでいくために、2020年までに1990年比で25%の温室効果ガス排出量の削減を目指し、オフィスや家庭などで実践できる CO₂削減に向けた具体的な行動として「6つのチャレンジ」を提案している。

JOC はこれまで同様、その運動に賛同するとともに、「チャレンジ25キャンペーン」の「チャレンジャー」として、CO₂の削減運動の「啓発」と「実践」に取り組んでいく。

その一環として、2011年6月17日に東京・渋谷区のNHKホールで開催した「オリンピックチャリティーコンサート」では、会場入り口に「チャレンジ25キャンペーン」のブースを設け、日々の暮らしの中で実践できる具体的なアクションを紹介するとともに、訪れた方に「チャレンジ25宣言」への登録を呼びかけた。

また、10月10日（月曜日・祝日／体育の日）、味の素ナショナルトレーニングセンターなどで開催された「スポーツ祭り2011」にて、チャレンジ25キャンペーンの特設ブースを出展。温暖化防止の普及啓発と共に、ウォームビズへの賛同を呼びかけた。

ウォームビズは、温室効果ガス削減のため、過度な暖房使用を控え、室温20℃でも快適に過ごすことのできる冬のライフスタイルを推進するもの。

当日、来場者は、ボールを9つの的に当てるゲーム「ストラックアウト」に挑戦。的には環境省が提案する、衣・食・住といった日常生活で実践できる取り組みが描かれ、ゲームを楽しんでもらいながら地球温暖化防止を紹介することができた。

2011年12月2日に味の素ナショナルトレーニングセンターで開催された「第8回スポーツと環境担当者会議」では、環境省の地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室の相澤和春係長が登壇し、「環境省における国民運動の展開」について紹介。チャレンジ25キャンペーンについての具体的な展開とその効果を説明するとともに、スポーツ界と環境省との一層の連携を呼びかけた。

Think Globally、Act Locally

IOC は UNEP（国連環境計画）と連携してオリンピック事業において数々の取組みを行

っている。JOCもIOCと協調し、「Think Globally、Act Locally（地球規模で考え、足もとから行動する）」を環境スローガンに掲げ、スポーツ界の模範的リーダーとして、政府・環境省と連携を重ねながら、積極的に環境保全運動を推進していく。


チャレンジ25宣言

私たち 公益財団法人 日本オリンピック委員会 は、
「チャレンジ25キャンペーン」に参加します。

スポーツ を通じて、
地球温暖化防止に努めることを
宣言します。

企業・団体名：公益財団法人 日本オリンピック委員会
代表者名：会長 竹田恒和

未来が変わる。日本が変わる。



ハード面（全10項目）

1. 照明の高効率化をしよう。
2. ヒートポンプ等の導入により給湯を高効率化しよう。
3. 空調の高効率化をしよう。
4. 太陽光・風力発電を導入しよう。
5. 建築物を断熱構造にしよう。
6. コージェネレーション設備を導入しよう。
7. 昇降設備を高効率化しよう。（インバーターシステム・人感センサー等の導入）
8. 事務用機器を高効率化しよう。（エネルギー効率の高い複写機／電算機／PC等の導入）
9. 省エネ性能の高い家電機器を導入しよう。
10. 温室効果ガス排出量の見える化を図ろう。（BEMS、CASBEEなど）

ソフト面（全10項目）

1. グリーン購入を推進しよう。
2. エコカーやカーシェアリングを活用しよう。
3. 社員教育に力を入れよう。
4. エコ通勤を推奨しよう
5. 照明のこまめな消灯、間引き点灯を心がけよう。
6. PC、テレビ、コピー機等のスイッチOFF運動を始めよう。
7. ターレビズ・ウォームビズを実施しよう。
8. 節水を心がけよう。
9. ペーパーレス等ゴミの削減を心がけよう。
10. 地域の温暖化防止活動に参加しよう。

その他（独自の設備、製品、取組）

<http://www.challenge25.go.jp>

「チャレンジ25宣言」

(5) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Lecture draft on Sport and Environment

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。

「私達スポーツを愛するものは環境保全の大切さを理解し温暖化防止などにエネルギー・資源の節減やゴミの分別などできる事から実行しましょう」

スポーツと環境について5分レクチャー原稿

5分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- ① スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。
- ② 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

(2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります。

- ① 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。
- ② ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
- ③ よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

(3) Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできる事を実行する)

- ① 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ② そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単な事です。

2. 協力依頼

(1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう。

- ① 地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、私たちの環境が破壊されています。
- ② 農業、漁業、多くの産業が気候変動によって大きな打撃を受けています。
- ③ 生態系の根本である食物連鎖が途切れて絶滅種が多くなりつつあります。

(2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています。

- ① エネルギー資源を節減する為に3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行
 - a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
 - b. 再使用 (Reuse)。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫することです。

例えばサイズの問題で着る事ができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

- c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手に分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)
- ②夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減
- a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
 - b. 夏はできるだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クール・ビズ)
- ③ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。
- a. 『混ぜればゴミ、分ければ資源』の言葉通り、廃棄物を分別する事で資源として再利用やリサイクルが可能になります。
 - b. 日常生活やスポーツ活動の中でも分別を心がけましょう。
- ④温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について15分レクチャー原稿

15分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人です（宇宙船地球号の乗組員）

- ①46億年前に地球は形成されました。
- ②300万年前に人類が地上に出現しました。
- ③1万年前に大家族制による農業革命が occurred しました。
- ④20世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした。
- ⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。
- ⑥環境問題を列記してみましよう。
 - a. 地球温暖化
 - b. オゾン層破壊
 - c. 酸性雨
 - d. 野生生物種の減少
 - e. 森林の減少
 - f. 地球規模の砂漠化
 - g. 海洋汚染

- h. 有害廃棄物の越境移動
- i. 大気汚染

2. スポーツと環境についての理解

- ①スポーツを愛する私たちも皆、地球人。
 - a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です。
 - b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。
- ②私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にすることを義務があります。
 - a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。
 - b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
 - c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。
- ③ Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできる事を実行する。)
 - a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
 - b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単な事です。

3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

- ①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。
- ②1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）。
- ③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
- ④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。
- ⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。
- ⑥1994年IOC100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催。
- ⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。
- ⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。
- ⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
- ⑩1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）でOlympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された。
- ⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
- ⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
"Give The Planet A Sporting Chance" Olympic Movement's Agenda 21の実践。
- ⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者（選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連携を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。

- ⑭2005年第6回 IOC スポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
- ⑮2007年第7回 IOC スポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
- ⑯ IOC ジャック・ロゲ会長が IOC のスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。
- ⑰ IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。
- ⑱ IOC は UNEP が進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

4. 協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

- ①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。
- ②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

- ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
- ②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約25日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
- ③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
- ④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

- ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
- ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。
- ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。
- ④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

- ①エネルギー資源を節減する為に3R（Reduce, Reuse, Recycle）の実行。
 - a. 削減（Reduce）。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）
 - b. 再使用（Reuse）。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事ができなくなったウェアを使える人に回して

はどうでしょう。

- c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)

(6)夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

- a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
- b. 夏はできるだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クール・ビズ)

(7)温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用 (二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用) をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について30分レクチャー原稿

30分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人 (宇宙船地球号の乗組員)

- (1)46億年前に地球は形成されました
- (2)300万年前に人類が地上に出現しました
- (3)1万年前に大家族制による農業革命がおこりました
- (4)20世紀は人類の転換期 (文明の急速発達) でした
- (5)便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染がすすんでいます

2. 環境問題を列記し問題とその影響を見てください

I. 地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加する事によって地球の平均気温が上昇

- (1)海面水位上昇による土地の喪失
- (2)豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
- (3)生態系への影響や砂漠化の振興
- (4)農業生産や水資源への影響
- (5)マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

II. 大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物と

なり、雨などに取り込まれ地上に降る現象

- (1)森林の衰退
- (2)湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
- (3)歴史的な遺跡や建造物などへの影響

Ⅲ. オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊する事

- (1)皮膚がんや白内障の増加
- (2)免疫抑制などによる人の健康への影響
- (3)動植物の生育阻害など生態系への影響
- (4)大気汚染などの影響

Ⅳ. 野生生物の減少

森林（熱帯林）の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題

- (1)遺伝子資源の減少
- (2)観光・レクリエーション資源の減少
- (3)生態系の破壊
- (4)食物連鎖の破壊

Ⅴ. 森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

- (1)そこに生息する野生生物種の減少
- (2)土壌（表土）の流失
- (3)森林に蓄積された炭素がCO₂となって放出される事による温暖化の進行
- (4)水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

Ⅵ. 地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化

- (1)食糧生産基盤の悪化
- (2)生物多様性の喪失
- (3)貧困の加速
- (4)気候変動への影響
- (5)都市への人口の集中
- (6)難民の増加

Ⅶ. 海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿

岸の開発など様々な人為的要因により進行

- (1)生態系の破壊
- (2)漁業資源や観光資源の喪失
- (3)有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

VIII. 有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

3. スポーツと環境についての理解

(1)スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です
- b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります

(2)私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

- a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能です
- b. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります
- c. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きていても地球からのバックアップ無しには生き続けられないのです

(3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)

- a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです
- b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てば出来る簡単な事です

4. スポーツと環境活動の簡単な経緯を見てみましょう

- ①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
- ②1976年デンバーオリンピック大会開催返上 (経済・環境問題)
- ③1990年まで IOC は環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
- ④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた (スポーツ・文化・環境)
- ⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名
- ⑥1994年 IOC 100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催
- ⑦1995年 IOC にスポーツと環境委員会設置
- ⑧1995年第1回 IOC スポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催
- ⑨1997年第2回 IOC スポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催
- ⑩1999年第3回 IOC スポーツと環境世界会議 (ブラジル・リオデジャネイロ) で Olympic Movement's Agenda 21 (オリンピック運動の環境保全規約書) を採択、IOC で承認された
- ⑪2001年4月 JOC にスポーツ環境委員会設置、活動を開始

- ⑫2001年11月第4回 IOC スポーツと環境世界会議を長野で開催
"Give The Planet A Sporting Chance" Olympic Movement's Agenda 21の実践
- ⑬2003年第5回 IOC スポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催
スポーツ関係者（選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された
- ⑭2005年第6回 IOC スポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催
- ⑮2007年第7回 IOC スポーツと環境世界会議を中国・北京で開催
- ⑯ IOC ジャック・ロゲ会長が IOC のスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた
- ⑰ IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞
- ⑱ IOC は UNEP が進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明

5. 協力依頼

- (1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう。
- (2)「持続可能な開発」と「持続可能性」
 - ②『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスがちょうどいい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。
 - ③『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。
- (3)循環型社会の形成
 - ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
 - ②例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間（約25日）処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
 - ③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
 - ④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。
- (4)ゼロ・エミッション
 - ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
 - ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物の分別回収をすれば、それらは又資源となるのです。
 - ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。
 - ④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です
- (5)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸

化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行

- a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
- b. 再使用 (Reuse)。同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
- c. リサイクル (Recycle) 使えなくなったものを上手く分解して素材ごとによりサイクルし他の物資にして使用することです (例：ペットボトル→繊維)

(6)エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる

- ①冬には暖かい下着を着用し、またもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。(ウォームビス)
- ②夏は出来るだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クールビス)

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください

6. スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

(1)会場立地

- ①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。
- ②施設建設が自然を大きく破壊する事がないように配慮する
- ③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する

(2)施設

- ①施設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くす事
- ②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放する事で暑い空気を天窓から出す事で涼しさを保つ工夫をする
- ③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める

(3)運営

- ①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレイ画面で仕事の処理ができるように努める。
- ②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする

(4)役員

- ①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践されるよう啓発活動を行なう。
- ②役員は身の周りのできる環境保全活動を率先垂範で実践する

(5)選手・コーチ

- ①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす
- ②選手（特にトップ選手）は衆目を集めるので、環境保全に対する理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする

(6)オフィスワーク

- ①スポーツに拘るオフィスはスポーツ環境の概念を良く理解してオフィスワークに活用する
- ②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行なう。

(7)観客

- ①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行なう。
- ②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。又各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい

(8)用具

- ①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する
- ②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの
- ③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの
- ④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品（混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない）
- ⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する
- ⑥有害物質は全く使わない（塩化ビニール・フロンなど）

(9)メディア

- ①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。
- ②メディア活動においても省資源・省エネを促進する

7. 低炭素社会（ローカーボン・ソサエティー）の構築

地球温暖化が気候変動を顕在化させる中、2007年にIPCC（気候変動に関する国際パネル）と温暖化を明快に解説し警鐘を鳴らす映画「不都合な真実」を制作したアル・ゴア米前副大統領にノーベル平和賞が授与された。

高度文明で排出される二酸化炭素ガスやCO₂の23倍の温室効果があるメタンガスなどが温室効果ガスとして温暖化を引き起こしている。

二酸化炭素ガスを吸収し酸素を放出する炭酸同化作用（光合成）を用いて炭酸ガスを減少させ酸素を多くするため植樹を促進しつつある。

各種活動で排出される温暖化ガスを植樹する事で相殺することをカーボンオフセットと言い、その植樹の費用を対価として支払う事も可能とされる。

エネルギーと資源の削減などと植樹で大気中の温暖化ガスを減少させることで低炭素社会の構築を目指す事が求められている。その結果として地球温暖化の進行を遅くし、地球の持続可能性を向上できると考えられている。

8. スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です。

- ①気の長さ
- ②忍耐力
- ③継続力
- ④適正なペース
- ⑤実効性
- ⑥リーダーシップ

9. 関係者のパートナーシップと環境保全道具箱の理解と実践

スポーツ界で環境保全活動を進めるために二つの有効な提言がなされています。

(1)関係者のパートナーシップ

スポーツ界ではオリンピック大会運営からグラスルーツのスポーツ活動に至るまでスポーツの現場で活動にかかわる関係者（Stakeholders）が環境保全に対して明確な方針の下、協力する所謂パートナーシップが求められています。例えばオリンピック大会を考えると、関係者はIOC、NOCs、IFs（国際スポーツ競技連盟）、NFs（国内競技連盟）、競技者、役員、組織委員会、政府、地方自治体、観客、メディア、スポンサー、公式サプライヤー、運送業者、施設建設業者、施設管理者などで、これら関係者が組織委員会の環境方針を理解してパートナーシップによる協働体制で保全活動を実践することが大切です。

(2)「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」

バンクーバー組織委員会とスイスのAISTSがSSET（Sustainable Sports and Event Toolkit）「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」を考案しました。これはイベントなどで包括的に対策を実践できるように必要な要素を網羅しています。それらは1. 持続性への信念と戦略立案 2. 遣り繰り・管理 3. 会場立地と建設手法 4. 会場とオフィスの管理 5. 地域社会と商流 6. 輸送と宿泊 7. 食堂、食事・飲物 8. マーケティングとコミュニケーションの8つです。スポーツの現場、イベントの現場でこの要素を一つずつ検証して明確な考えを入れ込んで有効な活動にすることが大切なのです。

10. スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

5 IOCスポーツと環境委員会について

IOC Sport and Environment Commission

「何故、私たちは環境保全に力を尽くすのでしょうか？」

1990年代初頭、オリンピック運動はスポーツと文化に加えて環境を第三の柱とすることが提唱され、IOC スポーツと環境委員会はスポーツ界における環境保全の啓発・実践の象徴として、オリンピック競技大会における環境保全活動を組織委員会と共に強力に推進してきた。

それ以来、オリンピック大会は適格な環境に配慮した大会運営がなされてきている。冬季大会は自然の保護・保全が大きな要素を占めるが、夏季大会は都市機能全てをカバーする環境保全の実践が求められ、毎回より高いレベルの持続可能性が追求されている。

本年度スタートした2020東京オリンピック・パラリンピック招致活動の計画にも最大限の環境対策が盛り込まれている。

東京は大変に優れた都市環境を保持しているが、2006年に策定された長期戦略「10年後の東京」が推進され、その進捗を受けて2020年までの長期計画が再策定され具体的に進められている。

例えば、都市緑化については2016年の1000ヘクタールの目標に対して2010年には463ヘクタール、海の森は88ヘクタールの目標に対して17ヘクタールがみずみずしい緑となりさらに2020年に向けてより高い目標が策定される。

2009年 CO₂排出量は2000年比8.4%減であり、エネルギー消費量は9.7%減、そして2020年までに2000年比25%減を目指している。2009年に日本は国際エネルギー機関により GDP 当たり CO₂の排出量が世界で最も少ない省エネ型国家として認められている。

東京はディーゼル車の粒子状物質排出の削減を実行し空気の質は年ごとに高くなり、水道水も WHO の飲料水基準ガイドラインをはるかに上回る高品質である。

また、世界を牽引する日本の環境技術を最大限活用した大会における持続可能性を追求する施策が計画されている。例えばエネルギーの効率化を厳しく定めた建築認証基準を定め、リサイクル建築資材の導入、仮設資材のリユース、自然採光、通風、エネルギーの最大活用などを図り、太陽光発電、ゴミのリサイクル、土に戻る原料による食器、節水機器、雨水の再利用、ハイブリッドや燃料電池車の導入などカーボンニュートラル・オフセットで環境への影響を軽減する施策を導入する計画を持っている。

このようにして世界のスポーツ界における環境保全・持続可能性向上の模範となる計画を含め、東京の高度都市機能をアピールしつつ招致活動を進めている。



日本オリンピック委員会 副会長
IOC スポーツと環境委員会・委員
東京オリンピック・パラリンピック招致委員会 副理事長／専務理事
水野正人

(1) IOCスポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

第9回スポーツと環境世界会議報告

(2011年4月30日～5月2日 カタール国ドーハ市)

【4月30日】

<テーマ> 「スポーツで緑豊かな未来を築こう」

[1] 第2回 IOC スポーツと環境賞授与

(アフリカ) 2010FIFA ワールドカップ開催都市ケープタウン

(アメリカ) 2010年第9回南米競技大会開催都市メドゥリン

(アジア) 日本水泳連盟 (JASF)

(ヨーロッパ) デンマークオリンピック委員会及びスポーツ団体連合

(オセアニア) マーシャル諸島オリンピック委員会

(このほか「特別賞」が環境問題と持続的環境技術への貢献を讃えてカタールオリンピック委員会に授与された。)

[2] 議事

<開会式>

ジャック・ロゲ会長は「われわれは若者がスポーツを通じて身体の健全な発達を図るよう願っているが、同じように若者がスポーツを通じて地球の健康に貢献することを願っている」「スポーツは改革の強力な道具になる。今、やるべき事は我々が住む惑星のためになるようにスポーツを使うことである」と述べた

<全体会1>

「環境問題に関する議論の中心に位置する“オリンピック・ムーブメント”：リオ1992からリオ2012、リオ2016へ」

(1992年の地球サミットから2012年のワールドカップ、2016年のオリンピックという流れの中で、よりクリーンでより持続性ある世界に向けてスポーツはどのように貢献できるか)

<全大会2>

国際社会の持続性のための道筋：スポーツを通じて前方に広がる道

(スポーツは問題を引き起こすのか解決に寄与するのか。環境の持続性という目標を掲げた“オリンピック・ムーブメント”はどのようにして2000年代の環境問題に寄与するのか)

<分科会A>

“グリーン経済”(緑に重きを置く経済)の中心となる緑化計画：オリンピックのパートナーたちが道を示す

(“緑”を大事にする考え方は持続性のある経済成長につながる。考え方に変化をもたらす要素とそれをスポーツを通じてどのように組み合わせ始動させるのか)

<分科会B>

持続性ある領域：各大陸からの見解

(スポーツにおける持続性の概念的枠組みから全面展開へ)

<分科会C>

スポーツとその生態学的環境汚染

(スポーツは①スポーツ活動に伴う生態学的環境汚染を減少させること、②人々の間に環境問題への認識が高まるようにスポーツの力を使うこと、という二つの大きな目標を掲げて環境活動を広めた)

<分科会D>

“緑”を重視する場合の指標を取り上げる

(生態学的環境の現状は透明性をもってモニターされなければならない。それによって環境保全についての建設的議論が可能となる)

<全大会3>

地球規模で考え身近で活動しよう：計画段階にある環境持続性保持活動を要素に分解する

(実際の活動が意図に沿って展開されるためには独自の工夫が必要である。地球規模での大々的な呼びかけによって地方が動き、様々な考え方を生み出す。)

<全体会4>

オリンピック・ムーブメントはどのように変貌しているか

(スポーツ組織が環境問題への解決策を示唆することによって人々の行動や活動を変身させることができる。)

<全体会5>

明日のリーダーたちの現在

(現在環境問題で活躍する若い世代が発言)

<<ドーハ宣言>>

緑に恵まれた未来に向けてより多くの若者を巻き込んでいくことの重要性を認識し、IOCや各国のオリンピック委員会がそのための活動を展開すること、特に貧しい環境にある地域での活動を促進し支持することを求めた。また、環境問題に関して社会の動きを加速するために関係する各方面との間で効果的なパートナーシップを構築することの必要性を強調した。

日本からの参加者：水野正人・IOC スポーツと環境委員会委員 (JOC 副会長)

板橋一太・JOC スポーツと環境委員会委員長

佐野和夫・(財)日本水泳連盟会長



6 関連資料

References

(1) スポーツ環境専門部会員一覧

Member of Sport and Environment Commission

JOC スポーツ環境専門部会

JOC Sport and Environment Commission

平成24年3月現在

役職名	氏名	所属
部会長 Chairman	佐藤 征夫 Yukio SATO	(理事)
副部会長 Vice-Chairman	佐野 和夫 Kazuo SANŌ	公益財団法人 日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
委員 Member	板橋 一太 Ichita ITABASHI	(日本スポーツ仲裁機構)
〃	岡田 武史 Takeshi OKADA	公益財団法人 日本サッカー協会 Japan Football Association
〃	橋口 陽一 Yoichi HASHIGUCHI	公益財団法人 日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
〃	風間 明 Akira KAZAMA	公益財団法人 日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
〃	鎌賀 秀夫 Hideo KAMAGA	財団法人 日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
〃	小林 光 Hikaru KOBAYASHI	慶應義塾大学
〃	生沼 明人 Akito OINUMA	公益財団法人 日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	平松 純子 Junko HIRAMATSU	財団法人 日本スケート連盟 Japan Skating Federation
〃	松岡 修造 Shuzo MATSUOKA	公益財団法人 日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	谷 雅雄 Masao TANI	財団法人 全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
〃	中村 淳子 Junko NAKAMURA	公益財団法人 全日本柔道連盟 All Japan Judo Federation
アドバイザー Adviser	水野 正人 Masato MIZUNO	公益財団法人 日本オリンピック委員会 / IOCスポーツと環境委員会委員 Japanese Olympic Committee / IOC Sport and Environment Commission, Member

■ IOC スポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

Chairman	Pál SCHMITT	
Members	Saoud Bin Abdulrahman AL-THANI Roland BAAR Michel BARNIER Andrès BOTERO PHILLIPSBOURNE Tore BREVIK Enrico CARBONE Joseph FENDT Habu GUMEL Camilla HAUGSTEN Johnson JASSON Hamad KALKABA MALBOUM George KAZANTZOPOULOS Barbara KENDALL Masato MIZUNO	Mamadou Diagna NDIAYE Théodore OBEN Jugder OTGONTSAGAAN Sunil SABHARWAL Gideon SAM Luzeng SONG Rita SUBOWO Shamil TARPISCHEV Efraim ZINGER LOCOG Representative SOCHI Representative RIO 2016 Representative PyeongChang 2018 Representative
Director in Charge	(Director of International Cooperation and Development)	

■ OCA スポーツと環境委員会

OCA Sport and Environment Committee

Chairman	Mr Kyung-Sun Yu	Korea
Members	Mr Salamat ERGESHOV	Kyrgyzstan
	Mr Masato MIZUNO	Japan
	Ms Lai Pak Leng Perry	Macau
	Mr Kutubuddin AHMED	Bangladesh
	Mr Mohamed Mahid SHAREEF	Maldives
	Mr Dion Gomes	Sri Lanka
	Mr Khin Maung LWIN	Myanmar
	Dr Tiras Odisho Anwaya BINNO	Iraq
	Mr Khaled Saleh Al-Dokheel	Saudi Arabia
	Dr Maher Khayata	Syria

■ 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧

National Federation

平成23年度 JOC スポーツ環境活動 加盟団体スポーツ環境担当者

(平成24年度3月現在)

競技団体	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(公財)日本陸上競技連盟	JAAFグリーンプロジェクト 委員長 小松邦江	副委員長：橘川眞佐志、戸松哲男、中村要一 委員：永野良一、大西清司、日隈広至、奥 裕之、宮永正俊、阿座上泰宏、川嶋史章、高村佐太郎、櫻井治男、上野祐紀子、幸地美由紀、井上有美、星野敦志、小林 晃	風間 明
(財)日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長 佐野和夫	副委員長：－ 委員：泉 正文、岩崎恭子、末弘昭人、山口善久、齋藤由紀、鷺見全弘、岡田奉代、草分容子、長谷川雪恵、有久 暢、丸笹公一郎、原田早穂、林 正洋、小川知伸	小川知伸
(財)日本サッカー協会	環境プロジェクト 委員長 岡田武史	副委員長：－ 委員：室石康弘、濱口博行、中村典宏、星野公平、窪田慎二、安達 健、島田信男、青木克史、玉利聡一、根本敦史、藤ノ木 恵	玉利聡一
(財)全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長 谷 雅雄	副委員長：－ 委員：吉田英一、冨田政利、林 辰男、山田隆、古川年正、齋藤二郎、瀬尾 洋、佐藤 昭	宮沢賢一
(財)日本テニス協会	スポーツ環境委員会 委員長 生沼明人	副委員長：吉田 友佳、堀川 忠史 委員：松岡 修造、藤田 和彦、宗 中正、秋山英宏、千葉 素久、栗野 佐登代、長塚 京子、藤代春香、鍋谷 尚映、長澤 真紀、岩見 亮	関口久美
(社)日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長 小野寺 等	副委員長：－ 委員：清水 一巳、小沢 哲史	苅谷 裕子
(社)日本ホッケー協会	総務委員会 環境部会 委員長 寺田一夫	副委員長：－ 委員：西竹武士	西中武士
(社)日本アマチュアボクシング連盟	環境部会 委員長 寺崎 誠(部会長)	副委員長：荒木 健 委員：－	内海祥子
(公財)日本バレーボール協会	環境委員会 委員長 橋口陽一	副委員長：浅草和敏 委員：上杉 忠、松浦信一、川合 庶、福田順一	橋口陽一
(財)日本体操協会	総務委員会・環境対策部 委員長 森末慎二(部長)	副委員長：－ 委員：－	八木沢則子
(財)日本バスケットボール協会	環境委員会 委員長 樋口隆之	副委員長：庄司義明 委員：成澤偉三郎、品田奥義、有本 功、羽角国広、松岡憲四郎、弘田充宏	岩本冴理
(財)日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長 岩島直巳	副委員長：鈴木民生 委員：佐々木正隆、新田俊彦、須藤範久、安藤美和子、山崎弘雄、久野千嘉子、加藤真弓、吉川敏彦	森村直樹
(公財)日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長 木野内 毅	副委員長：木本弘三 委員：黒津昌風、高橋昇士、名執一雄、谷田順一	建部彰弘
(財)日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長 鎌賀秀夫	副委員長：－ 委員：木名瀬重夫、真田栄作、本田原 明、白井正良、吉澤 昌、関貴 史	鎌賀秀夫
(財)日本セーリング連盟	環境委員会 委員長 菊池 透	副委員長：－ 委員：青山 篤、三浦、長尾、コウ	三浦タマエ
(社)日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長 守 昌宏	副委員長：加納 修 委員：後藤節哉、篠 弘明、舟喜信正、多小田一紀、小田敏郎	守 昌宏

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(財)日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長 伊藤宏幸	副委員長：兼子 真 委員：家永昌樹、羽田裕一、村上 隆	兼子 真
(財)日本自転車競技連盟	競技運営委員会 環境部会 委員長 松倉信裕	副委員長： 委員：飯田太文、奥田悦司、佐々木正人、中村雅章	志摩謙治
(財)日本ソフトテニス連盟	環境・教育部会 委員長 柳下秋久	副委員長：－ 委員：斉藤元三、神崎公宏、宮下恭子、松谷 茂、内田 斎、野際照章、本田茂雄、安藤正美	竹田 稔
(財)日本卓球協会	環境委員会 委員長 後藤広子	副委員長：佐藤 勲 委員：折居克春、小坂信彦、佐々木賢治、鈴木一雄	渡邊紗知子
(財)全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長 渡部弘道	副委員長：又吉民人 委員：岡野泰弘、宗像豊巳	清野 祐
(財)日本相撲連盟	総務委員会 委員長 竹内晋岸	副委員長：－ 委員：－	新井宏宣
(社)日本馬術連盟	スポーツ環境担当特任委員 委員長 大波多廣一	副委員長：－ 委員：－	佐藤親悦
(社)日本フェンシング協会	環境委員会 委員長 川口大三	副委員長：河原塚淳	川口大三
(財)全日本柔道連盟	柔道ルネッサンス特別委員会 委員長 山下泰裕	副委員長：細川伸二 委員：浅野哲男、朝飛 大、射手矢 岬、伊藤吉治、牛窪多喜男、大辻広文、飯屋 力、金野 潤、島谷順子、小志田憲一、田辺陽子、津村弘三、寺澤豊志、中田善久、花岡重喜、腹巻宏一、廣川充志、藤原敬生、松井 勲、向井幹博、持田達人、山口 香、山田利彦、山根和彦、山本三四郎、吉鷹幸春	坂本健司
(財)日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長 鈴木 征	副委員長： 委員：笹田嘉雄、豊嶋芳紀	上山政樹
(財)日本バドミントン協会	環境委員会 委員長 今井茂満	副委員長：近岡 昭 委員：本多修治、池田公子	今井茂満
(公財)全日本弓道連盟	未設置 委員長	副委員長：	
(社)日本ライフル射撃協会	総務委員会環境部会 委員長 松丸喜一郎	副委員長：－ 委員：永谷喜一郎、田村恒彦、高淳一	塚越ゆかり
(財)全日本剣道連盟	医学科委員会 委員長 松永政美	副委員長：－ 委員：朝日茂樹、佐々木健、高幣民雄、百鬼史訓、野見山延、菱山幸一、宮坂信之、藤本由紀子	小川俊夫
(社)近代五種協会	－	副委員長：－ 委員：－	－
(財)日本ラグビーフットボール協会	管理委員会環境部門 委員長 高野敬一郎	副委員長：－ 委員：岩上教行、大山高行、片山良太、中嶋一義	橋登紀子
(社)日本山岳協会	自然保護委員会 委員長 石倉昭一	副委員長：徳永邦光、松隈 豊 委員：青木敏雄、浅見 豊、岩崎繁夫、小川由樹、小高令子、小原美子、斎藤長作、遠山君枝、手塚福寿、廣田 博、堀江伸子、三ツ木達男、紅葉 淳、山口泰雄	松隈 豊
(公財)日本カーヌー連盟	環境対策委員会 委員長 八楸美由紀	副委員長：大城良介 委員：－	岩上禎宏
(公社)全日本アーチェリー連盟	－ 委員長 島田晴男(主担当)	副委員長：穂苅美奈子 委員：－	島田晴男
(財)全日本空手道連盟	委員長 有竹隆佐	副委員長：日下修次 委員：石田 航	石田 航
(社)全日本銃剣道連盟	－ 委員長 兼坂弘道	副委員長：藤田廣大 委員：大塚 享、関高、村井敏夫、西尾耕一郎、東昭夫、伊藤武人、上萬 涼、上村 正、渡辺邦夫	藤田廣大
(財)全日本なぎなた連盟	未設置 委員長	副委員長：	

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(財)全日本ボウリング協会	普及開発委員会 委員長 榎本隆明	副委員長：金安利和 委員：伊藤 寛、川井敏孝、曾我勝巳、橋本正和	宮内久美子
日本ボブスレー・リュージュ連盟	改正中 委員長 ー	副委員長：ー 委員：ー	池田芳正
全日本アマチュア野球連盟	スポーツ環境委員会 委員長 内藤雅之	副委員長：ー 委員：柴田 穰	柴田 穰
(特非)日本スポーツ芸術協会	未設置	副委員長：	
(社)日本武術太極拳連盟	未設置	副委員長：	
(社)日本カーリング協会	未設置	副委員長：	倉本憲男
(社)日本トライアスロン連合	ー	副委員長：ー 委員：ー	中山正夫
(財)日本ゴルフ協会	ー	副委員長：	林 忠男
(公社)日本スカッシュ協会	環境委員会・JSAエコキャンペーン 委員長 宮城島真知子	副委員長：小前ひろみ	梶田幸子
(社)日本ビリヤード協会		副委員長：	
(社)日本ボディビル連盟	環境委員会 委員長 元木俊博	副委員長：ー 委員：高岡光弘	小西康道
(社)全日本テコンドー協会	環境委員会 委員長 黒江浩二	副委員長：川津 博、阿部海将 委員：斉藤和広、山下弘之、小池隆仁、申 東準、 吉田 成、阿部勝治、牧野文彦	指方幸子
(公社)日本ダンススポーツ連盟	未設置 委員長 ー	副委員長：ー 委員：ー	岸尾政弘
(一社)日本バイアスロン連盟	ー 委員長 ー	副委員長：ー 委員：ー	ー
日本チェス協会	未設置	副委員長：	
日本カバディ協会	環境委員会 委員長 九重 卓	副委員長：林 佳子 委員：河合陽児、松橋耕二、高野一裕、津田はる、 佐藤美奈子	河合陽児
日本セバタクロウ協会	環境委員会 委員長 三澤 勝	副委員長：寺本 進、 委員：赤石量也、中塚智之、	三澤 勝
(特非)日本クリケット協会	未設置		

(2)IOCスポーツと環境委員会小史

Brief history of the IOC Sport and Environment Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題) 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた 1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コンGRESS(IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット 第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
1997年	第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京
2003年	第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ 第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ "SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クワラルンプール IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京 "FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー "INNOVATION AND INSPIRATION : HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE" 2009IOCスポーツと環境賞制定 IOCスポーツと環境・地域セミナー・サモア
2010年	IOCスポーツと環境委員会
2011年	第9回IOCスポーツと環境世界会議・ドーハ "PLAYING FOR A GREENER FUTURE" 2011IOCスポーツと環境賞授賞式
2012年	IOCスポーツと環境委員会

(3) JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究 報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟 202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開 催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの 活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”	平成20年度 (2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告 書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック 翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナ ー・広島市 第5回スポーツと環境担当者会議・ナシ ョナルトレーニングセンター 第1回OCAコンgres・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長から JOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バ ンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告 書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・ 国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)	平成21年度 (2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告 書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナ ー・福岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の 素ナショナルトレーニングセンター
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第 2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告 書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメン バーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナ ー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・ 国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナ イロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長 からJOCの活動を報告	平成22年度 (2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動 報告書作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナ ー・横浜市 第7回スポーツと環境担当者会議・味の 素ナショナルトレーニングセンター
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告 書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナ ー・クワラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの 活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナ ー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・ 国立オリンピック記念青少年総合センタ ー	平成23年度 (2011年)	ポスター(10th)作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動 報告書作成 第7回JOCスポーツと環境・地域セミナ ー・神戸市(予定) 第8回スポーツと環境担当者会議・味の 素ナショナルトレーニングセンター(予 定)
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告 書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナ ー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・ 国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北 京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長 からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナ ー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及び NFの活動を報告	平成24年度 (2012年)	ポスター(11 th)作成 平成23年度スポーツ環境専門部会報告書 作成 第8回JOCスポーツと環境・地域セミナ ー・札幌市(予定) 第9回スポーツと環境担当者会議・味の 素ナショナルトレーニングセンター(予 定)

(4) オリンピックムーブメント アジェンダ21(要約)

Olympic Movement's Agenda 21

1. 一般原則

1.1 持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182カ国の創意で採択された。

1.2 UNCED アジェンダ21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ21に基づいた独自のアジェンダ21を作成するよう求めている。

2. オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ21の目標

傘下のメンバー全員 (IOC、IF、NOC、OCOG など) およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

3. 持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

3.1 社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

3.1.1 オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

3.1.2 持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画 (UNEP) との協調が大切である。地域レベルでは IOC と NOC とが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

3.1.3 排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

3.1.4 消費者習慣の変化

無公害あるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

3.1.5 健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都市住民の健康面を大きく取り上げる。

3.1.6 人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人口を問わず、地域の状況に調和して融け込むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ましい。また、スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも大切である。

3.1.7 「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

3.2 持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピックの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

3.2.1 オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動をしなければならない。

3.2.2 環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

3.2.3 スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

3.2.4 スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関する ISO の認証を取得すべきである。

3.2.5 輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

3.2.6 エネルギー

- 過剰なエネルギー消費を抑える。
- 再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- 再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

3.2.7 主要スポーツイベントでの宿泊設備および食事サービス

- アジェンダ21の3.1.6節に従った構造を推奨する。
- 衛生条件を厳守する。
- 地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。
- 使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。

- ・再利用できない廃棄物を処理する。

3.2.8 水の管理

- ・貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。
- ・地下水または地下水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。
- ・スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。
- ・単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

3.2.9 有害な製品、廃棄物、公害の管理

- ・人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
- ・そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
- ・排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
- ・新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改善、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
- ・あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

3.2.10 生物圏の質および生物多様性の維持

オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。

- ・大気、土壌または水を汚染する。
- ・生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
- ・森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

3.3 主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援すると同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

3.3.1 女性の役割の向上

- ・女性のスポーツ振興に邁進する。
- ・従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
- ・特に教育の中核ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
- ・女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
- ・男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
- ・競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
- ・関連国際団体と共同で活動にあたる。

3.3.2 若者の役割の推進

- ・全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。

- 競技団体内で若者が自分たちに関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
- オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
- 若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。
- 子どもの人権に関する国連条約（決議44/25）の承認を宣言し施行する。
- 専門の国際団体と共同で活動する。

3.3.3 原住民族の認知および推進

- 原住民の伝統的なスポーツを振興する。
- 特に原住民発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
- これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ21の誓い

1999年10月に開催された第3回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ21の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1. アジェンダ21は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2. オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ21の勧告に従うべきである。
3. オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4. アジェンダ21の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5. 意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6. 競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれを支援していかなければならない。
7. アジェンダ21は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8. アジェンダ21の推進・改訂についての責任はIOCにある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行うスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9. IOCスポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ21の実施を監視するべきである。
10. 共同の作業委員会はアジェンダ21の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。

平成23年度 スポーツ環境専門部会 活動報告書

発行日：平成24年6月25日

編集・発行：公益財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門部会
〒150-8050

渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/>

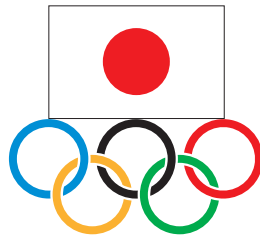
印刷：広研印刷株式会社

写真提供：アフロススポーツ

フォート・キシモト 他

問い合わせ：公益財団法人 日本オリンピック委員会 事業・広報部

TEL：03-3481-2238 FAX：03-3481-2292



公益財団法人 日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会